The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	過疎地域の持続可能性をめざした関係人口創出に関する研究
Author(s)	多田, 正治
Citation	大阪大学, 2023, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91961
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

博士学位論文

過疎地域の持続可能性をめざした関係人口創出に関する研究

多田正治

2022 年 12 月

大阪大学大学院工学研究科

論文の概要

長らく、東京にヒトやモノ、カネ、コトが一極集中するのに対して、地方はそれらが削り取られ疲弊していることが指摘されてきた。また実際に疲弊し続けている現状がある。それに対して様々な議論がなされ対策が講じられてきたが、これといった打開策がなく現在に至っている。地方では高齢化と過疎化が進んでおり、それは人口や年齢層の偏りを生じさせるだけでなく地方経済や地方文化の衰退を招き、また生産地の疲弊というかたちで都市に打撃を与えている。各自治体は人口の減少を抑えるべく U ターンや I ターンといった移住促進に向けての方策を打ち出し、定住人口の増加を試みてきた。それと同時に観光によって交流人口を増やすことも試みられてきた。しかし、日本全体の人口が増加から減少に転じたいま、人口、とくに定住人口を増やすという考えはパイの取り合いに他ならず、日本全体という視点でみれば有効な策とは言えなくなりつつある。

そうした中で「関係人口」という考え方が出てきている。定住者を指す定住人口、観光客を指す交流人口に加えて、地域外から地域に関わりを持つ人たちを示すのが「関係人口」である。

2011 年東日本大震災や 2020 年以降のコロナ禍といった、従来のライフスタイルに疑義を呈する事象が発生し、その影響かたまたま時期を同じくしただけなのか、二拠点居住や多様な働き方やライフスタイルが提唱され始めた昨今、定住人口でも交流人口でもない「関係人口」により、地方を活性化させることができるのではないかという考え方が出てきた。そこで本論文は、関係人口を創出する方策を見出すことを目的とする。

いわゆるアトリエ系設計事務所を京都で営む著者は、関西で設計業務に携わるかたわら、紀伊半島の中南部に位置する熊野地域で地域と関わる仕事にも従事している。本論文は、そのフィールドと実践を活かし、いまも過疎化、高齢化が進む熊野地域を対象としている。

本論文は以下の 4 章から構成されている。

1 章は「序論」として、過疎化、高齢化、人口減少というここ数十年の流れを再確認し、さらに既出の関係人口に関する書籍や論考を俯瞰する。また対象地域である熊野地域についての概要を述べた。

2 章「神社・寺院の維持管理と行事運営の実態　三重県熊野市を対象として」では、地域住民による各地域にある神社、寺院の維持管理や行事運営の実態を調査し、地域住民の習慣となっている構造や、また高齢化、人不足に対して講じられている省力化の類型を把握する。その結果、地域住民はそれぞれ地勢的な条件、人的なつながりに応じた、神社、寺院、小祠との複数の関わりを持ち、それが時として負担となるが、単純にそれらを廃止したり整理したりするのではなく、運営を維持するための手法を模索していることが明らかとなった。

3 章「関係人口創出のイベントの実践」では著者が、実際に熊野地域で行った活動について、関係人口に着目して論じている。具体的には「九重の竹テント」「赤倉のピザ窯」の 2 プロジェクトについてであり、その結果、専門知識を持つ著者と学生がプロジェクトによって地域に対して関係人口として関わりを持つことが示された。またプロジェクトが完了すると同時に関係が薄れるという課題点も見出された。

2 章、3 章を実態と関係人口の実践とみなしたうえで、4 章「結論」でそれらのまとめ、および提言と今後の課題を述べている。1 年また 1 年と年を重ねるごとに、人口が減り続ける地方。古くから続く祭りや風習も少しずつ、しかし着実に姿を消しており、文化を維持継承するという立場からは予断を許さない状況である。そのような状況の打開のためにも、地域と祭りやイベントの関係、そこに関わる人々の営みを知り、実践を重ねることで、関係人口創出のためのヒントを示した。

目次

第１章　序論
1-1　本論文の背景 ―― 2
1-2　熊野地域について ―― 3
1-3　本論文の目的と方法、論文の構成 ―― 6
1-4　用語の定義 ―― 6
注釈　参考文献 7

第２章　神社・寺院の維持管理と行事運営の実態　三重県熊野市を対象として
2-1　はじめに ―― 10
2-1-1　背景と目的 10
2-1-2　関連する既往研究 10
2-1-3　研究の方法と構成 11
2-2　研究対象地域の町の選定および対象地域の概説 ―― 12
2-2-1　５町の選定 12
2-2–2　山間の２町（育生町、神川町）について 14
2-2-3　海沿いの３町（甫母町、二木島里町、二木島町）について 15
2-2-4　対象地域の地縁自治団体、氏子、檀家の関係について 15
2-3　神社・寺院の日常の維持管理、行事運営の実態 16
2-3-1　選定地域におけるヒアリング調査 ―― 16
2-3-1-1　管理者について 19
2-3-1-2　日常の維持管理について 19
2-3-1-3　行事の運営方法について 19
2-3-1-4　行事参加者について 20
2-3-1-5　行事を執り行う場所、行事準備の場所について 20
2-3-1-6　まとめ 20
2-3-2　各町の行事の維持管理・運営の関わり合いの実態 ―― 20
2-3-2-1　育生町 20
2-3-2-2　神川町 22
2-3-2-3　甫母町、二木島町、二木島里町 22
2-3-2-4　まとめ 22
2-4　神社・寺院の維持管理、行事運営と関与住民のつながりの構成 ―― 22
2-4-1　地勢的な関係による連携的な運営スタイル 22

2-4-2　神社・寺院の年間サイクル　24
2-4-3　地縁的つながり、血縁的つながり、職業的つながり　25
2-4-4　神社・寺院の年間サイクルの省力化　26
2-5　まとめ　27
2-5-1　神社、寺院の維持管理、運営にみられる４つの構造　27
2-5-2　持続的な集落を実現するための神社・寺院の維持管理のあり方　27
注釈　29
参考文献　31

第３章　関係人口創出のイベントの実践
3-1　山間集落におけるマルシェイベントの為の竹による仮設テントの開発 ―KUJU MARKET を事例として　34
3-1-1　はじめに　34
3-1-1-1　背景と目的　34
3-1-1-2　既往研究　35
3-1-2　対象地域　36
3-1-2-1　九重　36
3-1-2-2　「KUJU MARKET」　36
3-1–3　設計について　38
3-1-3-1　目標と課題　38
3-1-3-2　設計および試作　39
3-1-3-3　仕様・デザインの決定　41
3-1-4　施工　42
3-1-4-1　竹の伐採　42
3-1-4-2　パネルの施工　43
3-1-4-3　組み立て　43
3-1-4-4　当日の様子　44
3-1-5　概括　46
3-1-5-1　製作してわかった竹テントの特徴　46
3-1-5-2　協力体制について　47
3-1-5-3　課題点　47
3-1-5-4　まとめ　48
3-2　山間集落におけるワーケション整備事業を通じた関係人口創出の試み 三重県熊野市育生町赤倉集落を対象として　49
3-2-1　はじめに　49
3-2-2　ワーケーション事業の概要と目的　49

3-2-2-1　ワーケーション事業の概要　49
3-2-2-2　育生町赤倉について　49
3-2-2-3　ワーケション整備事業の目的　51
3-2-3　ワーケーション整備事業の企画概要　51
3-2-4　ピザ窯の計画から製作　52
3-2-4-1　企画・設計　52
3-2-4-2　資材調達　53
3-2-4-3　施工　53
3-2-5　ワーケーション整備後の運営　55
3-2-6　まとめ　55
3–3　２事例および実践のまとめ　56
注釈・参考文献　59

第４章　結論
4-1　本研究の成果　63
4-2　提言　66
4-3　今後の目標　66

謝辞　68
参考文献　70
データシート

第１章　序論

1-1　本論文の背景
1-2　熊野地域について
1-3　本論の目的と方法、論文の構成
1-4　用語の定義

第 1 章　序論

1-1　本論文の背景

日本の地方が衰退していると言われて久しいが、地方に住む人口の問題に起因するところが大きい。人口の問題は過疎であり、高齢化であり、人口減少である。これらは連続する問題であるが、それぞれが注目された経緯や時期は異なる。それぞれについて概略を記載する。

過疎：過疎という言葉が一般的に使われるようになったのは昭和 40 年代と言われているが、それを受けて 1970 年に「過疎地域対策緊急措置法（過疎法）」が 10 年の時限立法で制定されている。過疎法はその後も引き継がれ、現在は令和 3 年に「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」として施行されている。過疎問題は、昭和 30 年代以降の高度経済成長に伴い、農山漁村地域から都市地域へと人口が流出し過疎問題が発生したとされる。

高齢化：一般的に、総人口に占める 65 歳以上の人口割合を「高齢化率」、高齢化率が 7％を超えた社会を「高齢化社会」、14％を超えた社会を「高齢社会」と呼んでいる。「高齢化社会」という用語は、1956 年の国連の報告書において、仮に定義付けされ、用いられたのが最初とされており、高齢化率は国際的に共通した尺度として使用されている [1)]。日本では 1970 年から高齢化率 7.1％を超え、高齢化社会に突入したとされており、そこから 25 年を経た 1995 年に制定された高齢社会対策基本法が制定されている。高齢化は日本全体の問題であるが、地方においてより顕著である。

人口減少：2005 年に出生数を死亡数が上回っており、そこでしばらく横ばいの状態が続いていたが、2011 年より本格的に人口の自然減少が始まっている [2)]。高齢化と同様、日本全体の現象であるが、大都市圏より、自然減少と同時に人口流出という社会減少を経験している地方においてより顕著である。

以上より、1960、70 年代に過疎や高齢化の問題が顕在化し、その状況を止める事ができないまま 2010 年に日本全体の人口減少が始まってしまい、より深刻な状態が進んでいるという現在が見てとれるだろう。

過疎を解決する方法として、その地域の人口増を目指すということが考えられよう。
政府と地方自治体は U・I ターンを増やす試みを行っているのがそれだが、しかし日本の全体の人口が減少している中、移住者を獲得しようとするのはパイの奪い合いでしかなく、問題の根本的解決にはならない状況となっている。

2010 年の林直樹、齋藤普らによる「撤退の農村計画」[3)] では、過疎地域の「積極的撤退」を実施することでインフラや資源を整理する、いわゆる選択と集中を提唱している。
2014 年に日本創生会議が発表した「増田レポート」[4)] では、2040 年までに日本の 自治

体の半分にあたる 896 の自治体が消滅する恐れがあるという内容であった[注1)]。
これらの提言の是非はともかく、地方がまったなしの危機に直面しているという事実を突きつけ、警鐘を鳴らしている。

2011 年に日本全体の人口の減少が始まり、それに呼応するように過疎地域が「消滅」するという危機への警鐘が鳴らされ始めた。そこで注目されているのが「関係人口」という考え方である。田中輝美は著書「関係人口の社会学」[5)] で関係人口が地域再生に関わった事例を紹介し、分析、考察を加えている。これは地域外の主体によって地域を活性化させる可能性が十分にありえることを示唆している。2016 年に高橋博之「都市と地方をかきまぜる」[6)]、指出一正「ぼくらは地方で幸せを見つける」[7)] で、地方自治体の掲げる地域の再生は、観光か定住促進しかなく、観光は一過性で根本的な地域再生にならない、定住はハードルが高い。つまり観光と定住の間、交流人口と定住人口の間である「関係人口」の増加を狙うことの可能性について述べている。また安藤らによる「中央省庁による関係人口創施策の動向」[8)] では中央省庁（1 府 13 省庁）が関係人口創出に向けて動いており、それらの取り組みの時系列的な流れ、および取り組みが乗り越えようとしてる課題（＝関係人口創出の阻害要素）を明らかにしている。

田中は関係人口により 3 つのステップを経て地域が再生する事例を紹介している [9)]。3 つのステップは以下のとおりである。

第 1 ステップ：関係人口が地域課題の解決に動き出す
第 2 ステップ：関係人口と地域住民の間に信頼関係が築かれる
第 3 ステップ：地域住民が地域課題の解決に動き出す

ここに関係人口から地域住民のつながり（田中は「橋渡し型」「結束型」）があり、それにより地域再生が進むと述べている。

この 3 ステップを踏むためには、まず関係人口が地域住民と関わっていくためのきっかけが必要だと著者は考える。それは①関係人口が地域住民の日々の営みを手伝う、②関係人口が地域で新規で活動を始める、もしくは③関係人口が地域住民の日々の営みを助けるような新規活動を始める（①と②のハイブリッド）、の 3 種のきっかけがあるだろうと考えている。この 3 つのきっかけのいずれかを経てよそ者が初めて関係人口となる。

1-2　熊野地域について

本研究は熊野地域を対象に行っている。著者が、建築家としての活動のフィールドのひとつとしていることもあり、また自然や歴史が豊かであると同時に、過疎、高齢化、人口減の問題を抱えているエリアでもあることから、熊野地域を対象として選んだ。

熊野地域は、紀伊半島南端部の和歌山県南部と三重県南部からなる地域で、かつては牟婁郡と呼ばれていた地域である。熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）を中心とする熊野信仰の本拠地で、古代からの古い歴史を持つ。熊野三山と伊勢、高野山を結ぶ熊野古道などが、2004 年に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」として認定され

図 1-1　神倉神社（世界遺産）

図 1-2　熊野本宮大社（世界遺産）

図 1-3　熊野古道（世界遺産）

図 1-4　山間集落（神川町）

図 1-5　棚田の風景（丸山千枚田）

図 1-6　漁村（梶賀町）

図 1-7　集落内の道（梶賀町）

た（図 1-1、1-2、1-3）。

江戸時代には紀州徳川の紀州藩の一部として繁栄したが、明治以降に 2 県に、郡として 4 つに分割されるなど地域としての解体が行なわれた。

地質的には 1500 万年前の火山活動による地盤の隆起により、急峻な山と海、リアス式海岸が形成される地形である。さらに沿岸を流れる黒潮の影響もあり、豊かな山の幸、海

の幸に恵まれた土地である。近隣に 2 つの大都市圏（関西、中京）があるが、ともに山、海により隔てられている（図 1-4、1-5、1-6、1-7）。

また熊野地域には、大学が 1 つもない (図 1-8)。高校を卒業した若者の多くは熊野を出て行く傾向にあるが、特に大学を進学を希望するものは熊野を出ざるを得ないという状況にある。若者の人口流出が止まらないと同時に、大学生がいない地域である（図 1-9）[10)]。

以上による熊野地域の地理的な条件は、ここ 40 年の過疎化の原因でもあり、また逆に、熊野地域の歴史、文化的な条件が、近年の田園回帰志向と合わさって過疎解決の希望でもある。

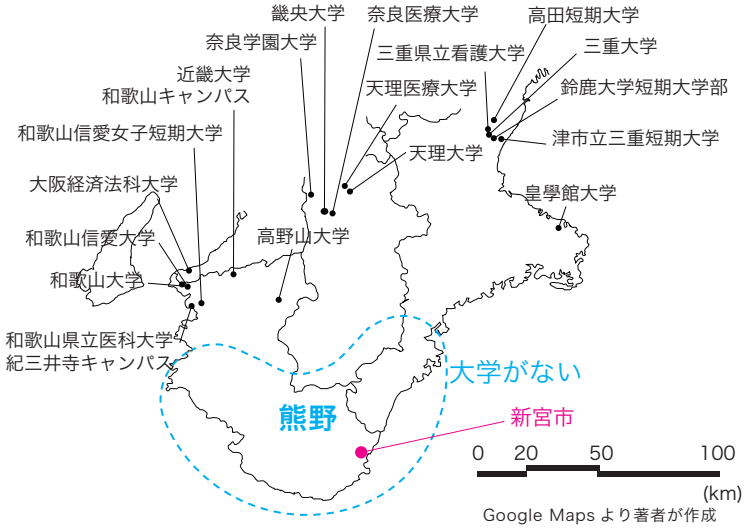


図 1-8　熊野と大学の関係性

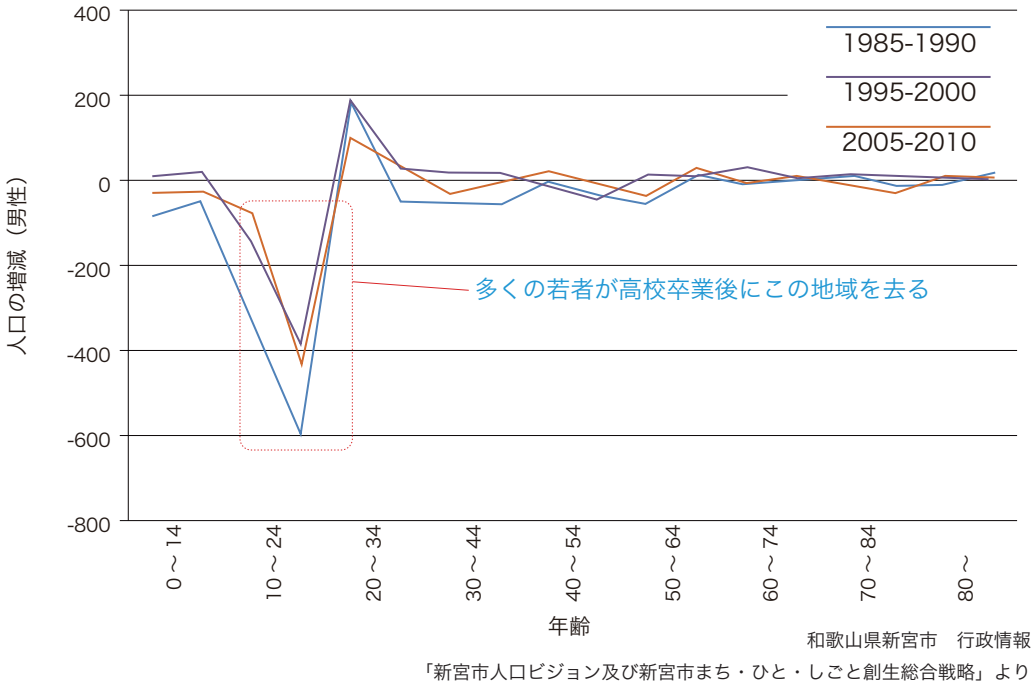


図 1-9　新宮市の移動人口と高齢化の関係（男性）

1-3　本論の目的と方法、論文の構成

本論文は過疎地域において関係人口または地域住民が地域に対する関わりとその影響を明らかにし、過疎地域における地域活性化の一助となる知見を得ることにある。

1-1 で述べた通り、関係人口に着目するが、同時に「地域住民」へのまなざしが必要である。そこで熊野地域を対象に、地域住民が主体となり実施、継続している神社・寺院の維持管理、および祭りの運営についての調査・研究を行う第 2 章と、さらに著者が大学生らの協力のもと熊野地域で実施しているプロジェクトを紹介、考察し、関係人口としての可能性を問う第 3 章という構成（図 1-10）とし、実態と実践の両輪を論じていく。第 2 章は熊野市をフィールドにした研究で、第 3 章は新宮市と熊野市についての活動である。

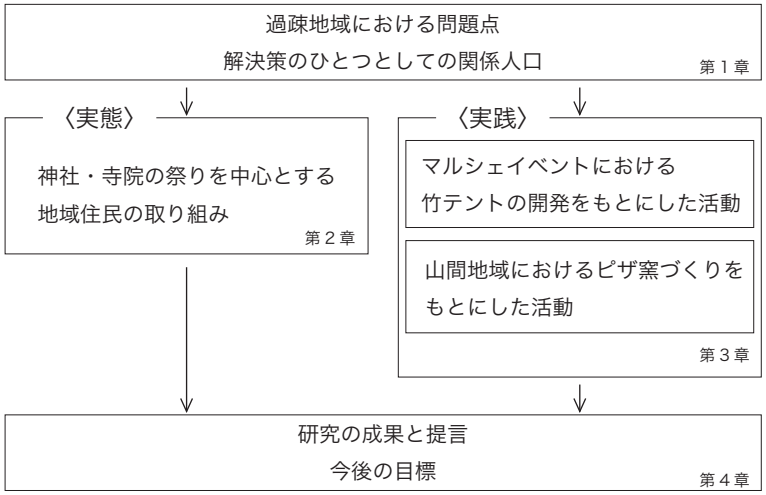


図 1-10　研究の流れ

1-4　用語の定義

本研究で使用する用語を以下のように定義する。

関係人口：特定の地域に継続的に関心を持ち、関わるよそ者[11) 注 2)]、かつ、そのよそ者に導かれ一時的に関心を持ち関わるよそ者とする。

集会施設：身近な地域活動・交流の拠点となっている施設として、集会所、センター（生活改善センター、漁民・漁村センター、コミュニティセンター、アクティブセンターなど）、市、区、町民会館、公民館を「集会施設」として取り扱う。

行事：神社寺院における祭りや、集会施設におけるイベントをあわせて「行事」と総称する。

施設原単位：人口 1000 人に対する当該地域の地域施設数の割合として、次式のように定義する。

施設原単位＝当該地区の地域施設数 ×1000　/　当該地域の人口

注釈

注 1)「増田レポート」には賛否含めて様々な議論を呼んでいる。山下祐介は著書「地方消滅の罠 :「増田レポート」と人口減少社会の正体」で全面的に反論、批判している。

注 2) 田中輝美は著書（2021）の中で関係人口の定義を試みている。その中で①空間②時間③態度の三点が重要で、具体的には①＝地域外から関わる（よそ者)②＝継続的（長期的＝定住、一過性＝観光、ではないその中間)③＝関与するだけ（例えば返礼品目当てのふるさと納税）でなく、関心を持つこととしている（表 1-1)。

表 1-1 関係人口の定義

	定義
高橋博之「都市と地方をかきまぜる」(2016)	交流人口と定住人口の間に限るもの
指出一正「ぼくらは地方で幸せを見つける」(2016)	地域に関わってくれる人口
総務省（2018)	地域や地域の人々と多様に関わる者
小田切徳美「関係人口という未来―背景・意義・政策」(2018)	地方部に関心を持ち、関与する都市部に住む人々 (意欲的な関心、行動としての関与)
河井孝仁 「「関係人口」創出で地方経済をうるおすシティプロモーション 2.0 ―まちづくり参画の意欲を高めるには」(2021)	地域に関わろうとする、ある一定以上の意欲を持ち、地域に生きる人々の持続的な幸せに資する存在
田中輝美「関係人口の社会学」(2021)	特定の地域に継続的に関心を持ち、関わるよそ者

※田中輝美「関係人口の社会学」P.075
表「関係人口の定義の整理」を著者が加筆

参考文献

1) 内閣府 , 高齢化の国際的動向 https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1_1_2.html（2022 年 10 月参照）

2) 千野雅人 , 総務省統計局 , 人口減少社会「元年」は、いつか？ https://www.stat.go.jp/info/today/009.html（2022 年 10 月参照）

3) 林直樹 , 齋藤晋 その他 , 撤退の農村計画―過疎地域からはじまる戦略的再編 , 学芸出版社 , 2010

4) 山下祐介 , 地方消滅の罠 -「増田レポート」と人口減少社会の正体 , 筑摩書房 , 2014

5) 田中輝美 , 関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生 , 大阪大学出版 , 2021

6) 高橋博之 , 都市と地方をかきまぜる「食べる通信」の奇跡 , 光文社 , 2016

7) 指出一正 , ぼくらは地方で幸せを見つける ソトコト流ローカル再生論 , ポプラ社 , 2016

8) 安藤慎悟ほか「中央省庁による関係人口創出施策の動向」日本都市計画学会 , 都市計画報告集

No.21, 2022 年 8 月 , pp204-211
9） 田中輝美 , 関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生 , 大阪大学出版 , 2021,pp.243-268
10） 新宮市 , 新宮市人口ビジョン
https://www.city.shingu.lg.jp/div/kikaku/pdf/furusato/5shiryou2-2.pdf（2020 年参照）
11） 田中輝美 , 関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生 , 大阪大学出版 , 2021, pp.73-77

第２章　神社・寺院の維持管理と行事運営の実態
三重県熊野市を対象として

2-1　はじめに
　2-1-1　背景と目的
　2-1-2　関連する既往研究
　2-1-3　研究の方法と構成
2-2　研究対象地域の町の選定および対象地域の概説
　2-2-1　５町の選定
　2-2–2　山間の２町（育生町、神川町）について
　2-2-3　海沿いの３町（甫母町、二木島里町、二木島町）について
　2-2-4　対象地域の地縁自治団体、氏子、檀家の関係について
2-3　神社・寺院の日常の維持管理、行事運営の実態
　2-3-1　選定地域におけるヒアリング調査
　　2-3-1-1 管理者について／　2-3-1-2 日常の維持管理について／　2-3-1-3 行事の運営方法について
　　／　2-3-1-4 行事参加者について／　2-3-1-5 行事を執り行う場所、行事準備の場所について／　2-3-1-6　まとめ
　2-3-2　各町の行事の維持管理・運営の関わり合いの実態
　　2-3-2-1 育生町／　2-3-2-2 神川町／　2-3-2-3 甫母町、二木島町、二木島里町／　2-3-2-4 まとめ
2-4　神社・寺院の維持管理、行事運営と関与住民のつながりの構成
　2-4-1　地勢的な関係による連携的な運営スタイル
　2-4-2　神社・寺院の年間サイクル
　2-4-3　地縁的つながり、血縁的つながり、職業的つながり
　2-4-4　神社・寺院の年間サイクルの省力化
2-5　まとめ
　2-5-1　神社、寺院の維持管理、運営にみられる４つの構造
　2-5-2　持続的な集落を実現するための神社・寺院の維持管理のあり方

第２章　神社・寺院の維持管理と行事運営の実態
三重県熊野市を対象として

2-1　はじめに

この章では熊野地域を対象に、地域住民が主体となり実施、継続している神社・寺院の維持管理と祭りの運営の実態とそこに内在する構造、また維持管理や行事運営を省力化する方法の分析について述べる。

2-1-1　背景と目的

現在、多くの地域で人口減少や高齢化により地域の持続・存続が危ぶまれており、それにともない地域の施設やインフラの維持管理について様々な問題が顕在化している。昭和30 年代以降の高度経済成長に伴い、農山漁村地域から都市地域へと人口が流出し過疎問題が発生したとされる。平成 2 年の過疎地域活性化特別措置法では、人口減少に加え、若者が少なく高齢者が多いという年齢構成の偏りにより、地域の活力が低下していることを過疎問題と捉え、対策を講じている [1)]。10 年間の時限立法である過疎地域活性化特別措置法はその後、過疎地域の自立や新しい生活圏の確立を目指して平成 12 年の過疎地域自立促進特別措置法へと引き継がれている。

紀伊半島の中心部である熊野地域でも同様で、人口減少とそれに伴う問題に直面している。また一方で熊野地域では、熊野三山や熊野古道を始めとする古代からの信仰や神社、さらには古代アニミズム信仰を祖とする無社殿神社など、多くの信仰のかたちが残っている。しかしそれらに関しても日々の管理や行事を実施する担い手･後継者不足が問題となっている。

そこで本研究では熊野地域を対象として神社と寺院の日常的な維持管理や祭りなどの行事運営に住民がどのように参画しているかを調査した上で、維持管理・行事運営に関わる構造を明らかにし、集落と寺社の維持存続や今後のあり方に関する知見を得ることを目的とする。さらに、神社や寺院と同じように地域の中で維持管理され運営されている集会施設についても調査を行い[注 1)]、神社・寺院の実態調査の補足を行っている。

2-1-2. 関連する既往研究

地域のコミュニティ拠点として神社を取り上げた研究としては西田らによる研究 [2)] や渡邊らによる研究 [3)] があり、また農村での地域活性化への住民の参画についての 斎藤の研究 [4)] がある。さらに地域コミュニティと集会所については中村による研究 [5)] があるが、本研究で取り扱う日常的な維持管理から行事（祭り）の運営まで、地域住民が関わることによる影響に着眼している研究はなく、歴史的ともいえる神社や寺院を、今日的な集会施設に近似される施設と位置づけ、両者を比較することで、新たな独自性のある知見が得られる

と考えられる。

また建築分野ではなく社会学の研究であるが冬月による書籍[6]が高知県四万十町の集落の神社と祭りについてヒアリングを中心とする調査を行っている。集落の有力者へのヒアリングなど調査の方法は類似しているが、氏子の意識をまとめている冬月の研究に対し、本研究は集落の地勢など空間に言及するため、異なる研究であるといえる。

2-1-3　研究の方法と構成

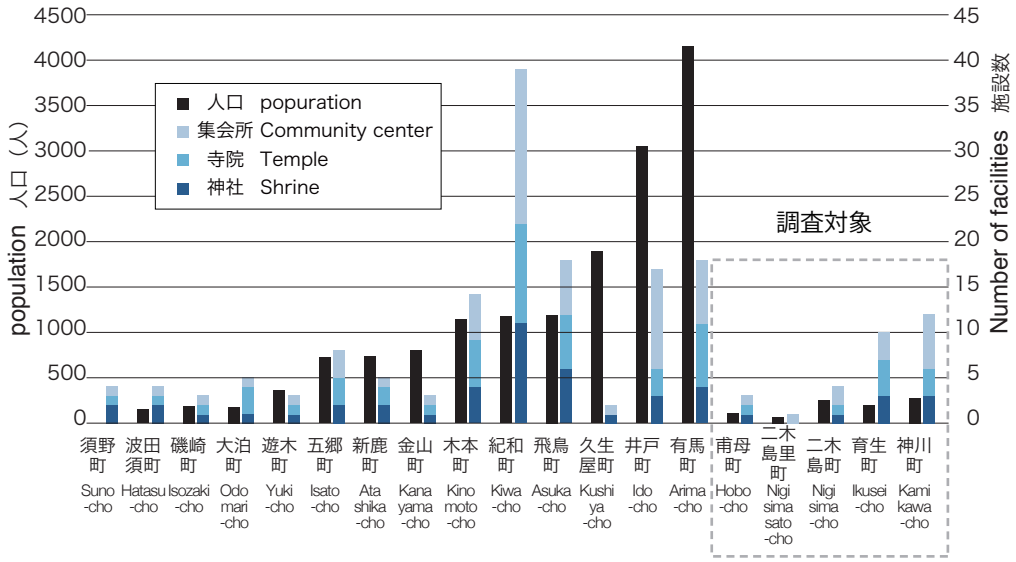


図 2-1 熊野市 19 町の人口について　(1980-2015)　2015 年国勢調査より

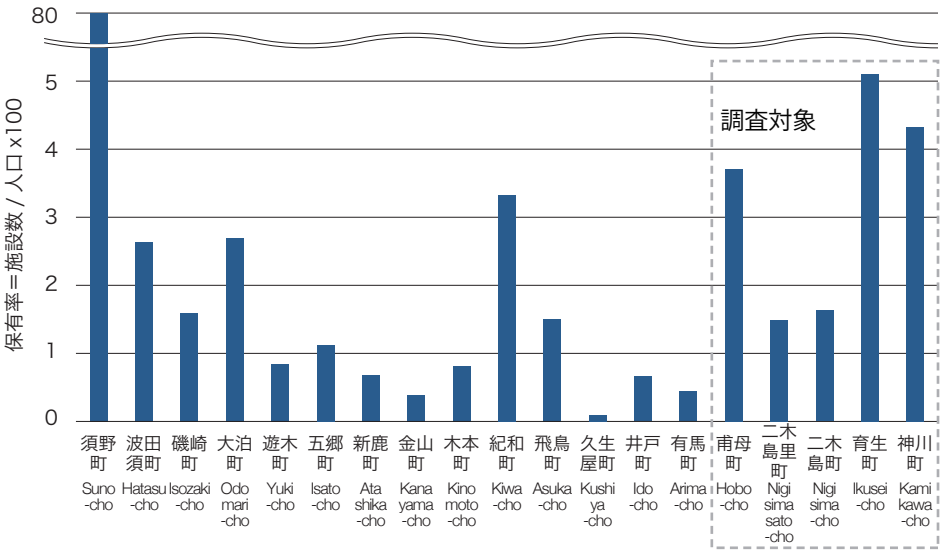


図 2-2 熊野市 19 町の施設数（2015）2015 年国勢調査より

本研究では、熊野市内全 19 町を対象に各施設の分布及び施設数を調査し、人口と施設原単位、及び地理的条件から分析、類型化することで各町の特徴を把握する。19 各町の人口と施設数の関係からさらに調査対象とする町を絞り込み、ヒアリング調査を中心に、住民による各施設の維持管理・運営の実態を把握し、それらの関係性についてを明らかにする。

なお本研究では、身近な地域活動・交流の拠点となっている施設として、集会所、センター(生活改善センター、漁民・漁村センター、コミュニティセンター、アクティブセンターなど)、市、区、町民会館、公民館を「集会施設」として取り扱う。また神社寺院における祭りや、集会施設におけるイベントをあわせて「行事」と総称する。

2-2. 研究対象地域の町の選定および対象地域の概説

2-2-1　5 町の選定

調査対象とするのは熊野市の 5 つの町（育生町、神川町、二木島町、二木島里町、甫母町）である。この 5 町は人口が 300 人以下(図 2-1)で、かつ施設原単位(100 人あたりの施設数)が 1 以上となる（図 2-2）地域である。施設原単位が大きくなると人口に対して施設の数が多いことを示しており、施設の影響を大きく受けると考えられる。

さらに 5 町は人口が数千人規模の中心市街地から 5km 以上離れており、車での移動時

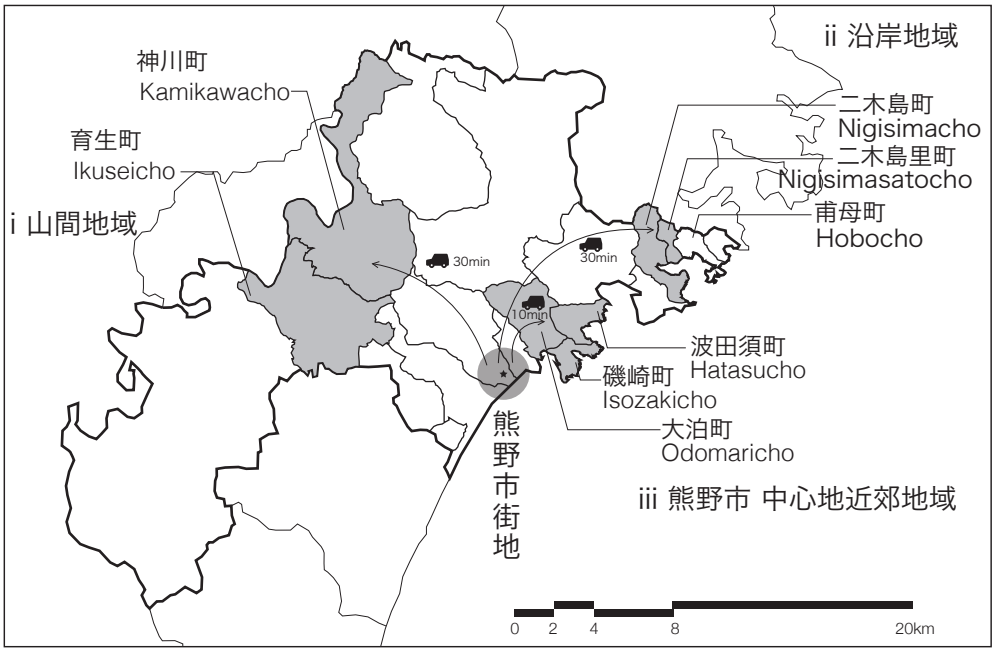


図 2-3 熊野市人口 300 人以下の町の位置関係 (須野町を除く)

間が 30 分以上かかる地域として選出している（図 2-3)。これは人口の多い地域から独立的で、影響を受けない地域として選んでいる。磯崎町、大泊町、波田須町は人口や施設原単位が調査対象の 5 町と同じ程度であるが、熊野市の中心市街地（井戸町）より車で 10

分ほどの距離の町で、地域としての独立性は担保されないため調査対象から外している。また須野町については人口数が低く（図 2-1）、施設原単位が高い（図 2-2）が、これは 2015 年の時点で人口が 5 名と極端に少ないため、調査対象からは除外した。

育生町、神川町、甫母町、二木島里町、二木島町についての各施設の分布および、各集落の構成について地図に示す（図 2-4、図 2-5、図 2-6）。3 つの地図は同一縮尺であるが、農山村地域である育生町、神川町は山間部に区が点在している。対して漁村地域の町である甫母町、二木島里町、二木島町が湾に沿って密集している。

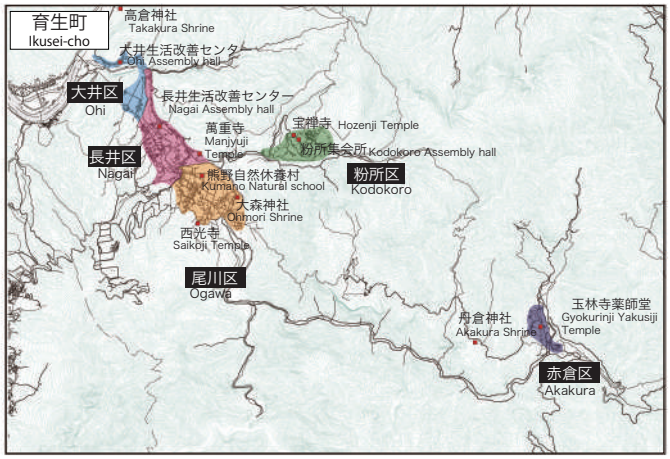
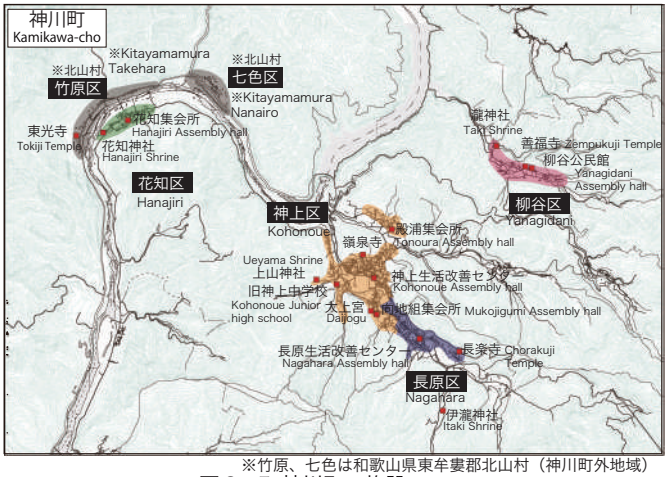


図 2 -4 育生町の施設



※竹原、七色は和歌山県東牟婁郡北山村（神川町外地域）

図 2－5 神川町の施設

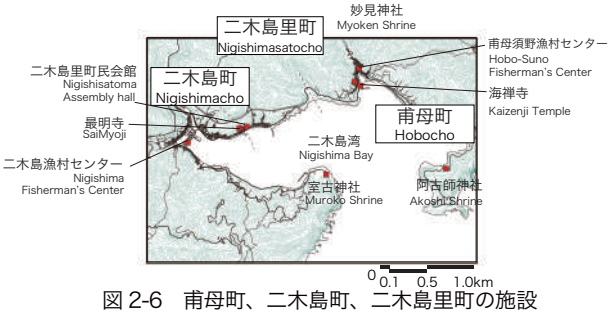


図 2-6　甫母町、二木島町、二木島里町の施設

2-2-2. 山間の 2 町（育生町、神川町）について

5 町のうち、山間の 2 町である育生町と神川町は町内のほとんどが山林で、その中に民家のまとまりとして集落が点在しており、それらが区である。対象地域のすべての区は「紀伊続風土記」の中に大井村、長井村など「村」として記述されており、かつての村が現在の区へと引き継がれていると考えられる[7]。育生町の場合、大井区、長井区、尾川区が近接し、少し離れて粉所区、5km ほど離れて赤倉区の 5 区がある（図２-4）。神川町は 4 区で構成されるが、最も人口が多い神上区とそれに隣接する長原区が中心的な区となっている。また花知区と柳谷区はいずれも直線距離で 2 ～ 3km 程離れたところに位置している（図２-5）。さらに神川町神上区は地理的なまとまりによる組（上組、中組、下組、向 地組、殿浦組）に分かれている。

それぞれの区ごとに区長が選出され、その区を地縁自治組織としてまとめている。また区長同士があつまる区長会が各町内で開き、育生町、神川町という単位での運営もなされる。神上区内の組では組長が選出され、区の下部組織として運営されている。

それぞれの区には基本的には集会施設、神社、寺院が 1 ずつある。例外として神川町神上区の組である向地組、殿浦組は独自に集会施設を持っている。結果として町を単位としてみた場合、1 町内に複数の施設を有すこととなっている。例として神上区にある集会施設「神上生活改善センター」の平面図および外観を示す（図２-7）。

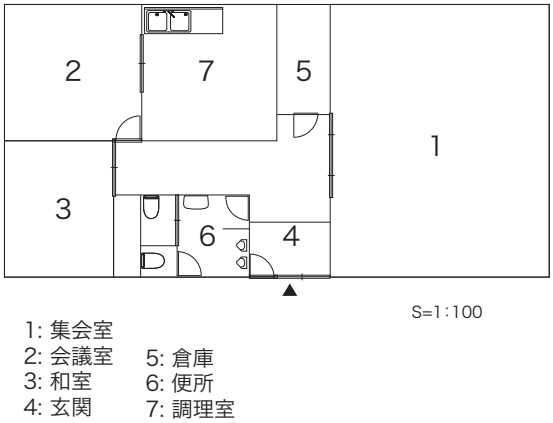


図２-7 神上生活改善センターの図面および写真

神川町には休校となっている木造校舎の神上中学校があり、毎年、神川桜まつりの会場として利用されるほか、イベントの会場として年１～２回活用されている。

各町に神社があるが、その中でも育生町赤倉にある「丹倉（あかくら）神社」（図２-8）は、神社としての社殿を持たず、巨大な岩を磐座として祀り、鳥居や灯篭、手水鉢や祭壇などの設えにより神社境内を構成している。熊野地域にはこのような無社殿神社がいくつも存在しており、今も原始宗教の名残をとどめて信仰されている。他にも、1906 年の明治政府による神社合祀令により他神社へと合祀され、記録としては抹消されているが、現在も

祭事が行われている神川町長原区の「伊瀧神社」や、組単位で信仰されている神川町神上区向地組の「大上宮」などが存在する。また神川町花知区には寺院がないが、川を挟んで対岸にある他県の寺院である東光寺を、和歌山県北山村の竹原区と七色区と共同で維持管理、行事運営している。

また、育生町、神川町とも 各区に寺院・神社以外にも「山の神」「庚申さま」「お稲荷さま」などの小祠を有し、区や組により維持管理なされている。これらも小さな祠をもつものもあれば、岩や樹木をご神体として祀るのみの無社殿のものもある。

2-2-3. 海沿いの 3 町（甫母町、二木島里町、二木島町）について

海沿いの 3 町である甫母町、二木島里町、二木島町はそれぞれ隣接し、3 町で二木島湾を囲んでいる。各町からは区長（甫母町区長、二木島里町区長、二木島町区長）が選出され、地縁自治組織として機能もしている。歴史的には「紀伊続風土記」に甫母浦、二木島里浦、二木島浦という地名の記述があり [8)]、それぞれが現在の町になっており、つまり育生町・神川町でいう区と同じ単位になっている。

3 町が面する二木島湾の両側の二つの岬の先にそれぞれ神社がある。各町に 1 ずつ集会施設があり、甫母町と二木島町に 1 ずつ寺院がある。湾の両端の室古神社、阿古師神社は二木島町と甫母町でそれぞれ維持管理されているが、祭は二社合同で行い、2 神社の間を船で競漕する二木島祭を行っていた（図２-9）（2010 年を最後に休止）。

図２-8 育生町 丹倉神社

図２-9 二木島祭り

2-2-4. 対象地域の地縁自治団体、氏子、檀家の関係について

対象地域の 5 町では、家々のまとまりである区や組あるいは町で区長、副区長などが選出され、行事や地域内の清掃などの取りまとめをしている。地理的な区や組、町が自治的地縁団体として機能している。

また日本の神社は、明治末期に行われた合祀政策によりその数を減らしており、特に三重県においては苛烈であったという[注 2)]。対象地域を含む熊野地域においても同様で一町村一社を目指して合祀を繰り返した結果、農山村地域においては一区あたり一神社、漁村地域においては３町で２神社となっており[注 3) 注 4) 注 5) 注 6) 注 7)]、それぞれの神社の氏子は、農

山村地域における区民、漁村地域における町民とほぼ一致している。

日本の寺院は明治初期の神仏分離令にもとづく廃仏毀釈運動により数を減らしているが[注 8)][注 9)]、熊野地域についても同様で一村一寺を目指していくつかの寺が廃止されている。結果、神社と同様に一区あたりほぼ一寺院となっており、寺院の檀家と農山村集落の区、漁村集落の町がほぼ一致している。なお対象地域の寺院の宗派はすべて曹洞宗である[注 10)]。

集会施設については 熊野市の条例をもとに 1965 年以降に集会施設が整備され始め、農山村地域（育生町、神川町）では農林業の振興に寄与するための施設として生活改善センターや多目的集会所が整備され、漁村地域（甫母町、二木島町、遊木町）では公設民営の漁民・漁村センターが整備された。現在では 1 つの区に 1 つの集会施設がある。

以上より、地理的な区・組・町というまとまりに対し自治的地縁団体が存在し、地域の維持管理をしていること。農山村地域の区や漁村地域の町に各 1 つずつの神社、寺院があり、さらに 1 つずつの集会施設が整備されていること。神社合祀、廃仏毀釈により神社・寺院が 1 つにまとめられた経緯があり、区や町のまとまりが神社の氏子、寺院の檀家とほぼ一致している。ということが確認された。

2-3. 神社・寺院の日常の維持管理、行事運営の実態

2-3-1. 選定地域におけるヒアリング調査

対象地域内の 12 の地域（町、区）において、各施設の利用状況と、維持管理や行事運

表 2-1　調査日および調査対象の概要

日付 date	役職　position	対象地域　target area
05/21/2017	丹倉神社所有者　Akakura Shrine owner	育生町赤倉　Akakura, Ikusei-cho
11/18/2017	神川町まちづくり協議会会長　Chairman of Kamikawa-cho Development Council	神川町神上　Kohnoue, Kamikawa-cho
11/19/2017	大森神社当屋　Omori Shrine Festival leader	育生町長井　Nagai, Ikusei-cho
	大森神社総代　Omori Shrine representative	
12/02/2017	神川町神上区長　ward mayor of Kohnoue	神川町神上　Kohnoue, Kamikawa-cho
	神川町神上区向地組長　Leader of Mukoji-gumi	神川町神上向地組　Mukohji-gumi, Kohnoue, Kamikawa-cho
12/03/2017	神川町花知区長　ward mayor of Hanajiri	神川町花知　Hanajiri, Kamikawa-cho
	花知神社総代　Hanajiri Shrine representative	
	大森神社当屋　Omori Shrine Festival leader	育生町長井　Nagai, Ikusei-cho
	育生町大井区長　ward mayor of Oi	育生町大井　Oi, Ikusei-cho
	前・育生町粉所区長　former ward mayor of Kodokoro	育生町粉所　Kodokoro, Ikusei-cho
	育生町尾川区長　ward mayor of Ogawa	育生町尾川　Ogawa, Ikusei-cho
12/09/2017	前・神川町長原区長　former ward mayor of Nagahara	神川町長原　Nagahara, Kamikawa-cho
	神川町神上区殿浦組長老	神川町神上殿浦組　Tonoura-gumi Kohnoue, Kamikawa-cho
12/10/2017	神川町柳谷区長親族　ward mayor' brother of Yanagidani	神川町柳谷　Yanagidani, Kamikawa-cho
12/26/2017	二木島町住民（元郵便局員）resident (former post office worker)	二木島町　Nigishima-cho
01/21/2017	丹倉神社所有者　Akakura Shrine owner	育生町赤倉　Akakura, Ikusei-cho
	老漁師夫妻　Old fishermen and his wife	甫母町　Hobo-cho

表 2-2　調査対象地域の神社における定期的維持管理・行事運営の実態

Table2-a					Table2-b		Table2-c						Table2-d										Table2-e
町 Town	区 District	名称 Name	概要 Overview		日常維持管理 Regular maintenance		準備 Preparation						行事（祭り） Event(Festival)	参加者 Participant					神事 Shinji	宴会（直会） Banquet(naorai)			簡略化した行事 消滅した行事
			神職 Shin-syoku	利用者（氏子） User	参加者 Participant	回数／年 Times／Year	事前の掃除 Cleaning	行事の準備 Preparing for the event						人数 Number of people	①	②	③	④	場所 Place	場所 Place	内容 Contents		Simplified events Disappeared events
							参加者 Participant	参加者 Participant	場所 Place	内容 Content													
育生町 Ikusecho	尾川区 Ogawa	大森神社 Omori shrine	▲	長井区、尾川区、粉所区 Nagai Ogawa Kodokoro	A 総代は見回り 榊の手入れ	24	C —	A 以前まで当屋 Until befor Toya	b	餅つき Mochitsuki			Nov. 23 どぶろく祭り Doburoku matsuri	300〜400 人程度 About 300 to 400 people	○	○	○	○	a	a	餅ほり カラオケ どぶろくの振る舞い Mochihori karaoke		
	大井区 Ohi	高倉神社 Takakura shrine	▲	大井区 Ohi	B 区長 総代など Director General	12	B —	C	c	食事 Meal			Nov. 23 例大祭 Reitaisai	15 人程度 About 15 people	○	×	○	×	a	b	食事 、餅ほり Meal Mochihori		
	赤倉区 Akakura	丹倉神社 Akakura shrine	▲	赤倉区 (所有者は個人) Akakura	D —		B 神社所有者 Owner	B 神社所有者 外部協力者 Owner, Volunteer	c	食事（餅は購入） Meal			Mid Nov. 例大祭 Reitaisai	50 人程度 About 15 people	○	○	○	○	a	a	食事、餅ほり Meal Mochihori		
神川町 Kamikawacho	神上区 Kounoue	上山神社 Ueyama shrine	▲	神上区 長原区 Kounoue Nagahara	A 役員は見回り 榊の手入れ	12	D —	A 40 年前まで当屋 Up to 40 years ago Toya	d	不明 Unknown			Jul. 1 水口祭 Mizuguchisai	15〜20 人程度 About 15 to 20 people	○	△	×	×	a	なし None			当屋制 虫おくり 屋台や神輿 お供え Mochihiroi Karaoke
									b	会議 Meeting													
								A 40 年前まで当屋 Up to 40 years ago toya	c	餅つき Mochitsuki			Nov. 3 秋季大祭 Shukitaisai	80〜90 人程度 About 80 to 90 people	○	△	○	×	a	旧神上中学校（体育館） school	餅ほり カラオケ Mochihori karaoke		
		大上宮 Daijogu	×	向地組 Mukouji gumi	B 当屋 Toya	12	C —	B 組長以前まで当屋 kumicho	c	餅つき Mochitsuki			Early-Jan. 例大祭 Reitaisai	20〜25 人程度 About 20 to 25 people	△	×	×	×	a	b	境内で餅ほり 常会、宴会 Mochihori Banquest		直会 Naorai
	長原区 Nagahara	伊瀧神社 Itaki shrine	×	長原区 Nagahara	D	—	C —	A 女性中心 Mainly women	b	餅つき Mochitsuki			Nov. 15 例大祭 Reitaisai	20〜30 人程度 About 20 to 30 people	○	×	×	×	a	b	餅ほり カラオケ Mochihori, Karaoke		直会 宝引き Naorai lottery
	花知区 Hanajiri	花知神社 Hanajiri shrine	▲	花知区 Hanajiri	A —	24	C —	A 女性中心 Mainly women	d	餅つき 食事 Mochitsuki Meal			Nov. 3 例大祭 Reitaisai	40 人程度 About 40 people	○	×	○	○	a	a→b	食事、餅ほり カラオケ Meal, Mochihori, Karaoke		
	柳谷区 Yanagi dani	瀧神社 Taki shrine	▲	柳谷区 Yanagi dani	A —	12	D	B 若者（以前まで当屋） Young people	d	不明 Unknown			Jun. 30 神嘗祭 Kannamesai	18 人程度 About 18 people	○	×	×	×	a	なし None			当屋制 Toya system
								B 若者（以前まで当屋） Young people	b	餅つき 食事 Mochitsuki Meal			Early-Nov. 例大祭 Reitaisai	18 人程度 About 18 people	○	×	×	×	a	b	食事、餅ほり Meal Mochihori		当屋制 直会 Toya system
二木島町 Nigisimacho		室古神社 Muroko shrine	▲	二木島町 二木島里町 Nigisimacho Nigisimasatocho	B 雇用制 Employment system	4	D	B 役員 Duty	d	不明 Unknown			Canceled in 2010 二木島祭り Nigishima matsuri	数名 Several people	△	×	×	×	a	なし None			
甫母町 Hobocho		阿古師神社 Akoshi shrine	×	甫母町 Hobocho	B 役員 Officer	12																	

凡例 神職 Shin-shoku
- ● 常駐 Resident
- ▲ 派遣 Dispatch
- × 不在 Absence

凡例 参加者 Part-icipant
- A 住民全員 All residents
- B 一部住民 Some residents
- C 当番制 Duty system
- D 実施しない Not implement

凡例 行事 Event
- a 寺院 Temple
- b 集会施設 Assembly hall
- c 各戸 Each house
- d 不明 Unknown

凡例 参加者 Part-icipant
- ① 地元区民 Local resident
- ② 同町他区民 Citizens and other residents
- ③ 元住民 Original residents
- ④ 外部 Outsaide

凡例 参加 Join
- ○ 参加 Join
- △ 一部参加 Partially participate
- × 不参加 Abstention

表 2-3　調査対象地域の寺院における定期的維持管理・行事運営の実態

Table3-a 町 Town	区 District	名称 Name	概要 Overview 住職 Ju-syoku	利用者（氏子） User	Table3-b 日常維持管理 Regular maintenance 参加者 Participant	回数／年 Times／Year	Table3-c 準備 Preparation 事前の掃除 Cleaning 参加者 Participant	行事の準備 Preparing for the event 参加者 Participant	場所 Place	内容 Content	Table3-d 行事（祭り） Event(Festival)		参加者 Participant 人数 Number of people	①	②	③	④	仏事 Butsuji 場所 Place	宴会（お斎） Banquet(naorai) 場所 Place	内容 Contents	Table3-e 簡略化した行事 消滅した行事 Simplified events Disappeared events
育生町 Ikuse cho	尾川区 Ogawa	西光寺 Saikoji	▲	尾川区 Ogawa	B 檀家 Danka	12	D —	B 総代 General	—	食事 Meal	Jan. 18	十八講 Juhachiko	30 人程度 About 30 people	○	×	○	○	a	a	食事 Meal	
	長井区 Nagai	萬重寺 Manjuji	●	長井区 Nagai	C 住職 檀家 Jusyoku Danka	4	D —	B 住職・総代 Jusyoku,General	a	餅つき Mochitsuki	Jan. 18	初観音 Hatsukannon	50～60 人程度 About 50 to 60 people	○	×	○	×	a	a	餅ほり Mochihori	Aug. 14 盆踊り 両彼岸のお斎 Bonodori otoki
	粉所区 Kodokoro	宝禅寺 Houzenji	▲	粉所区 Kodokoro	C 区長 総代 Director General	2	区長 総代 Bボランティア Director, General, Volunteer	B 区長・総代 Director, Genera	—	—	Jan. 8	名称不明 No name	15 人程度 About 15 people	○	×	○	×	a	なし None		
神川町 Kami kawa cho	神上区 Kounoue	嶺泉寺 Ryorsenji	▲	神上区 Kounoue	C 護持会 Gojikai	12	C 檀家 Danka	B 故人の親族 Relatives of deceased	c	千松準備 Preparing for the Sentai	Aug. 7	千松（初盆） Sentai (Hastubon)	不明（近隣住民） unknown (Neighborhood)	○	×	△ ※1	×	a→c ※2	なし None		Aug. 7 盆踊り Bonodori
								不明 Unknown			Aug. 7	盆踊り（初盆） Bonodori (Hatsubon)	不明 Unknown	○	×	△	×	—	b	カラオケ karaoke	
	長原区 Nagahara	長楽寺 Chorakuji	▲	長原区 Nagahara	B —	2	D —	C 女性中心 Mainly women	b	餅つき Mochitsuki	Jan. 11	十一講 Juikkou	不明 Unknown	○	×	×	×	a	a	餅ほり Mochihori	
							D —	B 故人の親族 Relatives of deceased	c	千松準備 Preparing for the Sentai	Aug. 14	千松（初盆） Sentai (Hatsubon)	不明 Unknown	○	×	△	×	a→c ※2	なし None		Aug. 14 盆踊り Bonodori
	花知区 Hanajiri	（東光寺） Tokoji	▲	花知区、竹原区、七色区 Hanajiri Takehara Nanairo	B —	2		不明 Unknown			Jan. 8	八日薬師 Youka yakushi	不明 Unknown								
	柳谷区 Yanagi dani	善福寺 Zenpukuji	▲	柳谷区 Yanagidani	A —	12	D —	B 故人の親族 Relatives of deceased	c	千松準備 Preparing for the Sentai	Aug. 15	千松（初盆） Sentai (Hatsubon)	不明 Unknown	○	×	△	×	a→c ※2	なし None		Jan. 15 お斎 Otoki
二木島町 Nigisimacho		最明寺 Saimyoji	●	二木島町 二木島里町 Nigisimacho Nigisimasatocho	C 住職 総代 婦人会 Jushoku General Women	不定期 Irregular	D —	B 住職・総代 婦人会 Jusyoku, General, Women	a	食事 Meal	Jan. 15	半尚坊大祭 Hansyobo taisai	不明 Unknown	○	×	○	×	a	a	食事 Meal	
								B 参加者（帰省者が多い） Participant	—	食事 Meal	Aug. 14	盆踊り（初盆） Bonodori (Hatsubon)	30 人程度 About 30 people	○	×	△	×	—	船着場 Dock	カラオケ karaoke	
甫母町 Hobocho		海善寺（妙見神社） Kaizenji (Myokenjinjya)	▲	甫母町 Hobocho	D —	—	C —	C	a	餅つき 食事 Mochitsuki Meal	Jan. 18	妙見様 Myokensama	不明 Unknown	○	×	○	×	a	a	餅ほり Mochihori	
								B 故人の親族 Relatives of deceased	c	食事 精霊舟づくり Meal Shorofunezukuri	Aug. 13-15	盆踊り（初盆） Bonodori (Hatsubon)	200～300 人程度 About 200 to 300 people	○	×	○	×	a	a		食事・精霊舟流し Meal Shoronagashi

凡例 住職 Jusyoku：● 常駐 Resident　× 不在 Absence　▲ 派遣 Dispatch

凡例 参加者 Participant：A 住民全員 All residents　B 一部住民 Some residents　C 当番制 Duty system　D 実施しない Not implement

凡例 行事 Event：a 寺院 Temple　b 集会施設 Assembly hall　c 各戸 Each house　d 不明 Unknown

凡例 参加者 Participant：① 地元区民 Local resident　② 同町他区民 Citizens and other residents　③ 元住民 Original residents　④ 外部 Outsaide

凡例 参加 Join：○ 参加 Join　× 不参加 Abstention　△ 一部参加 Partially participate

※1 … 故人の親族 Relatives of deceased　※2 … 墓までの道中 On the way to the grave

営への住民の参画状況に関するヒアリング調査を実施した。山間の 2 町についてはそれぞれの実態に応じて町内の地縁自治組織でもある区について区長を始め有識者にヒアリングを行い、特に神川町神上区については、さらに区の下部組織である組の組長にヒアリングを行った。海沿いの 3 町については各町についてヒアリングを行った。ヒアリング対象の概要をまとめたものが次表（表 2-1）となる。

ヒアリング結果を、各神社、寺院を軸にまとめたものが次表となる（表２-2, 表２-3）。

2-3-1-1. 管理者について

調査対象地域の 34 施設（神社 10 社、寺院 9 寺、集会施設 15 施設）のうち、施設代表者（神職、住職、管理者）が常駐するのは寺院 2 寺（萬重寺と最明寺）のみであった（表２−2-a、表２−3-a）。住職が常駐する 2 寺院と、公営施設の一部を利用している集会施設 1 施設（熊野自然休養村）を除いて、維持管理は全て地域住民によって行われていることが明らかとなった。

2-3-1-2. 日常の維持管理について

日常の維持管理は、神社と寺院で異なっていることが明らかとなった。ほぼ全ての神社で、当番もしくは神社役員によって定期的に維持管理され、さらに半数の神社で行事前に住民全員（氏子）が集まって臨時的に清掃を主とした維持管理を行っている（表 2-2-b）。

寺院では当番制を設けるところはほぼなく、定期的に、もしくは行事前の臨時的な清掃を主とした維持管理を住民の多く（檀家）が集まって行う（表 2-3-b）[注 11) 注 12)]。

2-3-1-3. 行事の運営方法について

調査対象地域の神社において、かつては多くの神社で当屋制がとられ、毎年交代で選出された 1 軒が行事の準備の全ての工程を行っていた。しかし個人的負担から現在では半数以上の神社で当屋制ではなく短期間で持ち回りをする当番制を採用するか、あるいは住民が全員参加することで、当屋だけの負担から地域全体の負担へと移行している（表 2-2-c）[注 13) 注 14)]。

続いて寺院であるが、1 年間で実施される主な行事は正月と初盆と両彼岸である。正月行事で食事会を伴う行事を行う寺院では、住職が常駐する 2 寺院（表 2-2-a、表 2-3-a）は住職と檀家総代が準備を行い、常駐しない寺院は当番か地域の女性が中心となり食事会を含め行事の準備を行っている。正月に食事会を行わない寺院では区長などの数名が当日に準備を行っている。初盆行事は、基本的にその年の故人の親族が準備を行い、その関係者だけで行事が執り行われるため、地域全体が関わることはない。しかし行事後に盆踊りや千松（せんたい）を行う地域があり、それには多くの地域住民が参加する。千松は祭儀のみで食事会などはなく、盆踊りは櫓の設営、および食事の準備は故人の親族によって行われるため、事前に住民が集まって準備することは少ない。（表 2-3-c）。両彼岸は、多く

の住民が個人個人で参拝する。一堂に会して儀式を執り行うことはない。

以上より寺院の行事準備について、地域住民が携わる機会は神社ほど多くはないといえる。

2-3-1-4. 行事参加者について

神社と寺院ともに行事参加者は地元区民がほとんどであるが、神社の場合は観光客や研究者など外部からの参加がみられた（表 2-2-d）。寺院の場合、正月や盆の帰省者が参加しており、元住民の参加者としてカウントされている（表 2-3-d）。

2-3-1-5. 行事を執り行う場所、行事準備の場所について

神社・寺院ともに神事、仏事は境内で行われるが、その後の宴会は、直会[注 15)]の場合、集会施設にて実施され、お斎はそのまま境内で行う事例がほとんどであった（表 2-2-e、3-e）。神社の場合は本殿しかない、あるいは社殿そのもののない無社殿神社がほとんどで、その場で直会を実施するのが難しく[注 16)]、寺院はすべての寺院で境内にお堂があり、そこで食事をすることが神社ほど困難でないからであると考えられる。

2-3-1-6. まとめ

調査対象において、神社と寺院でその実態について異なる傾向であることが明らかとなった。すべての地域で神社は地域（氏子）で日常的に維持管理され、行事の際も各地域で準備し実施している。対して寺院は、もちろん地域（檀家）が維持管理しているのだが、基本的な単位は家や親族で、盆や彼岸などの行事は対象となる親族が準備を行い実施している。

また行事や行事準備の際、神社は社殿そのものがないか、あっても本殿のみで、人が集まり行為をする室内空間がないため、同地域内の集会施設を併用することで補完していたのに対し、寺院は本堂などの建築があるため、そこで準備を含めた行為が行われていることが明らかとなった。

2-3-2 各町の行事の維持管理・運営の関わり合いの実態

各町ごとに 1 年間における施設の維持管理、運営についてのに実態を見ていく。

2-3-2-1. 育生町

育生町は 5 地区で構成されるが、大井、長井、尾川という連続する 3 地区に育生町の人口の 9 割以上が居住している。特に尾川にある大森神社が中心的で、それぞれの区が祭りに協力している。粉所や赤倉はそこから山道を抜けたところに位置する人口数名もしくは十数名規模の集落であり、他 3 地区とは同じ町でありながらその行き来は非常に不便なものとなっている。それに伴い、各施設の関わりは次図のようになっている（図 2-10）。

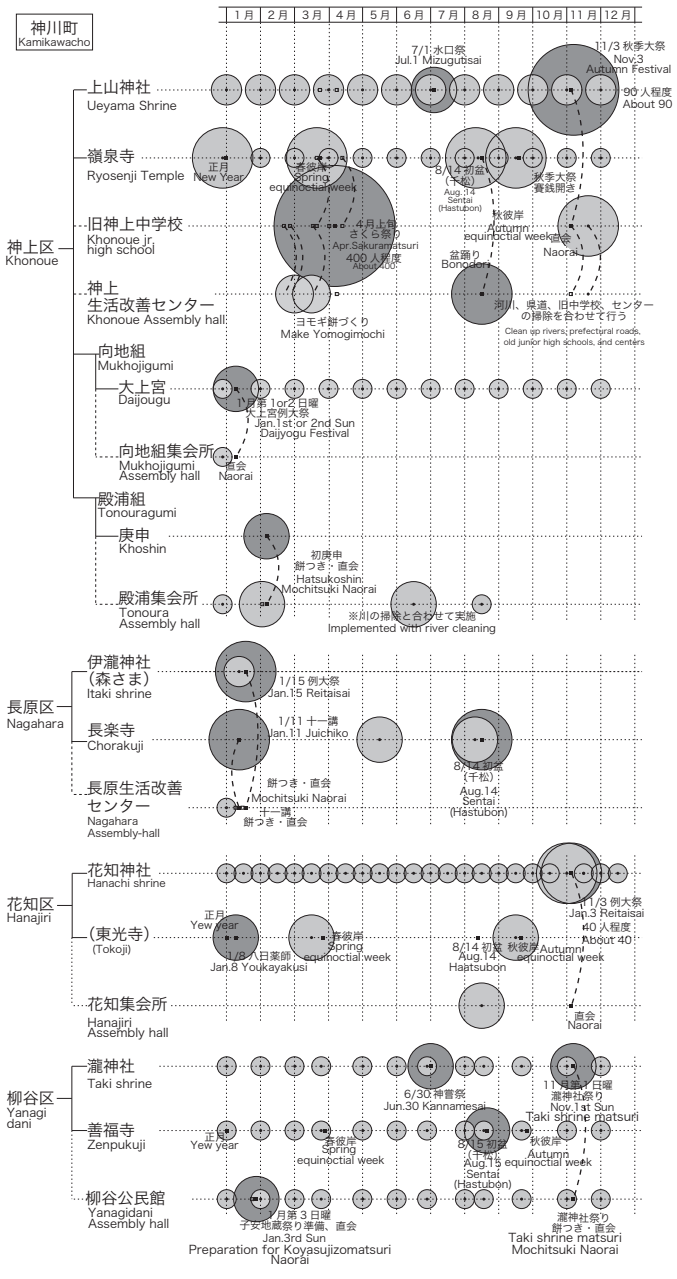
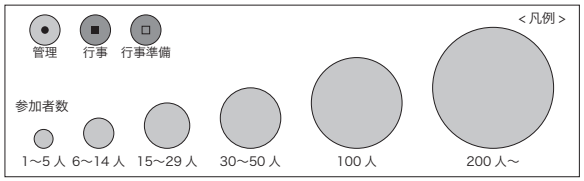


図 2-11 神川町の年間工程表



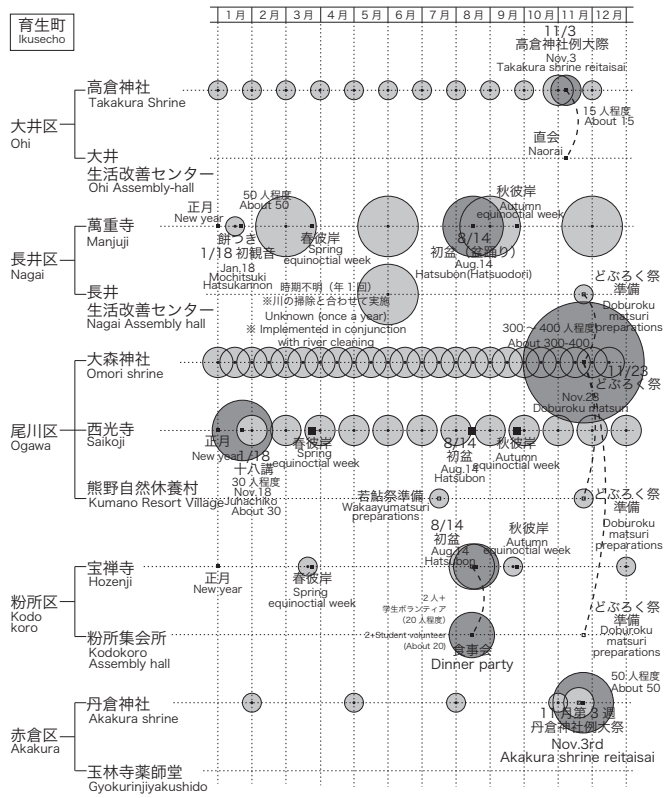


図 2-10　育生町の年間工程表

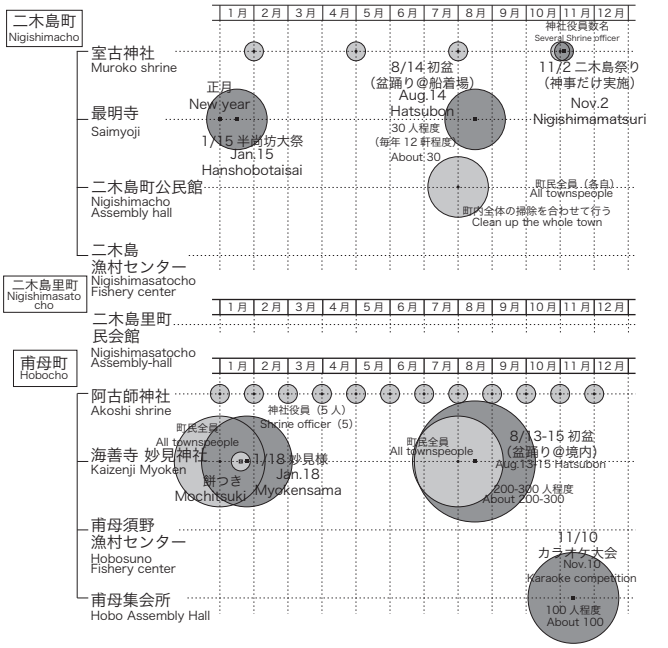


図 2-12 二木島町、二木島里町、甫母町の年間工程表

大森神社で 2 週間に 1 回の維持管理の清掃等が実施されており、11/23 のどぶろく祭りでは大井、長井、尾川、粉所の 4 区が関わって準備の協力がなされている[注 17)]。また大井の高倉神社、尾川の西光寺では 1 ヶ月に 1 回の維持管理作業がなされており、そのために住民が定期的に集まっている実態がわかる。

尾川区の集会施設は専用のものとして建てられたものではなく、熊野自然休養村という保養施設を集会施設として利用している。

2-3-2-2. 神川町

神川町神上区では上山神社、嶺泉寺ともに月 1 回の維持管理の清掃等が行われていることがわかる。さらに神上区向地組でも大上宮を月 1 回で維持管理作業をしており、向地組住民は神上区の定期の維持管理と合わせて関わっている。

離れた他区の集会施設を利用、もしくは共有する例が、神川町長原区、神上区向地組、神上区殿浦組においてヒアリングにより確認できた。

神上区向地組では学校職員のための職員住宅を、組のための向地組集会所に転用している（図 2-11）。

2-3-2-3. 甫母町、二木島町、二木島里町

甫母町の阿古師神社は月 1 回で維持管理の清掃等が行われているが、対となる二木島町の室古神社（かつて二木島祭は二社合同で行っていた）では年 4 回と回数を減じて実施している（図 2-12）。現在の二木島祭は、町より選出された神社役員によって最小限の神事のみを行うだけにとどめているため、集会施設を利用して、祭の準備や直会の会場とする実態はみられなかった。

2-3-2-4. まとめ

農山村集落と漁村集落で異なる傾向を示すことが明らかとなった。農山村集落では町の下部組織である区や組単位で神社や寺院があり管理をしている。対して漁村集落では各町に基本的には一つずつ寺院や神社がある。行事を二町二社で共催する事例や隣町の寺院を使う事例などもみられた。

2-4.　神社・寺院の維持管理、行事運営と関与住民のつながりの構成

2-4-1. 地勢的な関係による連携的な運営スタイル

調査により、複数の同一施設との関わりを持つ場合や、施設を共有したり、行事を合同で行ったりする 4 つのケースが見られた。それぞれを二重関与・並列、二重関与・上下、共有、合同（図 2-13）とした。

二重関与は、並列する組織間で発生する場合（二重関与・並列）と、組織の上下間で発生する場合（二重関与・上下）がある。並列する組織間で人口の大小や、集落の中心に近

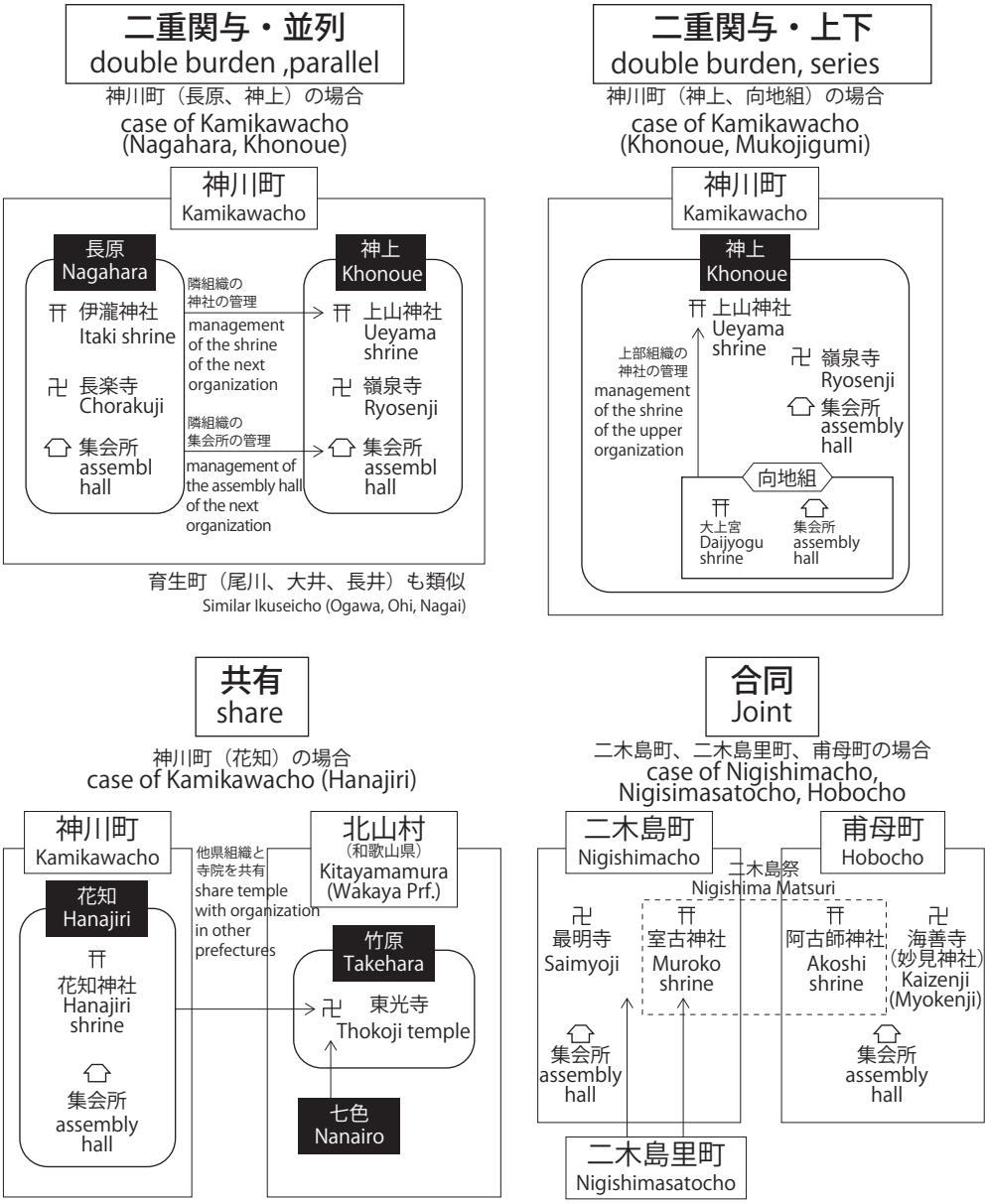


図 2-13　行事の準備や運営に関わる地域の関係のあり方

いなどの地勢的な要因、または歴史的経緯で、中心的組織に対して周縁の組織が関与することで起こる。また二重関与・上下は町・区・組と組織が細分化される中で、下部組織でも施設を有しながら、上部組織の施設に対して日常の維持管理や行事運営についての責を負う場合に起こる。二重関与により、他地域と自地域の施設に対して二重に日常メンテナンスや行事の負担がかかる場合がある。

共有は自地域で施設を有しておらず、他地域の有する施設を他地域とともに使用するケースである。神川町花知区の場合がこれにあたるが、花知区は同じ神川町の他区と同等かそれ以上に、他県他地域である和歌山県北山村の竹原区、七色区との深いつながりを有して

いる。歴史的経緯（廃藩置県（1871）などの地域統合より以前の慣習）にもとづく施設利用のあり方である[注 18)]。これは広いエリアに集落が点在する農山村地域において、中心区との距離が遠く、また他地域との距離が近い場合に観察されやすいと考えられる。

合同は、2 地域でそれぞれに有する施設の行事を合同で行うケースで、漁村地域である二木島町、二木島里町、甫母町で観察された。二木島町の室古神社と甫母町の阿古師神社が合同で海にまつわる二木島祭りを実施していた。この場合、各町が近接してあることに加え、漁業が各町の共通した産業であることも要因のひとつであると考えられる。

広いエリアに集落が点在する農山村地域では、自治的地縁の単位が区や組に細部化されるため、二重関与・並列、二重関与・上下が起こりやすいと考えられる。同じく農山村地域の花知区で他県を跨ぐ地域との共有が見られたのは、同じ神川町の他区である神上区、長原区との距離に対して、川向こうの北山村竹原区、北山村七色区との距離が近く、歴史的にも北山村 2 区との結びつきが強かったためであろうと考えられるが、これも集落が点在する農山村地域ゆえに観察されたケースであろう。

対して漁村地域は集落同士の距離が近く、また主幹産業の漁業が共通しているという点で、結びつきも強く、合同という形が見られたと考えられる。

2-4-2. 神社・寺院の年間サイクル

神社および寺院の年間のサイクルは、「日常の維持管理」「行事準備」「祭」という 3 つの要素が連続してまわっていると言える。神社、寺院の行事サイクルは次図のように示される（図 2-14）。神社の場合、関与する人は神社の氏子で、地域の住人とほぼ一致する。

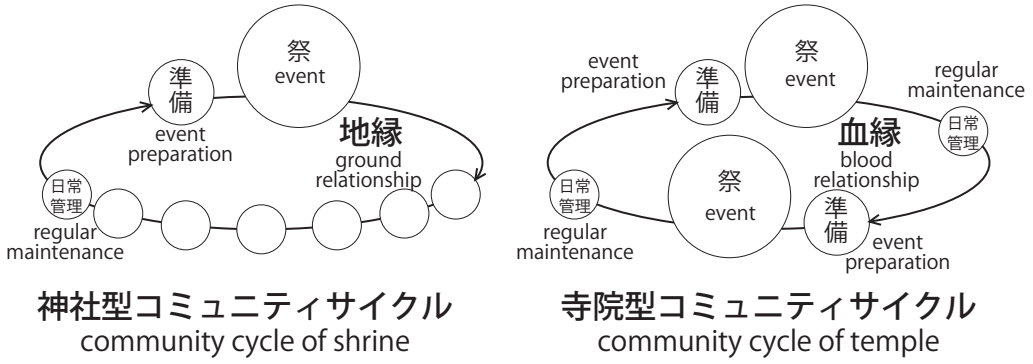


図 2-14　神社・寺院の年間サイクル

また行事は一社の例外を除きすべての神社で年 1 回開催され、定期的維持管理は月 1 回ほど行われる。対して寺院の場合、関与する人は檀家であり、また行事の主体となる家族の親族に限定される。檀家は、どの集落でも天理教信者が一定数いるため、集落住人の総数とは一致しない。行事は正月、盆、両彼岸で年 4 回ほど行われる。日常の維持管理の作業もそれほどの回数は行われない。

2-4-3. 地縁的つながり、血縁的つながり、職業的つながり

神社への関与者は地縁的なつながりによるもので、寺院への関与者は血縁的なつながりによるものである。さらに山林集落における林業従事者が信仰する山の神や、漁村集落における恵比寿信仰など、関与者の職業によるつながりの小祠があることがヒアリングで明らかとなった。

職業的つながりによる小祠は、文字通り小さな社や石像、石碑といった規模であるため、定期的維持管理こそほとんど行われないが、年に 1 回の行事を有しており、関与者は行事前の手入れや、行事運営に関わっている。

以上より各町の住民は、地縁的、血縁的、職業的な属性により、寺社および小祠の管理や行事運営に関わるか関わらないかが決定される。それぞれのつながりの特徴は以下のとおりである。

地縁型：すべての神社でみられたタイプ。地域住民とその神社の氏子（熊野地域で多い天理教信者も神社の氏子として含まれる）は一致している。地域のつながりが強い。土着的要素が地域間で行事の差異をうみ、その珍しさなどで他地域から観光として参加するケースがある。小祠の庚申などもこの地縁型つながりである。

血縁型：すべての寺院でみられたタイプ。寺院の檀家がその対象であるが、天理教信者はこれに含まれない。血縁による行事準備と運営が行われる。その年の故人の親族が執り行うなど行事の性格としてはドメスティックで他住民や他地域からの参加者は稀である。仏教的なサイクルに従うことが多く 正月、盆、両彼岸など 1 年における行事の回数は神社より多い。

職業型：山間地域での山の神や漁村地域である甫母町での恵比寿信仰など。山の神は林業に携わる地域住民だけによる定期的維持管理と行事準備と運営がなされる[注 19)]。これらは本研究においては対象外としたため、さらなる調査が必要である。（表 2-4）

表 2-4 つながりの種類と施設の関係

つながり	地縁的	血縁的	職業的
対象	神社 庚申（小祠）	寺院 その他の寺院（天理教）	山の神（小祠） 恵比寿（小祠）

2-4-4. 神社・寺院の年間サイクルの省力化

神社・寺院のいずれでも、行事そのものを存続させるために、行事の一部を簡略化するなど、それぞれの工夫がみられた。その取組みは以下の４点である（図２-15）。

1. 行事の一部やその準備を行う場所の移行
2. 行事の工程、その準備の簡略化、中止
3. 制度の緩和、変更
4. 定期的維持管理の簡略化、回数減

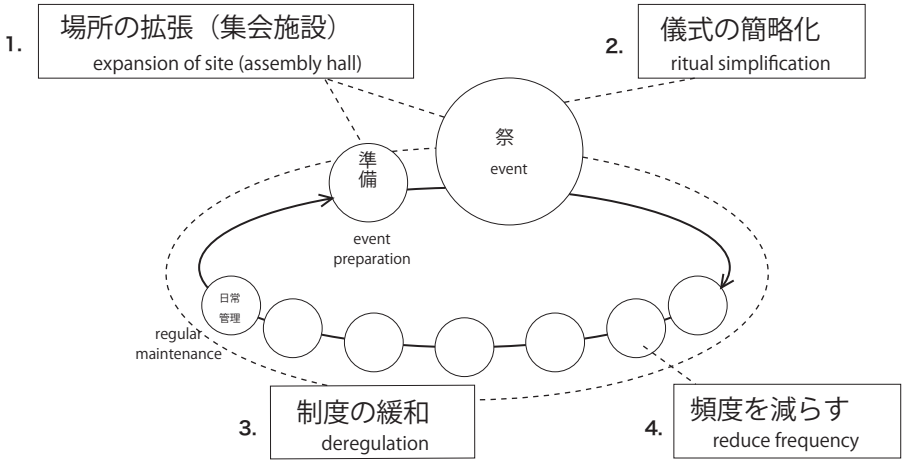


図２–15　省力化の４要素

1．について、多くは集会施設へと移行しているが、神社でより多くその事例が確認された。これは寺院にはお堂が併設され広間や庫裏があるのに対し、神社の敷地内には社殿があるのみで屋内空間がなく、集会施設を活用して行事の準備や直会を行うことが多いためである。また数は少ないが寺院の行事でも集会施設活用の事例はみられ、休止となっていた盆踊りを集会施設に移行することでその復活に導いている。

2．は仏事における盆踊りを中止したり、行事終わりに行う餅ほりにかける手間を簡略化したり、またはそのための準備を簡略化することが各地域でみられた。

3．は制度、ルールを簡略化している場合で、神社における当屋制を廃止し、今まで当屋が負担していた人的、金銭的負担を地域住民全体で負担している場合や、神事におけるルール（不浄をさけるため数ヶ月間体毛を処理しない、定期的に海で禊を行うなど）を廃止するなどがみられた。2．と 3．は同時に行われることも多く、変更することで人的、金銭的負担を和らげる意図がある。

4．は行事そのものではなく、神社や寺院そのものの日常の維持管理の内容や範囲を簡略化する、または頻度を減らすことで負担を減らしている。現在でも月に２回の維持管理の

清掃等を行っている神社もあるが、頻度を減らすことで 1 回あたりの作業量が増えるとも考えられる。頻度を減らし、かつ範囲が縮小したり内容を簡略化することで、負担を減らしているといえる。

2-5. まとめ

2-5-1. 神社、寺院の維持管理、運営にみられる４つの構造

人口が 300 人以下で施設原単位が 1 を越え、中心市街地から距離のある 5 町における、神社、寺院の日常の維持管理、行事準備、運営についてその実態を調査し、そこから以下の４つの構造を明らかにした。

(a) 地勢的な関係による連携的な運営スタイル

(b) 神社・寺院の管理・行事運営に関する年間サイクル

(c) つながりの種類

(d) 省力化の４要素

(a) 地縁自治組織のまとまりは、町や区、あるいは組といった単位となるが、それは地勢的な広がりにより決定される。それぞれの地縁自治組織(かつての村や浦)に 1 つの神社、寺院、集会施設を有するのを基本とするが、地勢的な関係により二重負担や共有、共同といった運営スタイルもあることが明らかとなった。この運営スタイルは横のつながりで負担を分担することもあるが、縦のつながりにより負担が増える場合もある。

(b) また神社と寺院で大きく異なる２つの年間のサイクルがあることも明らかとなった。

(c) 神社が地縁的で、寺院が血縁的に運営されていることに加えて、職業的な小祠があることも明らかとなった。各 住民の属性や所属によりそれらに参画することになる。小祠に関してはさらなる調査・研究が必要である。

(d) そして神社、寺院の維持管理、行事運営などの負担を減らす実践が４つの手法があることが明らかとなった。

2-5-2. 持続的な集落を実現するための神社・寺院の維持管理のあり方

地域住民はそれぞれ地勢的な条件、人的なつながりに応じた、神社、寺院、小祠との関わりの構造（a）（b）（c）があり、それに対し、過疎化・高齢化が進むなか運営を持続させるために、関わり方の負担を減らす省力化の４手法（d)、という位置付けになると考えられる。神社、寺院への関わりは、時として負担となり得るが、単純にそれらを廃止したり整理するなどすることは適切ではない。

(d) における 1. 場所の拡張、2. 儀式の簡略化、3. 制度の緩和、4. 頻度を減らす、の４手法を、バランスを考えながら処方することで、地域の負担を減らし、集落や寺院、神社、そしてその行事を持続させることができる。過疎化、高齢化が進む地域の中で現状維持を続けるひとつの方策として、これらの場所や行事を存続させていくことは重要である。そのためにこれらの省力化は有効な手段となりえると言える。

またこれらの結果、分析は既往研究[6]より導かれた神社運営に関する類型[注20]の内容と概ね一致するものであるが、集落の地勢的条件より築かれた共有などの関係や、地縁・血縁・職業的つながりによる神社・寺院の関係など、既往研究の内容を追加する。

本研究では、宗教施設として神社と寺院を取り上げたが、集落にはそれ以外にも庚申信仰や山の神信仰などもあり、各所にそれらを祀った祠がある。ヒアリングを実施した結果、その多くは地域住民全体で祭事を行い、定期的に維持管理を行うなど、神社寺院と同等に扱われている実態が確認された。よってこれらも含めた同様の調査が必要であり、今後の課題としたい。

注釈

注 1）熊野地域の山村、漁村といった集落に共通してある施設は、寺院、神社、集会施設と個人が経営する商店である。病院などの医療施設、図書館や美術館などの文化施設は市街地に依存しており、交番、郵便局、役所（分署）などの公官庁施設は大きな集落にあるものでまかなっている。

注 2) 明治末期に政府により合祀政策が進められたが、特に三重県では苛烈で、明治 34 年から 43 年にかけて、三重県下の神社は 10936 社から 1415 社へと激減している [9)]。南牟婁郡（熊野市全域と隣接する尾鷲市の一部、御浜町、紀宝町を含めた地域）に限ると明治 39 年から大正 7 年にかけて 123 社から 40 社へと減らされている記録 [10)] がある。

注 3) 大森神社（育生町尾川区）の氏子は尾川、長井、粉所で、明治 41 年から戦後まもなくまで赤倉も氏子とするという記録がある [11)]。明治41年が神社合祀が激しく行われた時期であること、丹倉神社（育生町赤倉区）が神社庁には編入されていないことから、合祀が行われたと推察される。

注 4) 高倉神社（育生町大井）は、北山村史 [12)] および熊野市史 [13)] より育生町大井と北山村大沼にあった複数の神社を明治 24 年から 41 年にかけて合祀した結果、育生町に高倉神社、北山村に大沼高倉神社（のちに勝手神社）としてつくられたことが記録にある。

注 5) 上山神社（神川町神上区）は明治 10 年に周辺の複数の神社を合祀されている [14)]。その際、長原の 伊瀧神社（神川町長原区）も合祀され長原区は上山神社の氏子になっている [15)]。

注 6) 瀧神社（神川町柳谷区）は明治 9 年に周辺の神社を瀧神社に合祀している。当時から地域の中心的な神社であった [16)]。

注 7) 室古神社（二木島町）と阿古師神社（甫母町）について、「両社をして二木島、二木島里、甫母の産土神とする」という記述 [17)] がある。また二木島里浦は二木島浦と古くは一村であったとの記録もある [18)] ため、3 つの地域が不可分な関係であったと考えられる。

注 8) 伊勢神宮のお膝元である伊勢地方では運動が激しかったが、熊野地方ではそれほど激しくはなかったとされる。さらに、その際に寺籍を外れた信徒も長い間の仏教風俗を捨てきれず、また神道方式の葬式などに不便を感じ、寺籍に復帰することが多かったとある [19)]。

注 9) 本研究の対象地域における廃寺は以下の 7 寺。向月庵（二木島町）、玉林寺（育生町赤倉区）、善福寺（神川町柳谷区）、長福寺（育生町尾川区）、長名院（神川町花知区）、慶蔵庵（神川町長原区）、一軒庵（神川町長原区）。神川町柳谷区の善福寺は、今回の対象寺院でもあるが、明治 6 年に廃寺となり本堂も撤去されたが、のちに復興されたと記録されている。神川町花知区の檀那寺は、以前から北山村七色の東光寺で、神川町花知区の長名院は廃れたまま存続しておりようやく昭和 27 年に廃寺手続きが完了している [20)]。

注 10) 熊野地域の三重県側の寺院はほとんどが曹洞宗である。他宗寺院は数ヶ寺にすぎない。熊野地域の和歌山県側や伊勢地域は各宗派入り混じっている現状からみると極めて特徴的である。古

くから曹洞宗寺院があり、布教に努めたのが理由であると考えられている[21)]。

注 11) ただし熊野地域には天理教信者も多く、彼らは神社の氏子ではあるが寺院の檀家ではないため、神社に関する管理や行事には参加し、寺院は参加しない。

注 12) 集会施設では日常の管理に関する制度はなく、多くの場合利用者がその都度各自で行い、臨時的に行事前や町内清掃と合わせて行われる。

注 13) 例外的に丹倉神社（育生町赤倉区）では、神社所有者が丹倉神社の魅力を伝える活動を積極的に行っており、その活動を通じて都心に住む外部の人が、数日前から集落を訪れその準備に協力している。また、行事の準備場所に着目すると、4 社では祭りのための餅つきや食事の準備を集会施設で行っていることが分かった。これはそれまで当屋の個人宅で行っていた準備が、地域全体での負担となり、集会施設へと移行したためである。

注 14) 室古神社と阿古師神社（二木島町、二木島里町、甫母町）が合同で行っていた二木島祭は 2010 年以降は実施されておらず、前者では神事のみが神社役員だけで続けられ、後者では神事そのものも失われ、現在行われていない。

注 15) 直会（なおらい）は、祭祀の最後に神事の参加者一同で神酒を戴き神饌を食する行事。人神共食の意味合いがある。

注 16) 赤倉神社は無社殿神社であるが、直会は神事終了後、その場で行われる。約 80 人ほどの参加者のために、座るためのシートが敷かれ、境内に持ち込まれた料理、お酒の数々が振舞われる。大変な労力のもと、準備され実施されている。

注 17) ヒアリングでは、粉所が地理的要因と人口減と高齢化にともない大森神社に関わることが困難になりつつあるとの意見が聞かれた。

注 18) 調査対象外であるが、三重県熊野市紀和町小船、和歌山県新宮市熊野川町相須、和歌山県新宮市熊野川町宮井は、熊野川と北山川の合流点にある農山村地域で、かつては川合村というひとつの村であったが、寛文 6 年に小船村・宮井村・相須村の 3 つに分かれたという記録がある。さらに宮井の甲明神社は 3 つの地域の氏神であったため、県をまたぐ 3 つの区で共有するというケースがあると考えられる。

注 19) 山の神は地域により、女人禁制や男根崇拝であったり巨岩や大樹をご神体として祀るなど、土着的な色合いが濃い。職業的なつながりによるもののため、過疎化や高齢化によって当該職業従事者が少なくなり、その関係性が失われてしまうケースがあることがヒアリングで明らかになった。その場合、祀られているご神体そのもののありかがわからない、またはそこに至る道が失くなるといった事態が起こっている。

注 20) 冬月による研究は、過疎神社の「3 つの類型」として神社の氏子（実質氏子、祭礼氏子、崇敬者、名目氏子）、神社の運営（神職・氏子混合型、氏子主導型、神職主導型、神職・氏子・崇敬者混合型）、神社の将来（条件なし維持可能神社、一部条件あり維持可能神社、条件あり維持可能神社、維持不可能神社）としている。当研究は、冬月の調査で示された傾向と同様であるといえる。

参考文献

1)　総務省 ” 過疎対策 ” 過疎対策の沿革について
https://www.soumu.go.jp/main_content/000476760.pdf（参照 2020.3.1）

2)　西田薫，佐久間治：神社空間が都市機能として持つ意味と役割についての研究－北九州市八幡西区長崎街道周辺地域のスタディーを通して－，日本建築学会大会学術講演梗概集，都市計画，pp.97-98, 2016.7

3)　渡邊千央実，中桐祥子，山崎寿一：尼崎市･富松神社を核とした地域づくりの展開に関する一考察－富松一寸豆祭を中心として，農村計画学会誌，31 巻 Special_Issue 号，pp.255-260, 2012.11

4)　斎藤亮司，藍澤宏：農村地域における地域資源活用からみた住民参画の様態に関する研究，日本建築学会計画系論文集，第 555 号，pp.223-229, 2002.5

5)　中村久美：地域生活における集会所運営の評価とそのあり方
宇治市における集会所の運営・管理の検証－，生活学論叢，Vol.18, pp.3-12, 2011.3

6)　冬月律：過疎地神社の研究 人口減少社会と神社神道，北海道大学出版会，pp.296-308, 2019.9

7)　仁井田好古 等編：紀伊続風土記 第 3 輯　伊都，有田，日高，牟婁，帝国地方行政会出版部，p.227, 1910-1911

8)　仁井田好古 等編：紀伊続風土記 第 3 輯　伊都，有田，日高，牟婁，帝国地方行政会出版部，pp.267-269, 1910-1911

9)　三重県神社庁：三重県神社誌，pp.643-644, 1993.10

10)　櫻井治男：地域神社の宗教学，弘文堂，p.147，2010.12

11)　熊野市史編纂委員会：熊野市史，下巻，p.838, 1984.3

12)　北山村史編纂委員会：北山村史，下巻，pp460-461, 1987.8

13)　熊野市史編纂委員会：熊野市史，下巻，p.843, 1984.3

14)　熊野市史編纂委員会：熊野市史，下巻，p.839, 1984.3

15)　熊野市史編纂委員会：熊野市史，下巻，p.839, 1984.3

16)　熊野市史編纂委員会：熊野市史，下巻，p.841, 1984.3

17)　熊野市史編纂委員会：熊野市史，下巻，p.847, 1984.3

18)　仁井田好古 等編：紀伊続風土記 第 3 輯　伊都，有田，日高，牟婁，帝国地方行政会出版部，p.268, 1910-1911

19)　熊野市史編纂委員会：熊野市史，下巻，p.320, 1984.3

20)　熊野市史編纂委員会：熊野市史，下巻，pp.470-485, 1984.3

21)　熊野市史編纂委員会：熊野市史，下巻，pp.318-320, 1984.3

22) 多田正治他：神社・寺院を含む地域施設の管理と行事運営の実態に関する研究 三重県熊野市を対象として，地域施設計画，vol.36, pp.219-226, 2018.7

第 3 章　関係人口創出のイベントの実践

3-1　山間集落におけるマルシェイベントの為の竹による仮設テントの開発
ー KUJU MARKET を事例として
3-1-1　はじめに
3-1-1-1 背景と目的／　3-1-1-2 既往研究
3-1-2　対象地域
3-1-2-1 九重／　3-1-2-2「KUJU MARKET」
3-1–3　設計について
3-1-3-1 目標と課題／　3-1-3-2 設計および試作／　3-1-3-3 仕様・デザインの決定
3-1-4　施工
3-1-4-1 竹の伐採／　3-1-4-2 パネルの施工／　3-1-4-3　組み立て／　3-1-4-4 当日の様子
3-1-5　概括
3-1-5-1 製作してわかった竹テントの特徴／　3-1-5-2 協力体制について／　3-1-5-3 課題点／　3-1-5-4 まとめ
3-2　山間集落におけるワーケション整備事業を通じた関係人口創出の試み
三重県熊野市育生町赤倉集落を対象として
3-2-1　はじめに
3-2-2　ワーケーション事業の概要と目的
3-2-2-1 ワーケーション事業の概要／　3-2-2-2 育生町赤倉について／　3-2-2-3 ワーケーション整備事業の目的
3-2-3　ワーケーション整備事業の企画概要
3-2-4　ピザ窯の計画から製作
3-2-4-1 企画・設計／　3-2-4-2 資材調達／　3-2-4-3　施工
3-2-5　ワーケーション整備後の運営
3-2-6　まとめ
3-3　2 事例および実践のまとめ

第 3 章　関係人口創出のイベントの実践

第 3 章では著者が大学生らの協力のもと熊野地域で実施しているプロジェクトを紹介、考察する。3-1 では新宮市熊野川町九重でのマルシェイベントに用いる竹のテントの開発のプロセスを題材に考察し、3-2 では熊野市育生町赤倉でのピザ窯作成の企画、施工についてのプロセスを題材に考察を行う。

3-1　山間集落におけるマルシェイベントの為の竹による仮設テントの開発 ー KUJU MARKET を事例として

3-1-1. はじめに

3-1-1-1. 背景と目的

地域活性の手法のひとつとしてフリーマーケットやマルシェといったイベントが全国で多数開催されている。フリーマーケットは、フランスで行われていたFlea Market(蚤の市)をルーツとし[1)]、1970 年頃に日本に広がったと言われている[2)]。縁日や露店などと異なり、一般市民が自由に出店する開かれたイベントとして実施されている。またマルシェは、2009 年に農林水産省主導による農作物の産地と消費地である大都市を結びつけることを目的としたイベントとしてスタートし[3)]、今では日本全国に広がっている。

フリーマーケットやマルシェイベント（以下マルシェイベント）が全国で多数開催される昨今、差別化や独自性を打ち出すことも重要となる。多数の出店者、来場者の見込める大型イベントだと多額のコストをかけた取り組みが可能であるが、小さなイベントの場合は手間をかけ工夫を凝らすことで差別化や独自性を目指すこととなる。また地域活性化が目的のひとつであれば、手間や工夫は来場者にとっても運営側にとっても醍醐味となる。

一方、竹は木材に比べて成長が早く、カーボンニュートラルな材料であり、また軽いうえに強靭な圧縮強度と引張強度があるのが特徴であるが、にも関わらず一般的な建築材料としてはまったく普及していない。理由は形を変える加工や竹同士を接合することが難しいからで、東南アジアの伝統的な民家で使用されているほか、近年では研究者や建築家によって様々な実験や実践が行われている。

また日本の主幹産業のひとつは林業である（今回の対象地域である熊野地域も同様）が、スギ・ヒノキにとって竹害は深刻な問題となっている。そのため竹を積極的に使うことは地域産業にとっても意味がある。

本稿では、コストをかけることなく来客用の日除けテントを設け、またそのテントによってマルシェイベントを盛り上げた事例として「KUJU MARKET」の「九重の竹テント（以下、竹テント）」を報告する。竹テントを建設し「KUJU MARKET」を実施することにより得られた成果および課題を整理することで、類似マルシェイベントの実施に関する知見とす

ることを目的とする。

3-1-1-2. 既往研究

露店やマルシェイベントに関する研究のなかで仮設テントそのものについての研究はなく、テント群の空間構成要素についての研究[4) 5)]のほか、地域活性化の一要素として定期市を捉える研究[6)]がある。

また竹を構造材として扱う研究として、田中圭らによる一連の研究[7) 8)]があり、竹の材料特性についての基礎的知見や、木構造を連結する竹部材が提案されている。また中川らは、ボルト接合した竹の破壊実験により竹の材料特性を明らかにしている[9)]。

竹を用いた実践としては、陶器浩一や芦澤竜一が仮設建築物を設計・施工を行っており[10) 11) 12)]、竹をコンクリートで固めた基礎や土嚢袋で重さを与えた基礎、竹の曲げによる張力を利用して架構を形成している。また竹と竹とつなぐジョイントは縄などで縛る方法を採用している。またヴェトナムのヴォ・チョン・ギアがヴェトナムで竹を構造とした恒久的な建築物を設計[13)]しており、竹の生産から加工方法、施工方法を試行している。コンクリートや鉄骨など既存の構造材料を援用しながらその可能性を図っている。

本稿の特色は、簡易な DIY スキルで施工ができる竹による仮設テントの実践について報告する点である。

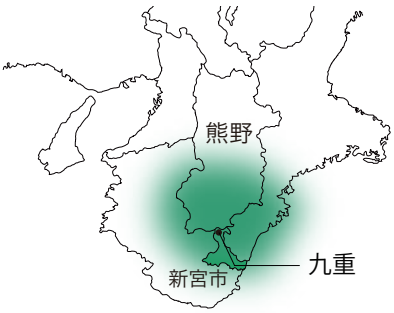


図 3-1 紀伊半島における九重

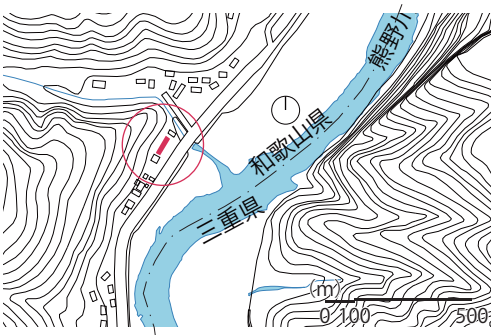


図 3-2 九重小学校の配置図

写真 3-1 九重小学校

写真 3-2 bookcafe kuju

3-1-2. 対象地域

本プロジェクトは地方の集落におけるイベントを対象としている。今回実際にイベントを行った「九重（くじゅう）」について以下に記す。

3-1-2-1. 九重

和歌山県新宮市の山中、熊野川に面した谷あいに人口 20 名ほどの集落「九重」はある（図 3-1、図 3-2）。そこでは 9 年前に東京より移住してきた若者たちが、九重小学校でカフェ + 本屋「bookcafe kuju」とパン屋「パンむぎとし」を営んでいる（写真 3-1、写真 3-2）。

九重を始め、紀伊半島の熊野という地域は昔から水害の多い地域である。2011 年の台風 12 号により引き起こされた「紀伊半島大水害」で九重集落や九重小学校も水没した。水害による被害を受けて、九重小学校の廃校と解体が新宮市により決定されたが、移住者である若者たちが行政と交渉し、小学校解体の決定から一転、存続させることとなり、移住者たちが自分たちで修復・改修し、現在のカフェ + 本屋とパン屋の営業につながった。

3-1-2-2.「KUJU MARKET」

「bookcafe kuju」と「パンむぎとし」が中心となってゴールデンウィークに行っているイベントが「KUJU MARKET」（写真 3-3）で、熊野を中心に営業する飲食店、雑貨店が

写真 3-3 KUJU MARKET2018 の様子

軒を連ねるマルシェイベントである。この日だけは人口 20 名の集落に 500 ～ 1000 人（主催者発表）もの客が訪れるイベントで、2019 年で 5 回目を迎えることとなった。2019 年の 5 月の連休は 10 連休となり運営者のキャパシティを越える来場者が予想されたため、連休は通常営業とし、新しいチャレンジとして梅雨時の 2019 年 6 月 22 日と 23 日の 2 日間、「KUJU MARKET」を開催をすることとした。その概要を次表に示す（表 3-1）。また本イベントを行うにあたり実行委員会を立ち上げた。実行委員会の構成 メンバーと竹テントの制作チーム、その協力者をまとめたものを図 3-3 に示す。

飲食店が多く出店するマルシェイベントを梅雨時に開催するのは、来場者数や食品の仕

表 3-1 イベント概要

イベント名	KUJU MARKET
場所	九重小学校（bookcafe kuju、パンむぎとし） 和歌山県新宮市熊野川町九重 315
会期、時間	2019.6.22（土）～6.23（日）　10:00～16:00
出店店舗数	6/22（土）20 店　6/23（日）21 店 2 日で総入れ替え bookcafe kuju、パンむぎとしのみ 2 日間出店

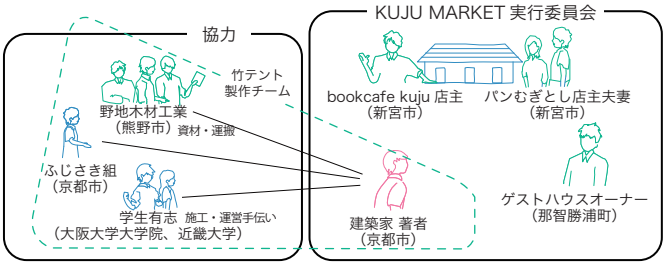


図 3-3 組織関係図

込みなど運営側にとっても出店者にとっても非常にリスクが高い。そこで会場に屋根を設営し、水害の多い地域であえて「雨でも楽しい！」をコンセプトに打ち出すことで、雨が降らなくても楽しい、雨が降っても楽しい、雨をポジティブにとらえるイベントを目指すこととなった（写真 3-4）。

写真 3-4 KUJU MARKET チラシ

出店する各店舗はイベント用に雨天も使用できるテントを所有しているため、会場中央に日除け、雨宿りができるスペースをつくることを検討した。この規模のマルシェイベントで使える予算は 10 ～ 20 万円程度、その予算の範囲内でコンセプトを体現する外部空間を企画・設計・施工した。プロジェクト開始からイベント終了までの工程を表 3-2 に示す。約半年をかけて設計を行い、最初の 5 ヶ月ほどでアイデアを収斂させプロジェクトの方向

表 3-2 工程表

2018/11/26	プロジェクト始動		設計（試作）
2019/03/16	設計打合せ（1 回目）	形状、素材のスタディより方向性を確認する	
2019/05/12	設計打合せ（2 回目）	敷地内での配置計画、複数のテントでの構成を決定 スケジュールの再確認	
2019/05/19	試作（1 回目） モックアップ	bookcafe kuju の敷地内の竹を伐採し試作を行う 敷地内に数日間放置し、耐候性を確認する →数日間の雨天で倒壊	
2019/06/02	設計打合せ（3 回目） 試作（2 回目） モックアップ	今までの設計内容のブラッシュアップ 前回の試作を踏まえ、再度試作を作成する	
2019/06/08 〜06/09	竹伐採	前日入りし、翌早朝より作業 山で竹を伐採し、車両で搬出できるところまで運ぶ	施工（材料調達）
2019/06/16 〜06/17	資材搬入 設営（1 回目　a 日程）	部材の仕分け、塗装 土台と柱まで組み上げ、敷地内に保管	
2019/06/21 〜06/22	設営（2 回目　b 日程）	屋根を組み、気泡緩衝材を取り付ける デコレーションを取り付ける 作業はイベント当日の日の出から直前まで続けられた	
2019/06/22 〜06/23	KUJU MARKET		
2019/06/23	撤収	各部材にナンバリングを施し、解体撤去を行う 各部材は九重小学校の講堂内に保管する	

性をまとめ、次の 1 ヶ月で試作などを重ねて実現のための着地点を定めている。設計完了後 1 ヶ月弱で材料の調達から施工までを行った。

3-1-3. 設計について

3-1-3-1. 目標と課題

会場に設ける屋根を設計するにあたり考慮した目的と課題・目標について表 3-3 にまとめた。

表 3-3　竹テント設計における目的と課題・目標

目的	来場者の雨宿り / 日除けのために一定面積の屋根を設ける		
課題・目標	(1)構造・工法	基礎	会場となる九重小学校前の駐車場はアスファルト舗装 であるため、地面に緊結せず置くだけの基礎が必要
		上部構造	一定面積の屋根を架けるために、屋根材を支える屋根の架構、 屋根を支える柱・壁、それらのスパンについての最適解の検討
	(2)施工	組立	施工に関して熟練していない学生たちが 安全に組立できる
		撤去	速やかに撤去できる
		再組立	可能であれば再組立ができるもの
	(3)コスト		限られた予算で実現できるもの、安価で入手しやすい材料を用いる
	(4)デザイン		「雨でも楽しい！」を体現できるデザインで、 イベント、地域としての独自性を打ち出せるもの

テントをつくる最大の目的は、前述の通り来場者の日除けと雨宿りのための一定面積の屋根を設けることである[注1）注2)]。

その目的をクリアするための課題・目標は大きく 4 つに分けられる。テントとして自立するための構造と工法（1)、そしてそれを施工する方法（2)、限られた予算で実現するためのコスト（3)、そしてイベントを目立たさせるためのデザイン（4）と、4 つを両立することが求められた。

また可能であれば撤去後廃棄するのではなく、次回以降の「KUJU MARKET」で再度利用することも求められた。

以上の課題・目標を解決すべく、設計および試作を繰り返した。

3-1-3-2. 設計および試作

3-1-3-1 の課題・目標を達成するために、様々な設計案を検討し、また試作として 1/1 のモックアップを建設した。その際に検討した事項を次表にまとめた（表 3-4、写真 3-5、3-6、3-7)。形状、構造、素材の 3 つについての検討を行っている。原寸大の試作を行い、施工のしやすさ、フレーム全体の強度を確認し、さらに雨の中に放置して耐雨性・耐風性の確認を行った（写真 3-8、写真 3-9)。

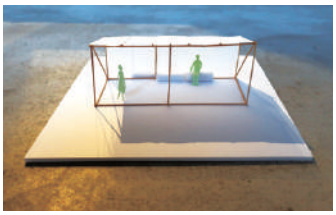


写真 3-5
大きなテントのスタディ

写真 3-6
独立型テントのスタディ

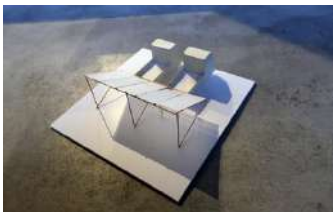


写真 3-7
軽トラを利用するデザイン

写真 3-8 木材による原寸大試作

写真 3-9　竹による試作で耐風耐雨性能の確認

表 3-4 設計における検討事項（表の上から検討の順）

	検討事項		考察（施工性、コスト、独自性、雨対応）
形状	大きな屋根（写真 3-5）		・施工後に動かして設置しようとすると大きな屋根、コンテナの援用は不利 ・軽トラの援用は面積が無駄になる ・**複数の屋根を並べる形状を選択**
	独立した屋根を並べる（写真 3-6）		
	軽トラやミカンコンテナを援用する（写真 3-7）		
構造	垂直方向	柱材（木材などの線材）	・線材は施工やコストがイメージしやすい ・積む場合、安全性の確保が難しくなる ・施工後に動かせない　**線材を選択**
		積む（CB やミカンコンテナを積む）	
	横架材屋根	梁（木材などの線材）	・線材は施工やコストのイメージがしやすい ・スパンに応じて大きな材が必要になる ・アーチはスパンが飛ばせるが張力を抑える基礎の施工が困難　**線材を選択**
		アーチ	

素材	主構造（線材）	木材	メリット	新宮の主幹産業、加工が容易 ビス・釘が自由に打てる	施工性、コスト、施工後の移動という観点から 3 種の材料はどれも優れている。 **独自性という点で竹を選択** 竹のデメリットへの対応を考える
			デメリット	角材だと直交方向以外に組みにくい	
		竹	メリット	安価、軽い、切断が容易	
			デメリット	ビスや釘で留められない 割れ、、品質が一定でない	
		鋼製単管	メリット	施工が容易、再利用が容易 完成のイメージができる	
			デメリット	無骨、デザインが平凡	
	屋根	テント	メリット	性能が見込める	現場での加工の難しいテントは、本体の施工精度に対応する柔軟さに欠ける。 **施工性、柔軟さ、コストの点から気泡緩衝材を採用** 性能上の不明点はモックアップで検証する。
			デメリット	現場での加工が難しい	
		気泡緩衝材	メリット	安価、加工が自由、軽い	
			デメリット	耐候性・耐久性に疑問	

接合部（試作により検証）	竹 + 竹 （図 3-6 写真 3-10）	留め方	ビス	一度は留まるが強度は期待できない 引張ると抜ける部分がある 雨で竹が濡れることですっぽ抜ける	施工上で注意しなければいけない点はあり、下穴を開けるなど工程が増えるが、**ボルト・ナットによる緊結を採用。**
			ボルトナット	下穴を丁寧に開けないと竹が割れる 電動インパクトドライバーやラチェットでボルトを締めたがトルクコントロールが必要、めり込んでしまう	
		変形抑制	斜材	一本入れることで十分な強度 動線を邪魔するので、テントとして使いにくくなる 端部に材が集中するので、仕口処理が複雑になる	動線が制限される斜材よりも注意深く施工する必要のある**三角パネルを採用。** 必要な大きさなどはさらにモックアップを作成し検証
			三角形パネル	小さすぎると変形を抑制できない 適当な大きさを探る必要がある 固定する向き・方法を熟考しないと、施工が困難になったり、テントが安定しなくなる	
	竹 + 気泡緩衝材	留め方	タッカー	竹にうまく刺さらない、力がかかると気泡緩衝材が破れる	タッカーではうまく施工できなかった。会期中のトラブルにはその場で対応するということで**セロファンテープを採用。**
			セロファンテープ	施工は簡単、補修も簡単、見た目が綺麗ではない 雨による強度低下が懸念されたが、数日の耐雨実験では問題なかった	

3-1-3-3. 仕様・デザインの決定

表 3-4 のように検討を行い、図 3-4 のように設計内容を決定した。施工や設置のしやすさを考慮し、独立したテントを複数並べる形式とし、ひとつのテントは片流れで雨仕舞いをシンプルにし、変形した四角形平面で並べた際に蛇行する独自性のある形状とした。構造は竹で構成し、二次部材である合板のパネルで変形を抑える構造とした。1430mm、2750mm、2950mm の 3 種類の長さの竹がそれぞれ 4 本ずつと、11 種類 24 枚の合板パネルで構成される。合板パネルの各寸法は図3-5に示す。試作をつくり数日間風雨にさらす、揺らしたりぶら下がったりするといった経験的な試験を経て各部材の寸法や施工方法を決定した。素材として線材に竹を、屋根材にエアキャップを採用し、その仕口も線材が強調される組み方注 3）（図 3-6、写真 3-10）とした。

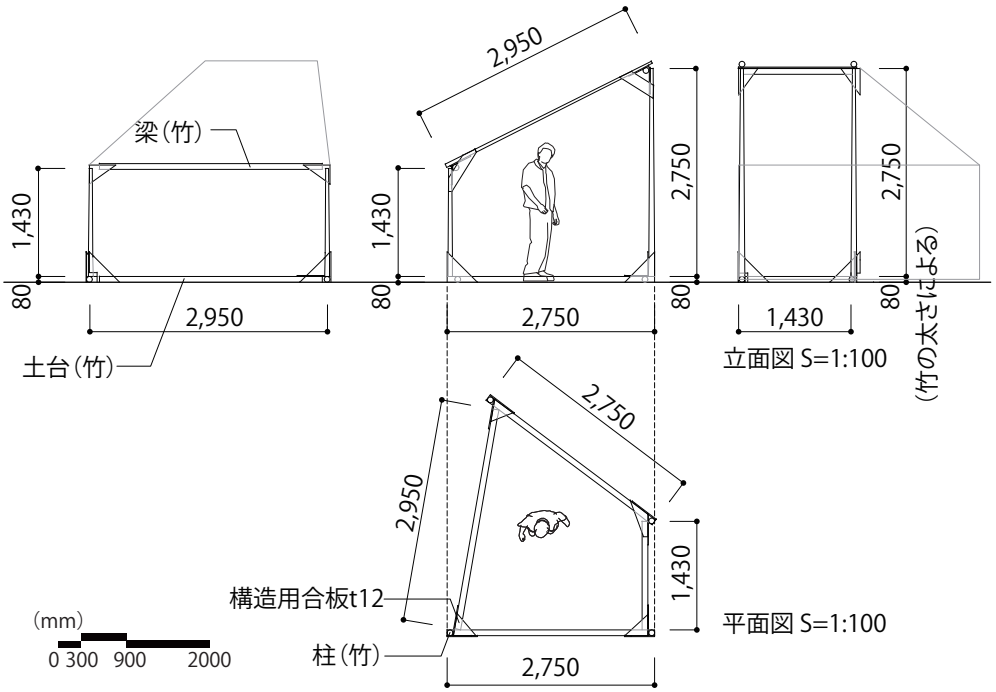


図 3-4 平面図・立面図

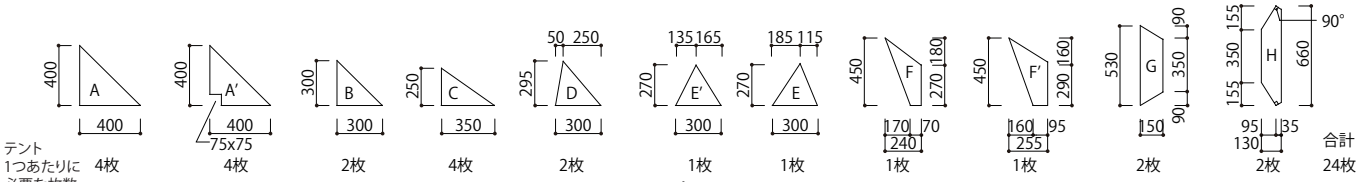


図 3-5 パネル図　S=1:50

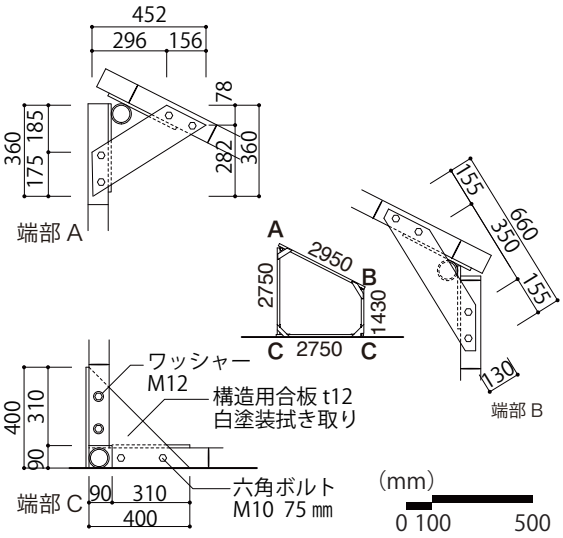


図 3-6 端部詳細図 S=1:30

写真 3-10 竹の接合ディテール

竹を軸組で組み、エアキャップを屋根材とすること選択したことで、竹端部の留め方、変形を抑える方法、屋根材と竹を留める方法も併せて検討することとなった。いくつかの試作を重ねた結果、1 本の軸である竹と三角形の合板パネルを 2 点のボルトで留めることで、竹同士を固定し、また同時に過剰な変形を抑えるようにした。また竹とエアキャップは梱包用の幅広のセロファンテープで留めることとした。

3-1-4. 施工

施工は近畿大学、および大阪大学の建築の学生ら複数名と著者と著者設計事務所のスタッフ 1 名によって実施した。

3-1-4-1. 竹の伐採

熊野の製材所「野地木材工業」の協力を得て、竹を自由に伐採してもよいという山を探してもらい、林業家の指導のもと竹の伐採を行った（写真 3-11、写真 3-12）。竹はそれほど力を必要とせずにハンドツールで伐採できるが、周りに樹木が林立する伐採エリアから、

写真 3-11 竹を伐採する

写真 3-12 竹を山林から搬出する

いかに長い竹を振り回して、トラックに積み込みできるエリアまで運ぶかが難しい。そのために竹が倒れる方向をコントロールするように切るコツが必要とされる。それらの指導を受け 4 名で伐採を行い、朝 8 時から 17 時までの 9 時間かけて 42 本の竹を切り出した。切り出した竹は同製材所の協力により会場まで運搬した。

3-1-4-2. パネルの施工

構造用合板をそれぞれの形状にカットしパネルを作成した。パネルの形状は全 11 種類で 1 つのテントに 24 枚のパネルを使用する。今回は 9 つのテントを作成したが 3x6 板の合板 12 枚から切り出した。それら総数 216 枚のパネルをナンバリングして整理した。その施工は著者が懇意にする京都の工務店「ふじさき組」に依頼し、それを会場へと輸送した。

3-1-4-3. 組み立て

「KUJU MARKET」は開催の 1 週間前の a 日程（6/16 ～ 17）とイベント前日の b 日程（6/21 ～ 22）の 2 回に分けて組み立てを行った。a 日程では、伐採した竹を太さに応じて仕分けし、所定の長さに切断（写真 3-13）、パネルの塗装、土台部分を施工した。続いて b 日程で、土台に柱を立て梁を架け（写真 14）、屋根材を葺き、その他デコレーションを施した。b 日程では 21 日の日没までに作業を完了できなかったため、イベント当日の早朝に作業を再開して設営を完了した。組み立て手順は図 3-7 に示す。参加者は a 日程で

写真 3-13 部材を仕分けする

写真 3-14 土台に柱を建てていく

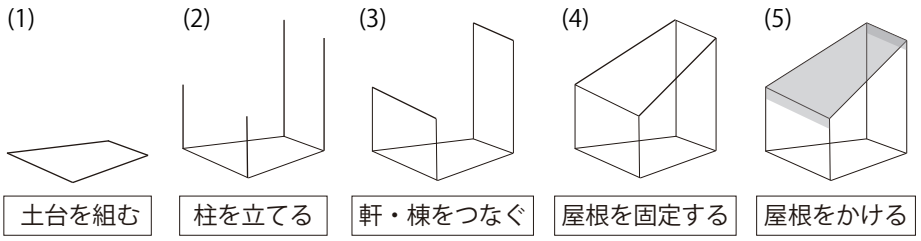


図 3-7 組み立て手順

11 名、b 日程も 11 名であった。これらの作業にともなう宿泊は九重小学校を利用し、食事や寝具については「bookcafe kuju」および「パンむぎとし」がバックアップした。

3-1-4-4. 当日の様子

イベント開始日の早朝に竹テントの設営を終え、仕上げに屋根に雨粒を模した色紙を貼り、来場者が自由に着てもよいレインコートを吊るし、九重小学校の講堂で使われていた木製ベンチなどを配置してイベントの準備を完了した。会場には 9 つのテントが蛇行するように並び、22 日は 17 の飲食店と 3 の物販店が、23 日は 17 の飲食店と 4 の物販店が軒を並べた。主催者の店舗であるカフェ「bookcafe kuju」とパン屋「パンむぎとし」は 2 日とも出店しているが、それ以外の店舗は 2 日で総入れ替えをしているため、主催者 2 店と、飲食店が 30 店と物販店が 7 店が出店するイベントとなり、盛況のうち幕を閉じた（写真 3-15、3-16、3-17、図 3-8）。2 日間のイベント期間で、風が強く好天で暑い 1 日目と曇天から小雨からの土砂降り（写真 3-18、写真 3-19）の 2 日目という、様々な条件の天候を経験することとなった。

写真 3-15 会場内に設置された 9 つの竹テント

写真 3-16 レインコートが吊るされる

写真 3-17 気泡緩衝材の屋根が連続する

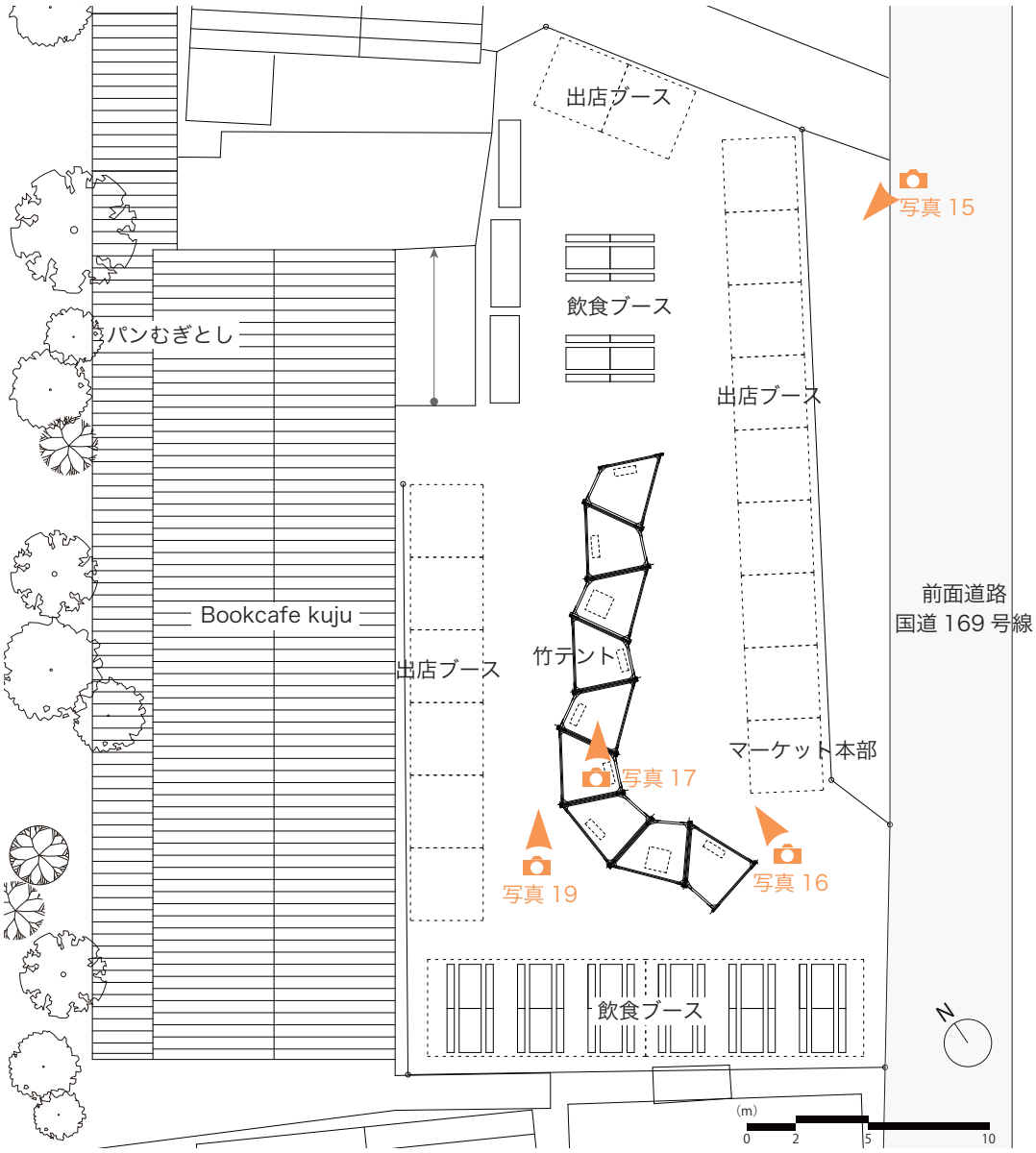


図 3-8 KUJU MARKET 2019 配置図 S=1:300

写真 3-18 突然の雨

写真 3-19 レインコートを着て楽しむ

3-1-5. 概括

3-1-5-1. 製作してわかった竹テントの特徴

屋外のマルシェイベントで竹テントを用いる特徴を 7 点に分けて示した（図 3-9）。テントは柱と土台、梁の 6 本の竹で構成し、一見複雑な多面体のように見えるが、材の長さは 1430mm、2750mm、2950mm の 3 種類の寸法でできている（図 3-9 ①）。寸法の種類を限定することで、材の切り出しや整理をシンプルにし、間違いや失敗のリスクを減らしている。

テントの平面はひとつの角が直角となる四角形としている。柱は 1450mm、2750mm の長さの竹による片流れの形状としている。四角形の平面は裏表をひっくり返すと 2 種類の形がつくれて、勾配の向きも 2 種類を設定することができるので、合計 4 種類の造形をつくることができる（図 3-9 ②）。この 4 種類によって様々な並べ方、組み合わせ方で多様な群造形をつくることができる。今回は雨仕舞いの関係で一列に並べ、蛇行する平面、屋根勾配が交互になったテント群とした。並べ方によってはテントの屋内側に雨が流れこんだり、棟部分が分離することで雨が入り込む恐れがある（図 3-10）。雨仕舞いを重要視する必要がなければテントの並べ方は自由となる。

端部はパネルと竹をボルトにより接合しているが、パネルで端部を覆ってしまうように接合すると竹の線材としての造形が損なわれるため、パネルと竹を組むようなデザインとした（図 3-9 ③）。

これらで構成されるテントはとても軽い。接合部に負担をかけないため 4 名で持つこととしたが、重量的には 1 ～ 2 名で持てるほどである（図 3-9 ④）。日本の山間部で竹を活用することの環境的メリットは前述の通りで（図 3-9 ⑤）、さらに屋根部分のエアキャップはサトウキビを主原料とする環境負荷が少ない商品を採用した（図 3-9 ⑥）。少し緑がかっており、竹の色とも調和する。これらの資材にかかった費用は 1 台あたり約 12,600 円、全部で 113,400 円で（図 3-9 ⑦）予算の中でおさめることができた。

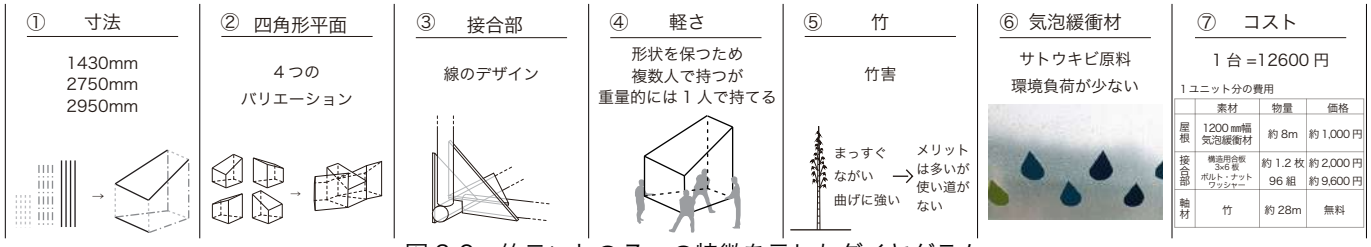


図 3-9　竹テントの 7 つの特徴を示したダイヤグラム

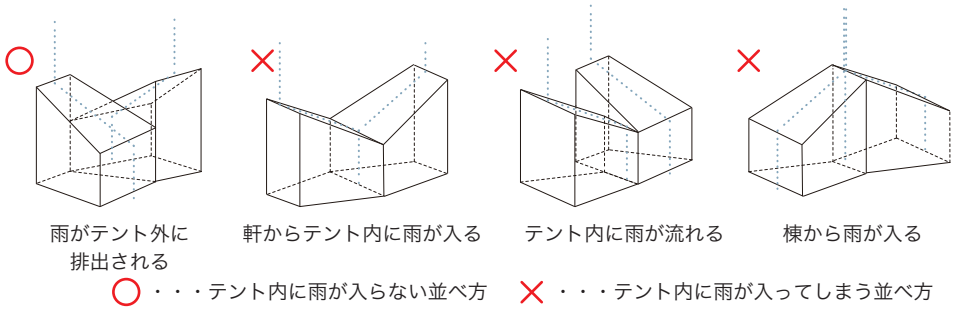


図 3-10　並べ方による雨の流れ

3-1-5-2. 協力体制について

今回は時間の都合でパネルの架構を工務店「ふじさき組」に依頼したが、丸ノコなどの工具が扱えるのであれば、手間はかかるが難しいカットはないので、自分たちで加工することも可能であろう。

また今回は関西の学生たちに施工を協力してもらった。現地で数日間にわたり作業を行う場合、食事と宿泊と移動の費用が大きな課題となる。今回はカフェやパン屋が食事を提供してくれたこと、学校校舎を宿泊場所にできたこと、布団のレンタル費や交通費を事業費から捻出できた。また他地域からの学生が参加することで、学生たちは過疎地域の魅力や実態について学ぶことができ、また地域も若者たちと交流する機会ができる。学生たちが単なる無償の労働力ではなく、参加者、地域ともに得るものがある体制づくりは、イベントの継続に必要である。

3-1-5-3. 課題点

「KUJU MARKET」を実施してわかった課題点を以下に列記する。

〈排水〉雨天時に、いくつかのテントの屋根に水が溜まり定期的に人力で排水する必要があった。うまく自然排水できているテントもあり、屋根の施工精度の問題であると考えられる。軒側の竹横架材よりもエアキャップが沈みこむと排水がうまくできなくなるが、上手に張るためのコツや方法を確立するか、ディテールそのものの改良が必要であるだろう。

〈ナンバリング〉竹テントは再度組み立てることを想定しているが、それぞれの竹の太さが異なるため（1 本の部材でも両端部で太さが異なる）、再度組立てるためには竹、パネルとも同じ部材同士を合わせる必要がある。そのため竹とパネルにナンバリングを施してから解体した。ナンバリングそのものを事前にデザイン[注 4)]しておくか、仕口の改良の余地[注 5)]がある。

〈竹の経年変化〉また竹を 1 年間にわたり保管することとなるが、温度や湿度の関係でカビの発生や部材の変形、割れなどが予想される。管理の方法を確立するのが望ましい。また劣化を防ぐために竹を加工し高品質化するか、または逆に劣化した材を新しい材と交換するか、など検討が必要である。

〈屋根材〉屋根で使用したエアキャップだが、終了後すべて廃棄処分とした。1 台あたり約 1000 円程度でイベントごとに購入し使い捨てても金額的には妥当だと判断するが、再利用可能な素材を探すことも一考あるだろう。

3-1-5-4. まとめ

竹テントは、一品生産である建築とアウトドアのテントのようなプロダクトとの中間に位置する半建築・半プロダクトと言える構築物である。日本全国どこにでも入手できる竹、1 台あたり 1 万円程度という低コスト、熟練工でなくても施工できる簡便さ、そして基礎が不要で設置場所を限定しない、という点で、様々なイベントにおいて自在に活用できると考えられる。

対して、竹の伐採や組み立てにある程度の人数や時間が必要で、地域の協力や連携が求められる。しかし利潤追求だけが目的とならない地域イベントにとっては、この手間や煩雑さを地域の盛り上がりの契機とできるだろう。準備や片付けそのものが情報発信のための題材とできるのも魅力である。

3-2　山間集落におけるワーケション整備事業を通じた関係人口創出の試み
三重県熊野市育生町赤倉集落を対象として

3-2-1. はじめに

日本各地で人口減少と高齢化に伴う問題が顕在化しており、東京への一極集中の問題と合わせて、地方回帰のあり方が模索されてきた。U ターンや I ターンといった移住促進はもちろん、二拠点居住といった生活のあり方が提唱されるなど、各人の生活や働き方のスタイルに応じた地方への関わり方がある。

さらに 2020 年の新型コロナウィルスの流行により、感染拡大を防ぐ目的で外出自粛や人流抑制が図られ、企業も従業員に対しリモートワークやワーケーションを推奨するなど、通勤や働き方、居住に関する考え方が変化[14]している。リモートワークや二拠点居住という生活スタイルは、移住のような直接的な人口増加にはつながらないが、関係人口の増加が見込めるため、地方再生につながるとして期待されている[15][16]。

本稿は、三重県の山間集落赤倉で行ったワーケーションができる環境を整備する事業「不便は快適で楽しい。～人っ子一人いない熊野の山奥で生まれるハッピー～」（以下、ワーケション整備事業）の報告と、特にその一環で製作したピザ窯についての報告を行う。人口の少ない山間集落において、学生が整備事業の一環としてピザ窯製作を行うことによって、居住者が外来者との交流に慣れるきっかけとなり、ピザ窯を直接活用するだけではない関係人口の創出も生まれる。また、ピザ窯は食事をする場のない集落で、人の集まりや参加を促す食のアクテビティのツールになりえる。集まり参加し赤倉という場所や赤倉の人を知ることで、赤倉に関与するきっかけとなり、赤倉の関係人口を増やそうという試みである。

3-2-2. ワーケーション事業の概要と目的

3-3-2-1. ワーケーション事業の概要

三重県がコロナ禍以降の 2020 年に「子どもの自然体験機会創出事業費補助金」を公募しており、募集のウェブサイトの冒頭で「新しい生活様式に即した子ども向け自然体験プログラムの造成・実践を支援するとともに、ファミリー向けのワーケーションを推進するため、大人が自然豊かな場所でテレワークを実施できる環境の整備を支援する」[17]としている。本稿のワーケーション整備事業は三重県の補助を受けて三重県熊野市育生町の赤倉集落にて「有限会社赤倉水産（以下、赤倉水産）」が中心となり実施した。

3-2-2-2. 育生町赤倉について

三重県熊野市育生町は熊野市の山間の町であるが、そのなかの赤倉集落は人口が 10 名足らずのいわゆる限界集落である。しかし赤倉水産は赤倉に本社を構え、川魚あまごの養殖や民宿を経営するなど、赤倉の地域振興に勤めている。また、赤倉には熊野地域の重要な無社殿神社とされる「丹倉神社」や修験者の修験場であった「大丹倉」など文化的資産

が残る地域であり、赤倉水産の社長である中平孝之氏の個人的な尽力により、神社の維持管理や行事などの運営管理が継続して行われてきている。赤倉集落は市街地から車で 30 分ほどの距離であるが、狭隘な林道で峠を越えるなど市街地から隔絶された感のある集落である。赤倉集落の位置（図 3-11）、配置図（図 3-12）、山里民泊あかくらの写真（図 3-13）を示す。

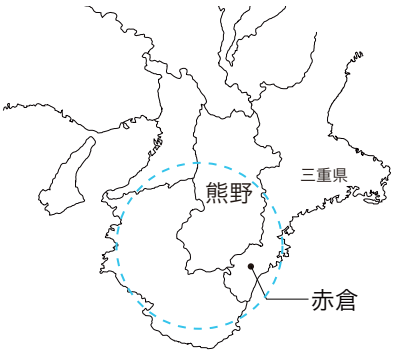


図 3-11 紀伊半島における赤倉

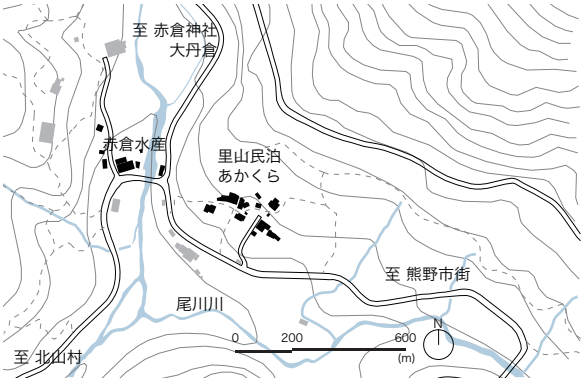


図 3-12 配置図

図 3-13　山里民泊あかくら

赤倉水産の運営する民宿が「山里民泊あかくら」で、1 ～ 2 組の宿泊客を受け入れることができる 1 棟貸しの宿泊施設である。山里民泊あかくらでは赤倉の自然を楽しみ、味わうことができ、赤倉の関係人口を増やしたいという中平氏の想いで運営されている。

また山里民泊あかくらの企画の一部は「irokuma kids」に委託されている。irokuma kids は井上結子氏が代表を務める子どもの遊びを企画・実施する事業を行う組織で、観光促進を通じて地域振興を目指している。また井上氏も I ターンで熊野にやってきた移住者である。

3-2-2-3. ワーケーション整備事業の目的

コロナ禍により山間集落の有用性や位置付けが見直されつつある [14) 15) 16)]。そのような状況下で、ワーケション整備事業を通じて赤倉の関係人口を増やし地域振興を図ることがワーケション整備事業の目的である。またワーケーション整備事業の一端を学生が担うことで、地域と学生がつながる[注 8)] ことも視野に入れている。その中心施設として山里民泊あかくらが担っている。

3-2-3. ワーケーション整備事業の企画概要

前述の赤倉水産中平氏と irokuma kids 井上氏が中心となり、そこに著者と近畿大学佐野こずえ講師が加わるかたちでワーケーション整備事業は進められることとなった (図 4)。

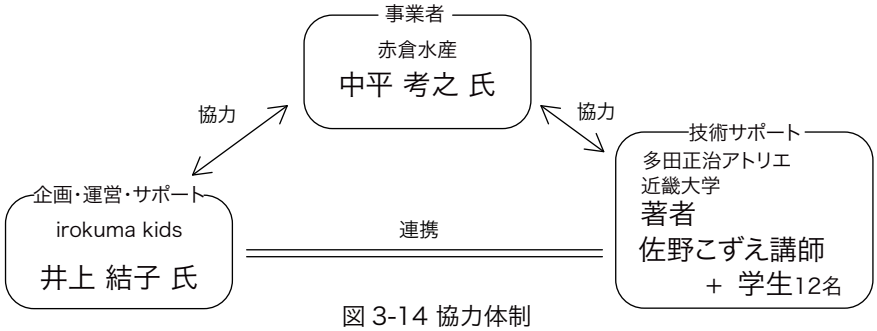


図 3-14 協力体制

ワーケション事業は大きく 2 つの事業から成っている。ひとつは「子どもの体験プログラムの拡充」、もうひとつは「ワーケーションの受け入れのための設備投資」である。前者の子どもの体験プログラムについては、山・川・雨をキーワードにプログラムが組まれた。後者の設備投資については、ワーケーションが可能となるデスク、椅子、プリンター、wifi 機器などの備品を整備することなった。特に wifi 機器は携帯電話の電波の届かない赤倉では必須のインフラ整備となった。

山では「獣道を辿る野山の探索」として、狩猟免許を有する中平氏がインストラクターとなり山奥を「探検」する。罠猟で動物がかかっていた場合はそれをさばくなどして、命のありがたみや獣害対策について学ぶ機会になる。

川では山里民泊あかくらの前を流れる尾川川は、その川底が熊野特有の火成岩による 1 枚岩でできている箇所もあり、それを利用したウォータースライダーやその他ウォーターアクティビティ、釣りなどをインストラクター指導のもと楽しむ。またアマゴの卵の定着体験を実施し、その後に参加者に送る孵化や成長の様子の報告も含めて、生命の神秘や養殖産業の一端を知る機会となる。

雨では、雨天でも可能で、赤倉の自然の恩恵を感じられるアクティビティとして、敷地内の屋根のかかった場所にあるピザ窯によるピザなどの調理体験を計画した。赤倉で収穫された野菜や山菜、卵やジビエなどを使ったピザ調理を体験できる。そのためのピザ窯を

製作するところから始まり、建築を学ぶ大学生が中心となることで、地域住民の協力を得ながら製作することが計画された。

3-2-4. ピザ窯の計画から製作

3-2-4-1. 企画・設計

ピザ窯は熊野市（中平、井上）と大学のある東大阪（多田、佐野、学生たち）を zoom でつなぎ[注 9)]、数回の打ち合わせを経てピザ窯の使い方や仕様を決定していった。既存の情報を参考に要望を整理し、①火を起こし、育てるところから体験・学習でき、②たくさんのピザを次々につくることにより、調理と食べるが一体になり、③役割の交代や、連携してワイワイと楽しめる「ピザアクティビティ」のイメージを共有し、ピザ窯の寸法や仕様を決定した。ピザ窯に対する要望を整理した表、それに基づき設計した図面、および設置場所の写真を示す（ 表 3-5、図 3-1 5、3-16、3-17、3-18)。

表3-5　ピザ窯製作への要望と対応

目的	要望	工夫
① 火による体験学習	調理者が火を扱えるようにする	通常のピザ窯の仕様で可能
	煙が小屋内に充満しないようにする	煙突の形状と寸法を設計
② 調理と食べるが 一体となる	焼き時間は 1 分ほど	通常のピザ窯の仕様で可能
	直径 10cm ほどのピザが 2 枚焼ける大きさ	ピザ窯の寸法の調整と資材の検討
③ 役割の交代、連携 ワイワイと楽しめる	立って作業をしたい	ブロック積みの上にコンクリート床板設置
	釜の下に薪を収納したい	ブロック積みの幅の検討
	窯の横に物を置けるようにしたい	コンクリート床板の寸法を調整

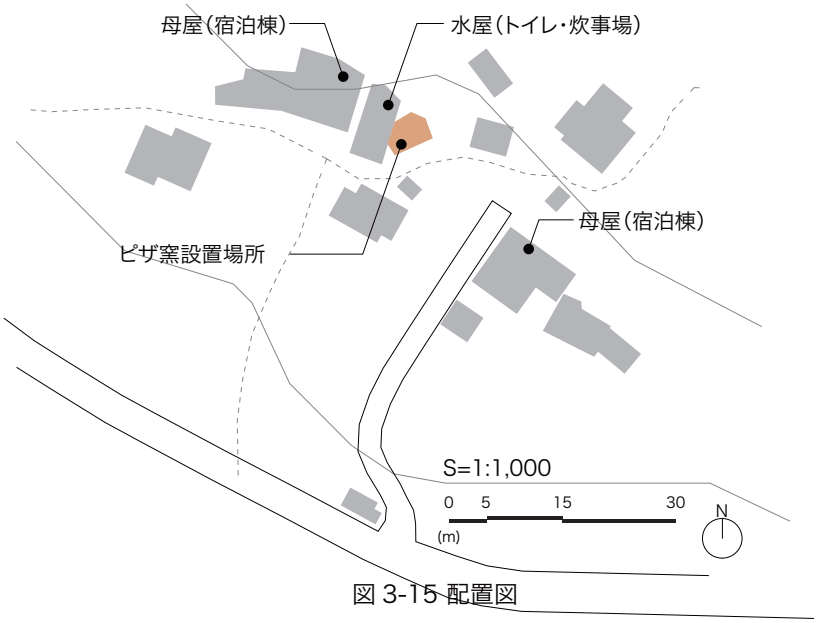
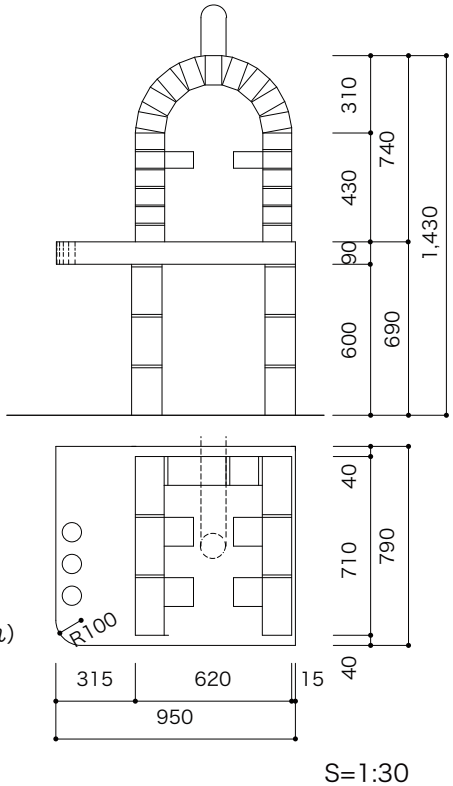


図 3-15 配置図

図 3-17 ピザ窯設置場所



S=1:30

図 3-16 立面図と平面図

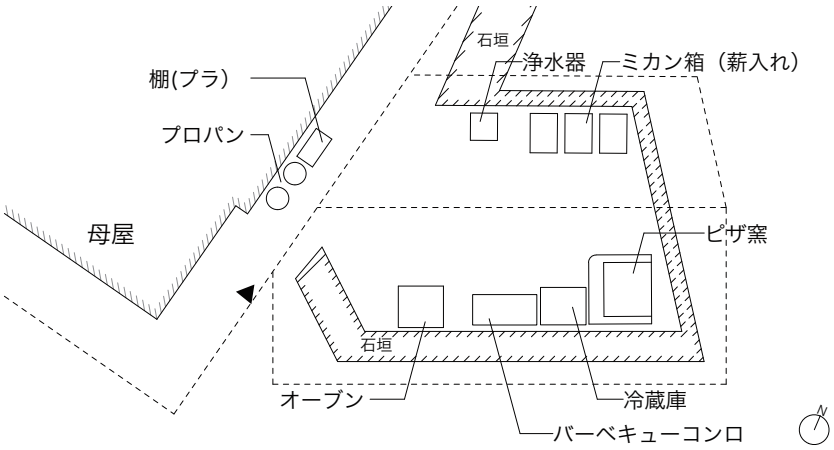


図 3-18 平面図　　S=1:100

3-2-4-2. 資材調達

設計内容に基づき、資材の数量を算出し調達した。資材は熊野市にあるホームセンターで購入できるものより決定し、耐火モルタルなど一部の特殊な資材についてはネットより注文した。調達にかかった費用の概略は次表に示す（表 3-6）。

3-2-4-3. 施工

ピザ窯の施工は多田と佐野、学生たちが赤倉に滞在して行った。2 泊 3 日の工程を 2 回、計 6 日間で行った。工程の概略は次表に示す（表 3-7）。また各工程の様子を示した写真も掲載する（図 3-19、3-20、3-21、3-22）。

さらに各工程での失敗や気づき、工夫についても次表（表 3-8）にまとめ、それに伴う写真を掲載する（図 3-25、3-26）。

表3-6　費用内訳

	使用材料	費用(円)
ピザ窯材料	ブロック、耐火レンガ、セメント、耐火セメント、煙突、メッシュ筋	8.2万
その他備品	ピザカッター、耐熱グローブ、ホームベーカリー等	1.1万
電灯用 電気回線工事		2.0万
合計		11.3万

表3-7 工程表

1回目	(2020年) 11月20日	整地、足元コンクリート打設、コンクリート床板の焼板の型枠
	11月21日	ブロック積み、コンクリート床板焼板打設
	11月22日	レンガアーチの型枠
2回目	12月 4日	コンクリート床板脱型
	12月 5日	レンガ積み
	12月 6日	レンガアーチ脱型、煙突、扉

図 3-19 端材で型枠をつくる

図 3-20 ブロックを積む

図 3-21 アーチをつくる

図 3-22 完成

また、施工の一部について、地域住民の協力やアドバイスを得た。育生町の陶芸工房「童心窯」を運営する橋爪氏からは、窯の熱や火や煙の回り方についてのアドバイスをいただいた。中平氏、新鹿町の石田氏からは丸ノコなどのハンドツールの使い方を指導していただいた。コロナ禍における活動ということで、学生間や学生から地域住民への感染がないよう、対策を講じて実施した。

表3-8 各工程における失敗および、気づき、工夫

工程	失敗、および気づき、工夫など
型枠	赤倉水産にあった不要になった木材やベニヤ板で製作した。 一部コーヒー飲料のプラ容器を型枠に使用したが、特に問題なく脱型できた（図15）。
コンクリート床版	計算上重量が120kg。 打設した場所と、ピザ窯設置場所が離れているため5人がかりで運搬を行った。
コンクリート焼板	脱型後、まっぷたつに割れてしまった（図16）。 熱が加わるため、焼板には鉄筋を入れられない。その上で、水とセメント、砂利の配合がいい加減だったか、突き固め不足であったか、いくつかの原因が考えられる。
レンガ積み	レンガが急速に水を吸いモルタルがすぐに乾いてしまう。 モルタルの水分量を増やすなどを試してみたが、水を張ったバケツにレンガを入れて十分に水を含ませてから施工した。
レンガアーチ	木製の楔を製作して、型枠とともに用いアーチに成形しながらレンガを積んだ。 楔を抜くタイミングが難しく、早すぎると壊れるし、遅すぎると抜けなくなってしまう。
扉	最初は木製で、その後鉄製につくり替えた。直接火が当たることはないが、熱により壊れた。数十回の使用しかできなかった。

図 3-25 プラ容器を型枠として使用

図 3-26 割れた焼板

3-2-5. ワーケーション整備後の運営

ピザ窯ができた後に、試運転を兼ねたモニターの利用５回を経たあと本格稼働させた。月 1 回程度の利用があり、利用者は家族や団体客である。また地域の会合やイベントの懇親会としても利用されている。また１ヶ月近くの長期滞在もあった。利用者の声と運営者・地域住民である中平氏のコメントを次表にまとめる（表 3-9）。表より、火について、ピザづくり、の 2 つについての意見が確認できる。薪で火を起こすスキルを身につけられることや火を使うことの楽しさの発見。ピザを生地からつくること、具材を選んだり形を工夫したりクリエイティブを発揮できること。さらに火でピザを焼くこと。これらの知識と体験を共有できることが利用者にとって重要であったと考えられ、ピザ窯を中心とした整備により山里民泊あかくらでの体験がより印象深いものとなっていることがうかがえる。さらに中平氏の次も何かをつくりたいとの発言からも、学生たちと協働でモノをつくることも含めて、ピザアクティビティの関係人口創出の可能性が認められる。

3-2-6. まとめ

以上より、人口の少ない山間集落であっても、製作活動を通して交流を創出したり、製作物の活用で集まり参加するきっかけとなることが示された。自然や食を通して、赤倉の

表3-9　利用者（2021.6-2022.5の総数103人からの抜粋）・中平氏の意見

回答者	回答内容
小2	お気に入りの具材の組み合わせを見つけた。 粉から生地を作るのが初めてで楽しかった。また、生地にチーズを乗せるのも楽しかった。ピザができて嬉しかった。
小6（女）	生地から作ったのは初めてで、こねるのが楽しかった。 また、石窯に薪を入れ火をつけるのはキャンプで一度やったことがあったが、ピザを焼いたのは初めてで面白かった。 自分でピザを作って焼くのは貴重な経験だったと思う。
中1（女）	生地をこねて作ったのが楽しかった。 自分で好きな具材をのせて作るのがワクワクするし、ピザ窯で焼くのが初めてだったから意外と早くてびっくりした。
不明	ピザの生地から作ったことがなく体験することができてよかった。 生地を作る際、生地を固める工程でこねるのが楽しかった。
不明	ピザを自分で生地から作ったり好きな具材をのせたりするのがとても楽しかった。 ピザ窯で焼く時間が5分掛からないのがびっくりした。 また体験したい。
30代女性 （熊野市）	ピザ釜に火をつける所からするのが楽しかった。 ピザも美味しかった。
30代女性 （熊野市）	ピザの生地作りの時、始めは不器用だったが途中から上手にこねられるようになった。 また、ピザで顔やライオン作ったりするなどの、子供たちの発想が面白かった。
30代女性 （熊野市）	火をつける作業が初めてという子どもが多く、お父さんおかあさんも教えられるほど知識が無いという家族が多いので、釜に火を入れるというのがプログラムの中でポイントになっていた。 あとは、オーブンや持ち運び型ピザ窯と違い、一瞬で焼ける＆安定した焼き加減というのがとても良い。
30代女性 （熊野市）	「あかくら」で作ったことで、ピザづくりの隙間時間にみんな伸び伸びと勝手に遊びはじめてくれる点も良いなと感じた。
中平氏	最初学生たちの動きや手つきを見て、しっかりと仕上がるのか心配だったが、日を追うごとに自発的に行動するようになりその成長を嬉しく思った。 予想以上のよいピザ窯が完成し、利用者にも喜んでもらえて良かった。 次は学生たちと露天風呂に挑戦したい。

関係人口の増加につながったと言える。さらに地域のイベントなどでも利用されていることから、本来の宿泊以外の目的でも活用されており、わざわざ赤倉に訪れるきっかけとなっている。

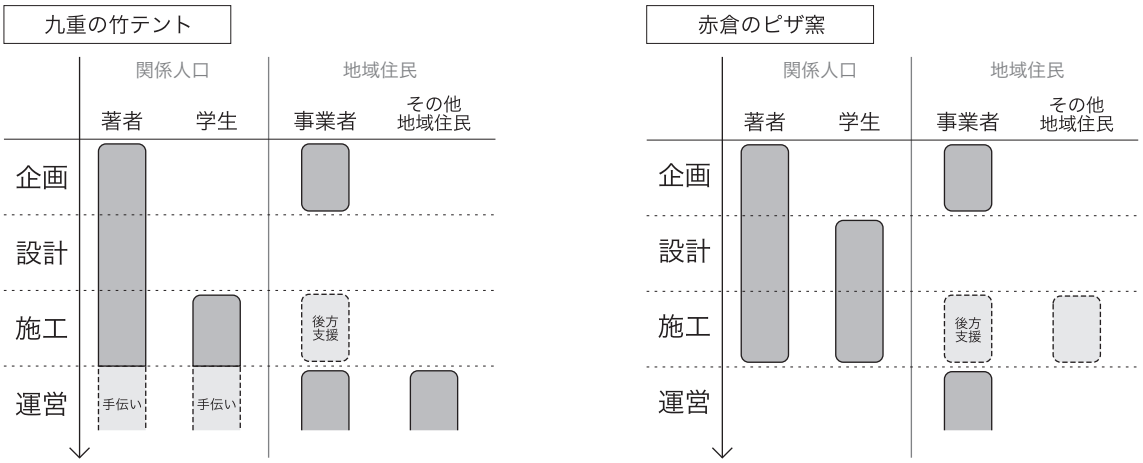
ただピザ窯の活用が繰り返し何度も行われるのに対し、製作するのは 1 回限りである。学生が定期的に地域に関係を持ち続けられるプロジェクトのあり方も望まれる。また、これらの関係人口の増加が地域にどのように作用するかは、中長期的な観察が必要である。

3-3　まとめ

以上、関係人口についての筆者が関わる実践にまつわる 2 論を述べた。イベント用テントとピザ窯では規模も用途も異なる制作物であるが、ともに建築をつくる知識、技術を駆使して、建築を学ぶ大学生と一緒に作り上げることができた。大学がなく、大学生がいない地域において、大学生たちが滞在し、地域住民と交流を持つことにおける一定の成果が認められる。

3-1、3-2 で述べた 2 事例について、著者、学生、事業者（地元住民）、およびその他の

地元住民のプロジェクトへの関与の仕方を次図にまとめる（図 3-27）。この図より、関係人口である著者と学生は企画、設計、施工にはしっかりと関与し、地域住民が企画、運営にしっかり関与している。著者、学生は運営には関与しないまたは補助的に関与する程度、反対に地域住民は設計や施工に関与しないまたは補助的に関与する程度である。専門知識・技術を有する関係人口がメインで設計と施工を行うのは地域にとってプラスとなりうる。ただ運営に携わり継続的に関係人口として関われていない実態が明確である。



参考までに著者が熊野で実践した他のプロジェクトでの関与の仕方を同様に図にまとめる（図 3-28）。各プロジェクトの概要については参考として図 3-29（巻末）に示す。図 3-28 では「コウノイエ」「コウノタヨリ」の 2 プロジェクトが関係人口として運営に関わっている。この 2 プロジェクトは地域住民と一緒にやっているのではなく、関係人口が独自に主体的にやっているプロジェクトであるからである。この 2 プロジェクトでは企画と運営に地域住民が関わっていない。そしてそれ以外の 4 プロジェクトでは同様の傾向といえる。

田中輝美が定義した関係人口に言及されている「時間」[18]、つまり定住のような永続的・長期的でもなく、観光客のような一過性・短期的な関わり方でない、その中間である「継続的」な関わり方が関係人口たらしめているという。しかし、著者のプロジェクトでは、企画から施工の段階では継続的な関わり方ができているが、運用の段階になると関係人口の関わりシロがなくなってしまう。継続的に関わるための仕組みづくりが必要で、例えば運営に関わったり、定期的にメンテナンスに行くなどを最初から計画しておくことが考えられる。

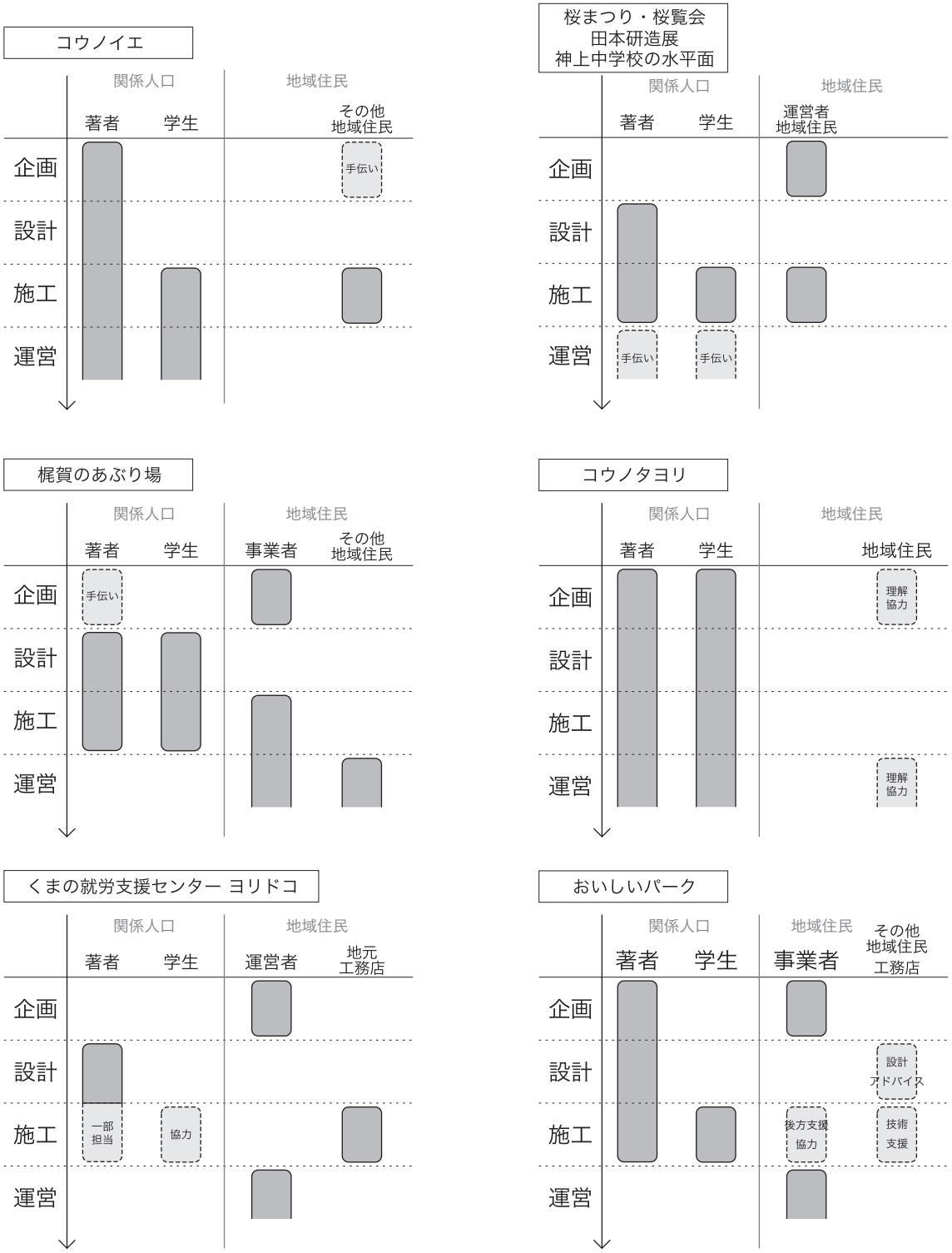


図 3-28　その他のプロジェクトのタームごとの主体の関わり方

注釈

注 1）繁殖力が強く成長の早い竹類が起こす様々な被害で、一帯のスギやヒノキが枯死する例もある。

注 2)「KUJU MARKET」は梅雨時に開催されたイベントで「竹テント」は雨除けの機能も求められており、それに即した仕様としている。雨天での使用が想定されない場合はさらに簡易につくれると考えられる。

注 3) 店舗も含めた屋根をつくるという案もあったが、出店者はイベントに備えてテントを持っていることから、来場者のためだけの屋根とした。

注 4) 三軸の竹の外側からパネルを取り付ければ、施工もパネル形状もシンプルになるのだが、端部がパネルで覆われた見た目となり、線材ならではの繊細さや構成の明快さが失われると筆者は判断した。

注 5) 根元の方は太く直径 100mm 程、上の方は細くなるため直径 30mm 程度を部材として採用した。

注 6) 例えば、記号や色の組み合わせで、どのテントであるか、土台側か屋根側か、四角形の 4 点のどこかを示せば、再度組み立てることができる。

注 7）ボルトの穴の位置や間隔が共通であれば､パネルと竹はどれを組み合わせてもよくなる。ただ、太さや節の位置が竹ごとで異なるため、個体差の少ない竹を吟味するか、あるいは個体差によらない仕口デザインを考える必要がある。

注 8）熊野地域には大学や短期大学がなく、高校を卒業した人が進学や就職を目的に地域外に出て行ってしまうことが人口統計などからも明らかで、地域の人口構成に偏りが生じ、また人口減、高齢化に拍車をかける大きな要因であると考えられる。

注 9）コロナ禍以降に簡易に行えるようになったリモート会議も、地域の関係人口を増やすツールとなりえていると実感した。

参考文献

1） 朝倉真一，野嶋政和：地域活性化を目的とした社寺境内地におけるフリーマーケットの特性と課題に関する研究，ランドスケープ研究 66 巻 5 号，日本造園学会，pp.789-794，2003.3
日本フリーマーケット協会：フリーマーケットとは，
http://freemarket-go.com/about.html（2021 年 6 月 1 日閲覧）

2) 鈴木聖一，大都市中心部における農産物の直売システムについて，独立行政法人農畜産業振興機構，野菜 / 情報コーナー，2011.7,
https://vegetable.alic.go.jp/yasaijoho/joho/1107_joho01.html（2021 年 6 月 1 日閲覧）

3) 橋本英樹他：都市構成要素としての露店の研究 その 2. 京都市における露店活動の類型，日本建築学会学術講演梗概集 F，pp.559-560，1994.7
4) 木下光，西村幸夫：街市（Retail Market）を中心とする香港の空間構成に関する研究，日本建築学会学術講演梗概集 F，pp.683-684，1994.7
5) 折田仁典：DEMATEL 法による定期市問題の構造化に関する研究，日本都市計画学会学術研究論文集，30 巻，pp.505-510，1995.10
Tanaka K.,et al.: STRENGTH PERFORMANCE OF JOINT WITH BAMBOO CONNECTOR FOR TIMBER STRUCTURES, The Architectural Institute of Japan' s Journal of Structural and Construction Engineering, Vol.73, No. 624, pp. 299-306, 2008.2 (in Japanese)
6) 田中圭，井上正文：木質構造用竹製接合具を用いた接合部の強度性能，日本建築学会構造系論文集 第 73 巻 624 号，pp.299-306，2008.2
7) 田中圭，井上正文他：丸竹の材料特性に関する基礎的研究（その 3）圧縮強度及び座屈の挙動に関する考察，日本建築学会九州支部研究報告集 第 44 号，pp.461-464，2005.3
8) 中川香子他：柱材を想定した丸竹の破壊試験，日本建築学会大会学術講演梗概集 構造 III，pp.53-54，2016.8
9) 芦澤竜一建築設計事務所，滋賀県立大学陶器浩一研究室，tmsd 萬田隆構造設計事務所：「水都大阪 水辺の文化座」新建築 2009 年 10 月号，pp173-175，新建築社
10) Toki K, Nagai T :DESIGN AND CONSTRUCTION OF SPATIAL STRUCTURE USING BAMBOO AS STRUCTURAL MATERIALS – Design and construction of emergency temporary building made of bamboo material (Part 1) -, AIJ Journal of Technology and Design, Vol.21, No.49, pp.1007-1012, 2015.10 (in Japanes)
11) 陶器浩一，永井拓生：竹を構造材料として用いた空間構造の設計および施工 - 竹を構造材料として用いた応急仮設建築物の設計・施工の実例　その 1-，日本建築学会技術報告集 第 21 巻 第 49 号，pp.1007-1012，2015.10
12) 滋賀県立大学陶器浩一研究室，髙橋工業:「竹の会所―復興の方舟―」，新建築 2011 年 12 月号，pp107-116，新建築社
13) 「特集：ヴォ・チョン・ギア・アーキテクツ」：a+u2016 年 7 月号，新建築社
14) 國定康子，神田隆介：ワーケション導入によるキャンプ場活性化について，ランドスケープ研究 85 巻 3 号，日本造園学会，pp258-259, 2021
15) 中川内克行，特集 自治体がワーケーション誘致：テレワーク活用、関係人口創出で地域を活性化，日経グローカル 374, pp.24-31, 2019.10
16) 毎日フォーラム，ワーケーション：仕事 + 休暇 新しい働き方 地域活性化としても注目，pp2-3, pp5-7, 2020.12
17) 三重県：農林水産部，農山漁村づくり課，子どもの自然体験機会創出事業費補助金の公募を開始します，

https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0023500119.htm（2020 年 3 月 3 日閲覧）
18） 田中輝美 , 関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生 , 大阪大学出版 , 2021, p.076

第４章　結論

4-1　本研究の成果
4-2　提言
4-3　今後の目標

4. 結論

4-1. 本研究の成果

関係人口に着目し、実態として、地域住民による取り組み（2 章）を俯瞰し、実践として、著者が地域住民とともに取り組んだプロジェクトについて論じた（3 章）。

2 章では、神社や寺院の維持管理に関わる人物へのヒアリングを中心に、神社や寺院の日々の維持管理、行事前の準備、そして行事当日というサイクルについての実態を明らかにした。複数の地域間の歴史や関係性で並列、上下、合同、共有などの関係性があること、そのサイクルには神社による地縁的つながり、寺院による血縁的つながりの 2 つのタイプがあることが明らかとなった。さらには職業的なつながりによる小祠のサイクルが存在する可能性も示唆された。

そのような重層的な関わりに対し、高齢化や人口減にともなって増えてきている負担を、いかにして軽減し、また行事として存続させるのかという実態を明らかにし、省力化の 4 要素（場所の拡張、儀式の簡略化、制度の緩和、頻度を減らす）として分類した。

これらは、長らく続く歴史や風習と、徐々に増大化する実際的な負担という、2 つのベクトルの拮抗とバランスで成立している。現時点では、ここに関係人口の介入はみられなかったが、地縁的つながりの神社についての行事、また日々の維持管理を手伝うという関わり方があるのかもしれない。

1-1 で述べた田中による関係人口が地域を再生する 3 ステップ、および著者が考えるその前段階の地域に関わり関係人口となる 3 つのきっかけについて、あらためて記載する。

〈著者による地域に関わり関係人口となる 3 つのきっかけ〉
①関係人口が地域住民の日々の営みを手伝う
②関係人口が地域で新規で活動を始める
③関係人口が地域住民の日々の営みを助けるような新規活動を始める（①と②のハイブリッド）

〈田中による関係人口が地域を再生する 3 ステップ〉
第 1 ステップ：関係人口が地域課題の解決に動き出す
第 2 ステップ：関係人口と地域住民の間に信頼関係が築かれる
第 3 ステップ：地域住民が地域課題の解決に動き出す

地域住民が省力化を採用しながらも継続しようとする神社・寺院の維持管理と行事運営に対し、きっかけ①あるいは③によって関わっていくことができるだろう。きっかけ①による手伝い（図 4-1）は労働力の提供であり、シンプルである。きっかけ③による手伝い（図 4-2）は、関係人口の持つスキルを役立てた上での手伝いである。地域に不足しているスキルと関係人口の持つスキルのマッチングが不可欠であるが、地域住民としっかりとコミュ

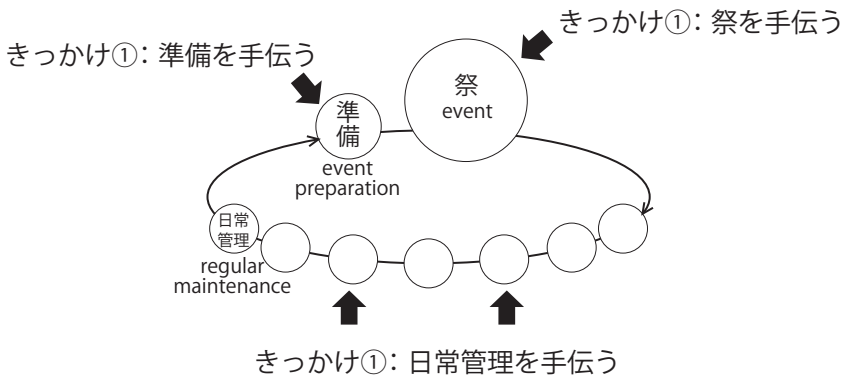


図 4-1　きっかけ①による維持管理・行事運営の手伝いの提案

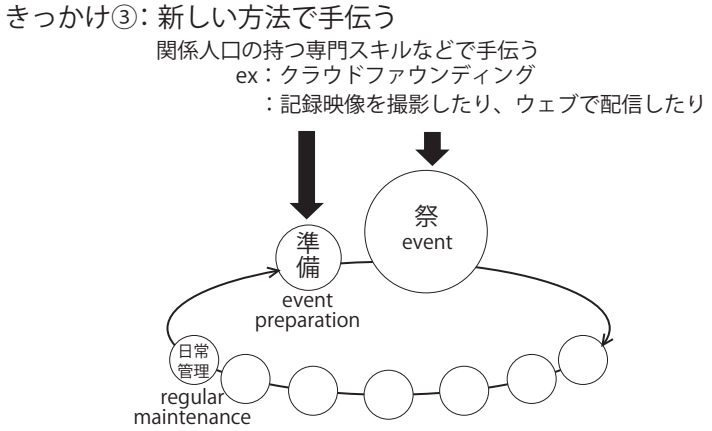


図 4-2　きっかけ③による維持管理・行事運営の手伝いの提案

ニケーションをとり、しっかりと観察すれば自ずと方策は見つかるだろう。そして、これら維持管理と行事運営の手伝いは地域に根付く習慣や文化の理解が不可欠であり、またその理解は深まっていく。これが田中の第 1 ステップ、第 2 ステップとなり、しかるべき時に本質的な解決策を導く第 3 ステップへとつながるだろう。

3 章では、大学生との取り組みを紹介した。その地域にとって新しい取り組みであるため、企画立案から設計、施工までの一連の取り組みとなっている。大学生がメインで活動しながらも、時には地域住民の協力やアドバイスを仰ぎ、モノづくりを行っている。

ここでは 1-4 でとりあげた著者が本論で定義した関係人口と、田中が定義する関係人口およびその条件についてあらためてまとめる。

関係人口（著者）：特定の地域に継続的に関心を持ち関わるよそ者、かつ、そのよそ者に導かれ一時的、または継続的に関心を持ち関わるよそ者とする。

関係人口（田中）：特定の地域に継続的に関心を持ち関わるよそ者
田中による関係人口を定義する３つの条件①空間②時間③態度

①＝地域外から関わる（よそ者）

②＝継続的（長期的＝定住、一過性＝観光、ではないその中間）

③＝関与するだけ（例えば返礼品目当てのふるさと納税）でなく、関心を持つこと

著者が定義する関係人口は田中のそれをアップデートしたものである。つまり３章で活躍した学生を「よそ者に導かれ一時的、または継続的に関心を持ち関わるよそ者」として関係人口に定義している。これは田中の３条件にはない「一時的」という時間を含んでいる。学生の多くは大学のゼミ活動の一環で参加しており、もちろんある程度の興味や関心は持っているのだが、田中の定義する関係人口に比べると経験が不足しているのはもちろん、十分な主体性や実行力があるとはいいがたい（もちろんそうでない学生が稀にいる）。しかし彼らは経験により成長し、主体性や実行力を獲得していくことも事実である。彼らの関与は在学中の１～３年に限られているが、卒業後しばらくの時間を経て、関係人口あるいは定住人口といて関わってくる可能性を大いに秘めており、期待を持ってもいいだろう（図4-3、4-4）。

また著者が実践しているプロジェクトは複数年、複数回ではない単発のプロジェクトであるため継続的な関係の構築には至っておらず、その点は今後の課題としてあげられる。

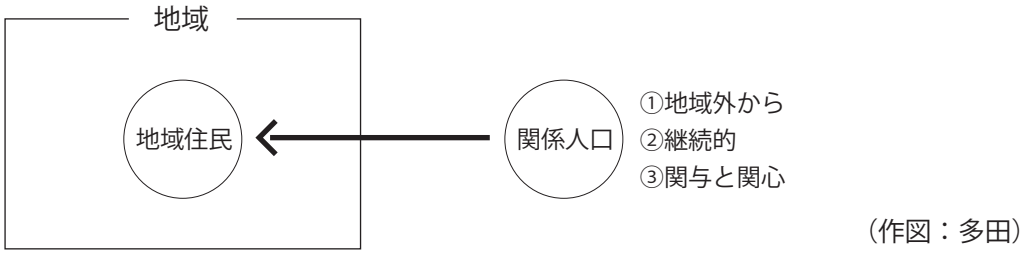


図 4-3　田中による地域住民と関係人口の関係性

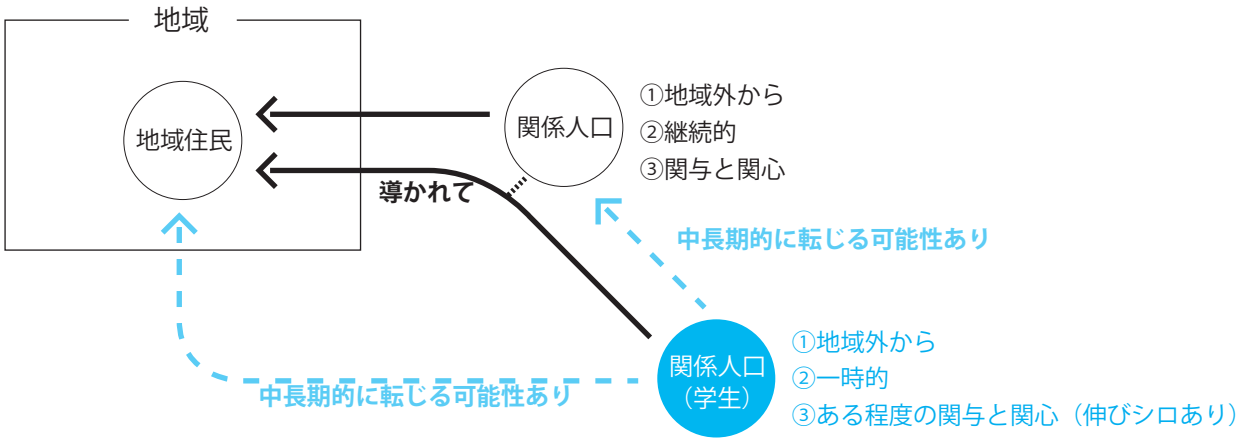


図 4-4　地域住民と関係人口・関係人口（学生）の関係性

著者の熊野地域における研究および活動は、理論と実践の両輪として位置付けている。そして実際は実践としての活動が先行してあり、これらの活動の背景にある理論を体系としてまとめる必要を感じ、研究を行うに至った。著者は大阪、京都に居をかまえ、熊野地域には関西から通い続けることでコミットしている。これはまさに関係人口としての地域への関わり方で、そのようなことが明らかになると、今度は関係人口の理論を念頭に活動をおこなっている。これは理論と実践が両輪として回転し始めたということであろうし、結果、地域にとって良い何かを残すことになるだろうと確信している。

4-2. 提言

3 章での課題、継続的に地域に関わっていくことは、2 章での地縁的かかわりの神社について、その行事や日々のメンテナンスを手伝うということをセットで考えることで、関係人口の取り組みへとつながっていく可能性がある。2 章の活動は毎年、毎回、同じことを繰り返す、継承性が重んじられるのに対し、3 章では新規性、学生ならではのクリエイティビティが求められている（もちろん、学生たちもそこにモチベーションを見出している）。そのギャップを埋める、つまり地域住民にとって継続が困難になりつつある活動を補助してもらいながら、大学生たちの新しく「つくる」という欲求を満足させることを狙いとした、活動づくりが求められる。

また田中は関係人口のありかたの 3 つのステップ（関係人口が関わることで、最終的には地域住民自身が課題解決をする）を示しているが、関係人口が関わることで、地域活動の持続可能性が増すことを考える必要がある。

関係人口の功罪について考えさせられるエピソードを紹介する。第 2 章の研究の調査において、熊野市飛鳥町でのヒアリングで「飛鳥夏まつり」の話をおうかがいした。ヒアリングの時点ではすでに中止されてしまっていたため研究対象からは除外した祭りである。長年、地域で開催されてきた毎盆踊り、夏まつりであった。ある年から大学生のボランティア団体の支援を受け、運営や実施を学生たちが担い、大変盛況であったという。しかし運営や実施のほとんどを学生たちに託してしまうことに地域として疑問をを抱き、様々な議論のすえ、祭りの存続を諦めてしまったという経緯があった。このエピソードは著者自身が活動を行ううえでの教訓としてあり、また関係人口と地域住民が担うべき役割、果たすべき目的が異なることを示していると考えられる。

4-3. 今後の目標

著者自身は、ここで取り上げた 3 章の 2 事例以外にも複数のプロジェクトを実践し、また現在進行形で実践中である。関係人口の理論を重ね合わせた活動とすることで、理論と実践が両輪となり、地域が豊かになり、そこに関わる地域住民および関係人口、そして著者自身が幸せになれる道を求めていきたい。

熊野 | Kumano

人と人、人と地域の関係性のつくり方

熊野のプロジェクトは、完成した時が終了ではない。計画し、施工し、運営している時も含めて機能しているといえる。

私たちが 2015 年からの 7 年間で行ったプロジェクトを俯瞰し、誰がプロジェクトに関わってくれたかを示す「参加者」、何をつくるプロジェクトであったかを示す「種類」、常設のものか仮設のものかを示す「施工」、どこで手にいれた材料かを示す「素材」、デザイン言語を示す「デザイン」の 5 つについてタグ付けし、整理を行った。5 つのタグに基づき、プロジェジクトが様々な関係性を築いたことがわかるだろう。

How to create relationships between people and people and communities

Kumano's project does not end when it is completed. It can be said that it is functioning even when planning, constructing, and operating.

A bird's-eye view of the projects we have carried out in the seven years from 2015, "participants" showing who was involved in the project, "types" showing what the project was made, permanent or temporary We tagged and organized the five items: "construction", which indicates "construction", "material", which indicates where the material was obtained, and "design", which indicates the design language. Based on the five tags, you can see that the project has established various relationships.

---

①神川町 | Kamikawacho

人口300人ほどの山間集落。休校になった中学校の木造校舎があり、そこでイベントなどが行われている。

A mountain village with a population of about 300. There is a closed junior high school wooden school building where events are held.

②新宮市 | Shingu City

人口3万人ほどの地方都市。日本の主要都市から離れており、高齢化、過疎化が深刻であるが、市内にいくつかの世界遺産があり、それを求めてやってくる人は絶えない。

A local city with a population of about 30,000. It is far from the major cities of Japan, and the aging and depopulation are serious, but there are some World Heritage Sites in the city, and people are constantly coming in search of it.

③梶賀 | Kajika

人口180名ほどの漁村。湾状の地形で近隣集落とは隔絶しているため、独自の文化を形成している。魚を保存加工する「あぶり」は梶賀独自の食文化である。

A fishing village with a population of about 180 people. The bay-like terrain is isolated from neighboring villages, forming a unique culture. "Aburi", which preserves and processes fish, is Kajika's unique food culture.

④九重 | Kuju

人口20名ほどの山間集落。休校になった小学校をリノベーションしたカフェ、本屋、パン屋を若者たちが経営しており、多くの人が集まる観光スポットになっている。

A mountain village with a population of about 20 people. Young people run cafes, bookstores, and bakeries that have been renovated from closed elementary schools, making it a tourist spot where many people gather.

神上中学校の水平面
horizon in kounoue junior haigschool

大学生 university student | 企画 plan | 仮設 temporary | 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose | 面 surface

旧・神上中学校の教室にイベントのための大きな家具を製作した。本を読みながらお茶と餅をいただけるイベントで、水平面が、テーブルであり、イスであり、本棚であり、舞台となる。

We made a large piece of furniture for the event in the classroom of the former Kounoue Junior High School. It is an event where you can enjoy tea and rice cakes while reading a book, and the horizontal plane is a table, a chair, a bookshelf, and a stage.

桜覧会
sakuran-kai

地元住民 locals | 大学生 university student | グラフィック graphic | 企画 plan | 仮設 temporary | 面 surface

この地域にあった祭りをリニューアルした。高齢化している地域の負担を減らし、学生や若者が参入しやすい環境をつくった。

The festival in this area has been renewed. We reduced the burden on the aging area and created an environment where students and young people can easily enter.

熊野ニスム！
kumanonismu!

11組のアーティストたちのよるアートインレジデンスと1週間にわたる展覧会の企画、会場デザインを行った。

We planned an exhibition and designed the venue for a week with an art-in-residence by 11 groups of artists.

地元住民 locals | 大学生 university student | 企画 plan | 仮設 temporary | 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose

ダム展
exhibition of dam

地元企業 Local company | 大学生 university student | 企画 plan | 仮設 temporary | 地元素材 local material | 面 surface

旧・神上中学校内で、地域にあるダムの歴史をたどる展覧会を行った。
学校の机を集め、ダムを模した壁をつくり、そこに写真や資料を展示した。

An exhibition that traces the history of dams in the area was held at the former Kounoue Junior High School.
We gathered school desks, built a wall that imitated a dam, and exhibited photographs and materials there.

九重の竹テント
bamboo tent in Kuju

「雨でも楽しい」をコンセプトにしたマルシェイベントを企画・デザインした。さらに竹でつくるパビリオンを開発、製作した。

We planned and designed a Marche event with the concept of "Fun Even in the Rain". We also developed and manufactured a pavilion made of bamboo.

地元企業 Local company | 大学生 university student | 空間 space | 家具 furniture | 企画 plan | 仮設 temporary | 組立・分解 Assembly, disassembly | 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose | 特注品 Custom-made | 線 lain

赤倉のピザ窯
pizza kiln in Akakura

山間集落にある自然体験施設に、地域住民と大学生たちでピザ窯をつくった。コンクリートの打設、レンガ積みなどを学んだ。

A pizza kiln was built by local residents and university students at a nature experience facility in a mountain village. We learned how to place concrete and build

地元住民 locals | 大学生 university student | 家具 furniture | 常設 permanent | 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose

コウノタヨリ
KOH no TAYORI

大学生 university student | 企画 plan | その他 others | ポータブル portable | グラフィック graphic

神川町で発行するローカル新聞を企画・デザイン・執筆・出版している。全戸配布する冊子版と地域内に貼る壁新聞版の２種類からなり、壁新聞版の小さなポケットに冊子版が収納される。

Planning, designing, writing and publishing local newspapers published in Kamikawa Town. It consists of two types, a booklet version distributed to all households and a wall newspaper version to be pasted in the area, and the booklet version is stored in a small pocket of the wall newspaper version.

コウノイエ
khonoie

約100年前の古民家をセルフビルドで改修し、学生たちのための拠点・ギャラリーをつくった。地元製材所と協力し、釘や接着剤を使わずに組み立てられるヒノキの板"クマノバン"を開発・製作した。

A self-building renovation of an old folk house about 100 years ago created a base and gallery for students. In cooperation with a local sawmill, we developed and manufactured a cypress board "Kumanoban" that can be assembled without using nails or adhesives.

地元企業 Local company | 大学生 university student | 空間 space | 企画 plan | 仮設 temporary | 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose | 特注品 Custom-made | 面 surface

田本研造展
exbition of Tamoto Kenzo

大学生 university student | 空間 space | 企画 plan | 仮設 temporary | 地元素材 local material | 面 surface

約150年前に活躍した神川町出身の写真技師・田本研造の展覧会を企画・デザインした。障子紙を用いて光と影を感じる空間とし、写真を想起させる展覧会にした。

We planned and designed an exhibition by Kenzo Tamoto, a photographer from Kamikawa who was active about 150 years ago. The exhibition is reminiscent of photographs, using shoji paper to create a space where you can feel the light and shadow.

梶賀のあぶり場
factory of "Kajika no Aburi"

漁村である梶賀に伝わる郷土料理「梶賀のあぶり」をつくるための小さな工場をつくった。漁港にある海女小屋をDIYで増築・リノベーションした。煙を排出するための三角形の屋根は、海から良く見えて梶賀のシンボルになっている。

We built a small factory to make "Kajika no Aburi", a local dish that is handed down in Kajika, a fishing village. The ama hut in the fishing port was expanded and renovated by DIY. The triangular roof for discharging smoke is clearly visible from the sea and is a symbol of Kajika.

地元住民 locals | 地元企業 Local company | 大学生 university student | 空間 space | 常設 permanent | 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose | 特注品 Custom-made | 面 surface | ボリューム solid

しゃべくろらい
syabekurorai

熊野の高校生、農家、デザイナー、商店店主たちが、自分たちの活動や主張をプレゼンするイベントを企画した。ロゴマークをデザインし、スタッフTシャツをつくり、イベントのブランディング化を行っている。

We organized an event where high school students, farmers, designers and shop owners from Kumano presented their activities and claims. We design logo marks, make staff T-shirts, and brand the event.

地元住民 locals | 地元中高生 Local students and kids | 大学生 university student | 企画 plan | 仮設 temporary

しゃべくろだい
syabekurodai

イベント「しゃべくろらい」のための展示台をデザイン・製作した。マンガの吹き出しを模したデザインで、様々な大きさに組み立てることができる仕様になっている。

Designed and produced an exhibition stand for the event "shabekurorai". It is designed to imitate a manga balloon and can be assembled into various sizes.

大学生 university student | 企画 plan | 仮設 temporary | 組立・分解 Assembly, disassembly | 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose | 面 surface

おいしいパーク
Buono! Park

私設の畑＋公園＋図書館をつくるプロジェクト。老若男女が集い、収穫を祝い、野菜料理のレシピを教え合う小さな公共空間をつくる。

A project to create a private field + park + library. Create a small public space where people of all ages gather to celebrate the harvest and teach recipes for vegetable dishes.

地元企業 local company | 大学生 university student | 家具 furniture | 常設 permanent | 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose | 面 surface

ヨリドコ
くまの就労支援センター
Kumano employment support center yoridoko

ひきこもりや発達障害を持つ子供たちのための就労支援のための小さな施設。商店街の洋品店をリノベーションし、地域に開いた建築をつくった。事業者とともにクラウドファウンディングで資金を集め、実現した。

A small facility for employment support for children with hikikomori and developmental disabilities. We renovated a clothing store in the shopping district and created an open architecture in the area. It was realized by collecting funds with the cloud founding together with the business operator.

地元中高生 Local students and kids | 地元企業 Local company | 大学生 university student | 空間 space | グラフィック graphic | 企画 plan | 常設 permanent | 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose | 面 surface | ボリューム solid | グラフィック graphic

---

凡例 usage guide

参加者 participant: 地元住民 locals | 地元中高生 Local students and kids | 地元企業 Local company | 大学生 university student

種類 kinds: 空間 space | 家具 furniture | グラフィック graphic | 企画 plan | その他 others

形式 format: 常設 permanent | 仮設 temporary | 組立・分解 Assembly, disassembly | ポータブル portable

素材 material: 地元素材 local material | 汎用品 General-purpose | 特注品 Custom-made

デザイン design: 線 lain | 面 surface | ボリューム solid | グラフィック graphic

図3-29　熊野でのプロジェクト

謝辞

本研究は、京都で設計事務所を主宰する著者が 2014 年にひょんなことから熊野地域に関わったことに端を発する。熊野でプロジェクトを実施するなかで、たくさんの人たちと出会い、様々な場所を訪れた。その際に、熊野で営まれている生活やその背景にある文化に興味をひかれ、研究を始めることとなった。

とはいうものの、漠然とした熊野への興味と熊野のプロジェクトを、アカデミックな研究というの枠組みにおさめ、さらにそこから実践的な知見を得るに至るには、横田隆司教授、飯田匡助教（現・関西学院大学准教授）、伊丹康二助教（現・武庫川女子大学准教授）伊丹絵美子准教授、青木嵩助教の多大で粘り強いご指導をいただくことなしには実現することはありませんでした。謹んで感謝申し上げます。

また調査研究にあたり、ヒアリングを受けてくださった熊野のみなさんに深い感謝を申し上げるとともに、調査にご理解をいただき、暖かく迎え入れてくださったさらに多くの熊野のみなさんにも感謝申しげます。そして、この研究のヒアリング調査を一緒に実施してくれた小刀夏実さんがいなければ、研究のスタートラインに立つこともできなかったでしょう。あらためて感謝申し上げます。

さらに熊野でのいくつものプロジェクトを実施するにあたりご協力いただき、おつきあいいただいた熊野のみなさん、企業、そして妻であり近畿大学佐野研究室の佐野こずえ講師、近畿大学、大阪大学の学生のみなさん。あらためて感謝いたします。

著者が、今後も熊野に関わり続けることが、みなさんへの返礼になると信じています。

2022 年 11 月　多田 正治

参考文献

参考文献

本研究において、各章で引用した文献とその他の参考文献を以下に示す。

〈第 1 章〉

1） 内閣府 , 高齢化の国際的動向
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1_1_2.html（2022 年 10 月参照）

2） 千野雅人 , 総務省統計局 ,　人口減少社会「元年」は、いつか？
https://www.stat.go.jp/info/today/009.html（2022 年 10 月参照）

3） 林直樹 , 齋藤晋 その他 , 撤退の農村計画―過疎地域からはじまる戦略的再編 , 学芸出版社 , 2010

4） 山下祐介 , 地方消滅の罠 -「増田レポート」と人口減少社会の正体 , 筑摩書房 , 2014

5） 田中輝美 , 関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生 , 大阪大学出版 , 2021

6） 高橋博之 , 都市と地方をかきまぜる「食べる通信」の奇跡 , 光文社 , 2016

7） 指出一正 , ぼくらは地方で幸せを見つける ソトコト流ローカル再生論 , ポプラ社 , 2016
田中輝美 , 関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生 , 大阪大学出版 , 2021,pp.243-268

8） 安藤慎悟ほか「中央省庁による関係人口創出施策の動向」日本都市計画学会 , 都市計画報告集 No.21, 2022 年 8 月 , pp204-211

9） 田中輝美 , 関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生 , 大阪大学出版 , 2021,pp.243-268

10） 新宮市 , 新宮市人口ビジョン
https://www.city.shingu.lg.jp/div/kikaku/pdf/furusato/5shiryou2-2.pdf（2020 年参照）

11） 田中輝美 , 関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生 , 大阪大学出版 , 2021, pp.73-77

〈第 2 章〉

1） 総務省 ” 過疎対策 ” 過疎対策の沿革について
https://www.soumu.go.jp/main_content/000476760.pdf（参照 2020.3.1）

2） 西田薫 , 佐久間治 : 神社空間が都市機能として持つ意味と役割についての研究－北九州市八幡西区長崎街道周辺地域のスタディーを通して－, 日本建築学会大会学術講演梗概集 , 都市計画 , pp.97-98, 2016.7

3） 渡邊千央実 , 中桐祥子 , 山崎寿一 : 尼崎市･富松神社を核とした地域づくりの展開に関する一考察－富松一寸豆祭を中心として , 農村計画学会誌 , 31 巻 Special_Issue 号 , pp.255-260, 2012.11

4） 斎藤亮司 , 藍澤宏 : 農村地域における地域資源活用からみた住民参画の様態に関する研究 , 日

本建築学会計画系論文集 , 第 555 号 , pp.223-229, 2002.5
5) 中村久美 : 地域生活における集会所運営の評価とそのあり方
宇治市における集会所の運営・管理の検証－, 生活学論叢 , Vol.18, pp.3-12, 2011.3
6) 冬月律 ：過疎地神社の研究 人口減少社会と神社神道 ， 北海道大学出版会 , pp.296-308, 2019.9
7) 仁井田好古 等編 : 紀伊続風土記 第 3 輯　伊都，有田，日高，牟婁， 帝国地方行政会出版部 , p.227, 1910-1911
8) 仁井田好古 等編 : 紀伊続風土記 第 3 輯　伊都，有田，日高，牟婁， 帝国地方行政会出版部 , pp.267-269, 1910-1911
9) 三重県神社庁 : 三重県神社誌 , pp.643-644, 1993.10
10) 櫻井治男 : 地域神社の宗教学 , 弘文堂 , p.147 , 2010.12
11) 熊野市史編纂委員会 : 熊野市史 , 下巻 , p.838, 1984.3
12) 北山村史編纂委員会 : 北山村史 , 下巻 , pp460-461, 1987.8
13) 熊野市史編纂委員会 : 熊野市史 , 下巻 , p.843, 1984.3
14) 熊野市史編纂委員会 : 熊野市史 , 下巻 , p.839, 1984.3
15) 熊野市史編纂委員会 : 熊野市史 , 下巻 , p.839, 1984.3
16) 熊野市史編纂委員会 : 熊野市史 , 下巻 , p.841, 1984.3
17) 熊野市史編纂委員会 : 熊野市史 , 下巻 , p.847, 1984.3
18) 仁井田好古 等編 : 紀伊続風土記 第 3 輯　伊都，有田，日高，牟婁， 帝国地方行政会出版部 , p.268, 1910-1911
19) 熊野市史編纂委員会 : 熊野市史 , 下巻 , p.320, 1984.3
20) 熊野市史編纂委員会 : 熊野市史 , 下巻 , pp.470-485, 1984.3
21) 熊野市史編纂委員会 : 熊野市史 , 下巻 , pp.318-320, 1984.3
22) 多田正治他 ：神社・寺院を含む地域施設の管理と行事運営の実態に関する研究 三重県熊野市を対象として , 地域施設計画 , vol.36, pp.219-226, 2018.7

〈第 3 章〉

1) 朝倉真一，野嶋政和：地域活性化を目的とした社寺境内地におけるフリーマーケットの特性と課題に関する研究，ランドスケープ研究 66 巻 5 号，日本造園学会，pp.789-794，2003.3
日本フリーマーケット協会：フリーマーケットとは，
http://freemarket-go.com/about.html（2021 年 6 月 1 日閲覧）
2) 鈴木聖一，大都市中心部における農産物の直売システムについて，独立行政法人農畜産業振興機構，野菜 / 情報コーナー，2011.7,
https://vegetable.alic.go.jp/yasaijoho/joho/1107_joho01.html（2021 年 6 月 1 日閲覧）
3) 橋本英樹他：都市構成要素としての露店の研究 その 2. 京都市における露店活動の類型，日本建築学会学術講演梗概集 F，pp.559-560，1994.7

4) 木下光，西村幸夫：街市（Retail Market）を中心とする香港の空間構成に関する研究，日本建築学会学術講演梗概集 F，pp.683-684，1994.7
5) 折田仁典：DEMATEL 法による定期市問題の構造化に関する研究，日本都市計画学会学術研究論文集，30 巻，pp.505-510，1995.10
6) Tanaka K.,et al.: STRENGTH PERFORMANCE OF JOINT WITH BAMBOO CONNECTOR FOR TIMBER STRUCTURES, The Architectural Institute of Japan' s Journal of Structural and Construction Engineering, Vol.73, No. 624, pp. 299-306, 2008.2 (in Japanese)
7) 田中圭，井上正文：木質構造用竹製接合具を用いた接合部の強度性能，日本建築学会構造系論文集 第 73 巻 624 号，pp.299-306，2008.2
8) 田中圭，井上正文他：丸竹の材料特性に関する基礎的研究（その 3）圧縮強度及び座屈の挙動に関する考察，日本建築学会九州支部研究報告集 第 44 号，pp.461-464，2005.3
中川香子他：柱材を想定した丸竹の破壊試験，日本建築学会大会学術講演梗概集 構造 III，pp.53-54，2016.8
9) 芦澤竜一建築設計事務所，滋賀県立大学陶器浩一研究室，tmsd 萬田隆構造設計事務所：「水都大阪 水辺の文化座」新建築 2009 年 10 月号，pp173-175，新建築社
10) Toki K, Nagai T :DESIGN AND CONSTRUCTION OF SPATIAL STRUCTURE USING BAMBOO AS STRUCTURAL MATERIALS – Design and construction of emergency temporary building made of bamboo material (Part 1) -, AIJ Journal of Technology
11) and Design, Vol.21, No.49, pp.1007-1012, 2015.10 (in Japanes)
陶器浩一，永井拓生：竹を構造材料として用いた空間構造の設計および施工 - 竹を構造材料として用いた応急仮設建築物の設計・施工の実例　その 1-，日本建築学会技術報告集 第 21 巻 第 49 号，pp.1007-1012，2015.10
12) 滋賀県立大学陶器浩一研究室，髙橋工業:「竹の会所―復興の方舟―」，新建築 2011 年 12 月号，pp107-116，新建築社
13) 「特集：ヴォ・チョン・ギア・アーキテクツ」：a+u2016 年 7 月号，新建築社
14) 國定康子，神田隆介：ワーケション導入によるキャンプ場活性化について，ランドスケープ研究 85 巻 3 号，日本造園学会，pp258-259, 2021
15) 中川内克行，特集 自治体がワーケーション誘致：テレワーク活用、関係人口創出で地域を活性化，日経グローカル 374, pp.24-31, 2019.10
16) 毎日フォーラム，ワーケーション：仕事 + 休暇 新しい働き方 地域活性化としても注目，pp2-3, pp5-7, 2020.12
17) 三重県：農林水産部，農山漁村づくり課，子どもの自然体験機会創出事業費補助金の公募を開始します，
https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0023500119.htm（2020 年 3 月 3 日閲覧）
18) 田中輝美，関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生，大阪大学出版，2021, p.076

付録

熊野市内の集落の神社、寺院、集会施設の調査データシート

高倉神社

日時：2017/12/03　12:00-12:20
対象者：田中氏（育生町大井区長）

所在地：三重県熊野市育生町大井
所有：育生町大井地区
所属：不明（神社本庁管轄外）
神職：常駐しない
　　※他神社（熊野市五郷町）と兼務
氏子：育生町大井地区住民
御祭神：不明
祭祀：11 月 3 日

日常時

管理（掃除）制度

- 日常管理

参加者：大井区民 4-5 人（総代[注1)]、区長）
頻度（時期）：月 1 回
※高齢化（区民のほとんどが 80 代）のため安全性や負担を考慮して仕組みを変更
　以前：月２回→月１回（月末日曜日）、４組[注2)] で持ち回り→出られる人だけ参加
内容：1-2 時間程度
　　掃除や榊の手入れ

- 臨時管理（不定期）

参加者：10 人程度
頻度（時期）：祭りの前（11/31）
内容：2 時間程度（午前 8 時～ 10 時くらい）
　　落ち葉の掃除、祭りの設営

維持管理費

経費種別：不明

利用状況

時々参拝する方がいる

注 1）総代：１人。毎年選挙でえらばれるが、人口が少ないため現総代が 10 年程続投中。
注 2）大河原組、小口組、向大井組、田ノ野組

非日常時 ----------

行事内容

日時：11 月 3 日高倉神社例大祭

内容：10：00 神事

12：00 弁当を持ち寄って食事@センター

15：00 餅ほり

参加者：

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
15 人程度	○	×	○	×

運営（準備）

参加者：不明

準備工程：

10/31 神社掃除、設営（のぼりなど）

11/1 米準備（寄付）

11/2 餅つき

※例大祭後の直会での食事は各自で用意する。

必要経費

経費種別：神主への謝礼、しめ縄や餅代

財源：ご祈祷料（お供え）

高倉神社のアプローチ空間

大井生活改善センター

日時：2017/12/03　12:00-12:20
対象者：田中氏（育生町大井区長）

所在地：三重県熊野市育生町大井 240
所有：熊野市
設立年：1970 年
管理者：常駐しない
※区長や近隣住民数名が鍵を管理
※耐震性の問題より避難所には指定されていない。

no photo

管理（掃除）制度
- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）
参加者：参加可能な大井区民全員（10 人程度）
頻度（時期）：年 2 回（盆、正月）
内容：3-4 時間程度

維持管理費
経費種別：光熱水費
財源：区会計

利用状況
利用用途：
・会合（区の総会（年 1 回）、役員会（年 1 回））
・座談会 / 熊野市と福祉に携わる大井区民の方が中心となって実施
※建物が高所（階段 10 段程度）にあり高齢者が利用しづらいため、
教室やイベントは育生町長井地区のセンターを利用する。
・高倉神社例大祭後の直会（行事内容等は「高倉神社」参照）
利用回数 / 延べ利用者数：不明（平成 28 年度実績報告書[文 1)] に記載なし）
利用方法：鍵を管理する区長もしくは近隣住民より借りる。
利用時の記帳は現在行っていない。

利用内容｜座談会
日時（頻度）：月 1 回
内容：食事会、ものづくりなど
準備：主催者
参加者：

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○※	×	×	×

文 1) 大井生活改善センター実績報告書（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

必要経費

経費種別：材料費（2000 円程度）

財源：熊野市の補助金

簡略化・消滅した行事

①仲良し会 / 区長主催

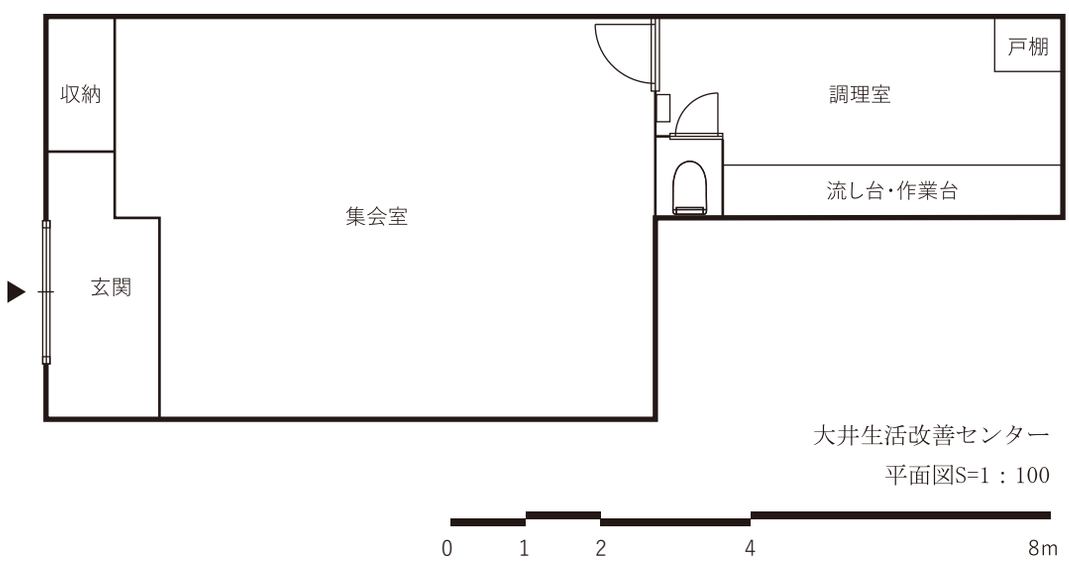
日時（頻度）：月１回程度

内容：警察の講習会、ゲーム、クリスマス会の企画など

※参加費無料

なくなった理由：２年ほど続いたが企画など手詰まりになって辞めた

②選挙（現在は長井のセンターで実施）



大井生活改善センター

平面図S=1：100

0　1　2　4　8m

①日時：2017/11/19　12:30-13:30
対象者：橋本智英氏（大森神社当屋）、西正司氏（大森神社総代）
②日時：2017/12/03　11:00-11:30
対象者：橋本智英氏（大森神社当屋）

萬重寺

所在地：三重県熊野市育生町長井 220

住職：常駐

西光寺（育生町尾川 501）

宝禅寺（育生町粉所 300）と兼務

檀家：育生町長井地区

宗派：曹洞宗

日常時

管理（掃除）制度

- 日常管理

参加者：住職

頻度（時期）：毎日

内容：建物中、庭の掃除

- 臨時管理（不定期）

参加者：檀家

頻度（時期）：年 4 回

内容：3 時間程度（朝 7 時頃から）

建物外の草刈り

維持管理費

経費種別：建物の修繕費

財源：檀家の年会費（浄財は住職）

利用状況

不明

萬重寺の境内の様子

非日常時 ----------

年間行事

大晦日、正月（1/18 初観音）、両彼岸、盆（8/14 盆踊り）、冠婚葬祭

行事内容

日時：1 月 18 日初観音（観音菩薩の縁日）

内容：住職による読経。その後、宴会や餅まきが行われる。

参加者：

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
50-60 人程度	○	×	○	×

※盆も同様

運営（準備）

参加者：住職、檀家総代、各組役員

準備工程：前日に総代と各組役員が寺で餅ほりの準備

必要経費

経費種別：住職への謝礼、餅代

財源：檀家からの年会費

簡略化・消滅した行事

①両彼岸（3、9 月）での宴会

振舞いがないため、準備は前日に住職が掃除する程度

②盆踊り（8/14）

以前は音頭を取る人がいたが、現在はカセットテープで代用

①日時：2017/11/19　12:30-13:30
対象者：橋本智英氏（大森神社当屋）、西正司氏（大森神社総代）
②日時：2017/12/03　11:00-11:30
対象者：橋本智英氏（大森神社当屋）

長井生活改善センター

所在地：三重県熊野市育生町長井 395-1

所有：熊野市教育委員会

設立年：1979 年

管理者：常駐しない

※区長が鍵を管理

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）

1）参加者：参加可能な長井区民全員（40 人程度）
頻度（時期）：年 1 回
内容：半日程度
建物外（川の草刈りと合わせて実施）

2）参加者：当番（センター係）2 人　※毎年交代
今年はセンターで教室を開いている方も参加
頻度（時期）：年 1-2 回
内容：半日程度（朝から昼頃まで）
建物中の掃除

維持管理費

経費種別：①建物の修繕費　②光熱水費、消耗品
財源：①→半分行政、半分区が負担
②→施設利用料、区会計

利用状況

利用用途：
・会合（区の総会、役員会）
・イベント準備（餅つき）
・区の行事の準備
・健康体操教室 / 移住者が主催（「喫茶ちゃや」を経営）

※健康診断は診療所で行う

利用回数 / 延べ利用者数（平成 28 年度）：年 53 回 /440 人[文 1)]

利用方法：鍵を管理する区長より借りる。

文 1) 長井生活改善センター実績報告書（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

利用内容｜健康体操教室

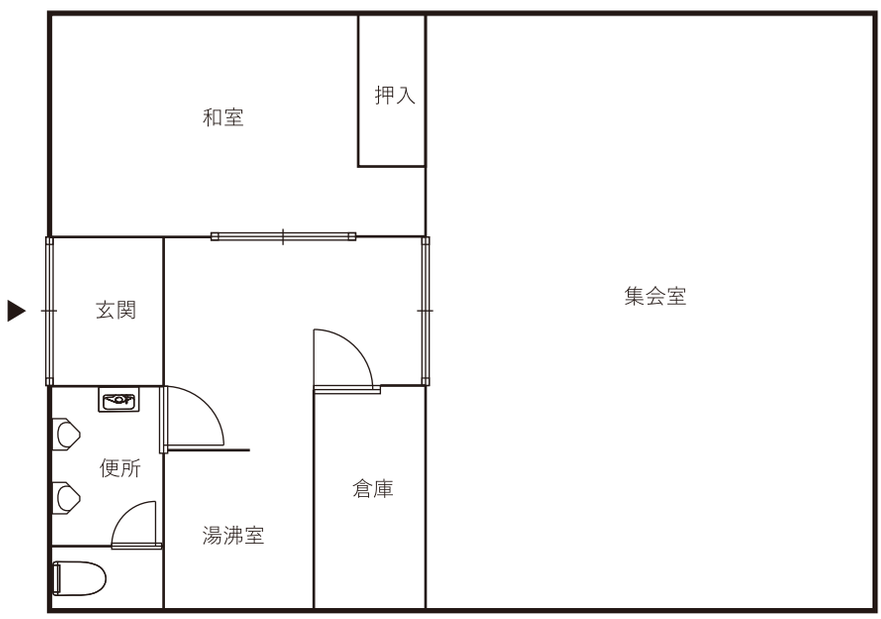
日時（頻度）：週 1 回

内容：健康体操

参加者：

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
10 人程度	○	×	×	×

平面図



長井生活改善センター

平面図S=1：100

①日時：2017/11/19　12:30-13:30
対象者：橋本智英氏（大森神社当屋）、西正司氏（大森神社総代）
②日時：2017/12/03　11:00-11:30
対象者：橋本智英氏（大森神社当屋）

大森神社

所在地：三重県熊野市育生町尾川 644
所有：育生町長井、尾川、粉所地区
所属：神社本庁
神職：常駐しない
※大馬神社（熊野市井戸町 4333）と兼務
氏子：育生町長井、尾川、粉所地区住民
御祭神：天兒屋根命、倉稲魂命、八幡大神、不詳一座
祭祀：11 月 23 日

日常時

管理（掃除）制度

－日常管理

1）参加者：尾川と長井の区民（氏子）（尾川：5-6 人程度、長井：8 人程度）
頻度（時期）：2 地区が交代で月 2 回（参拝者の多い毎月 1,15 日の前日）
※粉所は遠方のため日常管理は参加しない
内容：半日（朝 7 時頃から）
※現在は人が多く出れる日曜に変更して実施

2）参加者：総代[注1)]
頻度（時期）：
内容：神社の見回り、榊の手入れ

－臨時管理（不定期）
参加者：40 人程度（育生町大井地区から応援あり）
頻度（時期）：祭りの前

維持管理費

経費種別：社殿の修繕費
財源：氏子による年会費

利用状況

毎月 1、15 日に参拝する方がいる

非日常時 ----------

行事内容

日時：11 月 23 日どぶろく祭り

内容：10：00 神事

12：00 どぶろくの振舞い、余興

14：30 餅ほり

※尾川地区のみ山の神にもどぶろくを奉納する

参加者：地元住民、U ターン者、出身に関わらず県外、遠方からの参加者もある

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
300-400 人程度	○	○	○	○

運営（準備）

参加者：総代 3 人、氏子（尾川、長井、粉所）

準備工程：

9/9 九日道

・当連中（15-20 人）が集まり食事をしながら来年のどぶろく祭りについて話し合う

※九日道：当屋連中が氏神に集まり来年の当屋を決める神事。

現在は区を 5 組に分け組で準備を分担して行うため神事はない。

1 ヶ月前

・総代によるどぶろくの醸造（朝昼晩かき混ぜる）

２週間前

・区民による準備（旗、テントの設営など）

前日

餅ほりの準備

必要経費

経費種別：どぶろくの醸造費（70 万程度）、神主への謝礼、お供え、餅代

財源：氏子からの年会費、ご祈祷料（お供え）、どぶろくの売り上げ

神事の様子と設え

どぶろくの振舞いと直会

日時：2017/12/03　14:30-15:15
対象者：南友二氏（育生町尾川区長）

西光寺

所在地：三重県熊野市育生町尾川 501
住職：常駐しない
　　萬重寺（育生町長井 220）と兼務
檀家：育生町尾川地区（40 軒程度）
宗派：曹洞宗

日常時 ----------

管理（掃除）制度

- 日常管理
参加者：参加可能な檀家全員（毎回 12-13 人程度）
頻度（時期）：月 1 回
内容：２時間程度
- 臨時管理（不定期）：なし

維持管理費

経費種別：建物の修繕費
財源：檀家の寄付

利用状況

日常的に参拝する人は少ない。

非日常時 ----------

年間行事

大晦日、正月（1/18 十八講）、両彼岸、盆（初盆）、冠婚葬祭

行事内容

日時：1 月 18 日十八講
内容：住職による読経。その後、食事会を行う。餅まきはない。
参加者：

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
30 人程度	○※	×	○	○※※

※檀家はほぼ全員参加する。
※※大学などから曼荼羅の調査で 2、3 人参加する。

運営（準備）

参加者：総代[注1]
準備工程：不明

必要経費

経費種別：住職への謝礼
財源：檀家からの年会費、お布施

注 1）総代：１人。毎年選挙でえらばれるが、人口が少ないためほぼ変わらない。

熊野自然休養村

日時：2017/12/03　14:30-15:15
対象者：南友二氏（育生町尾川区長）

所在地：三重県熊野市育生町尾川 361

所有：熊野市農業振興課

※尾川区の集会所建設の要望したが、現在は市の公共施設の一部を利用

設立年：1976 年

管理者：常駐しない　※市職員他、区長も鍵を管理

管理（掃除）制度

- 日常管理

1）参加者：市職員（農業振興課）5-6 人
　頻度（時期）：月 1 回
　内容：1 時間程度

2）参加者：利用者各自
　頻度（時期）：施設利用時
　内容：建物中の掃除、草刈り

- 臨時管理（不定期）：なし

維持管理費

経費種別 :①電気代、ガス代、必要な物品の購入
　　②建物内部の簡易な修繕（障子の貼り換え等）

財源 :①→熊野市負担　②→地区住民

利用状況

利用用途：

・会合（区の総会（月 2 回程度）、役員会）
・祭り準備（若鮎祭り、どぶろく祭り）
・区の行事の準備
・宿泊利用（ボランティアや協力隊）
　※3.4 年前まで若鮎釣り客のための宿泊利用もあった
・高齢者サロン / 熊野市健康・長寿課（月 1 回）

利用回数：不明（熊野市に記録なし）

利用方法：鍵は区長が管理し、総会での利用の際は市への報告はしない。
　　その他の目的で利用する際も市への報告はあまりしない。

利用内容｜高齢者サロン / 熊野市健康・長寿課

日時：毎月第 1 水曜日 13:30 ～ 15:00

内容：健康チェック、ゲーム、工作など

※参加費無料

参加者：概ね 65 歳以上の方が対象

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	×	×

運営（準備）

参加者：職員（地元の負担はない）

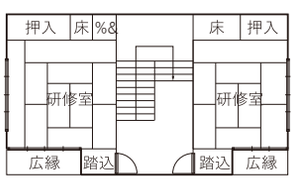
建物情報[文 1)]

建物：鉄骨 2 階建て

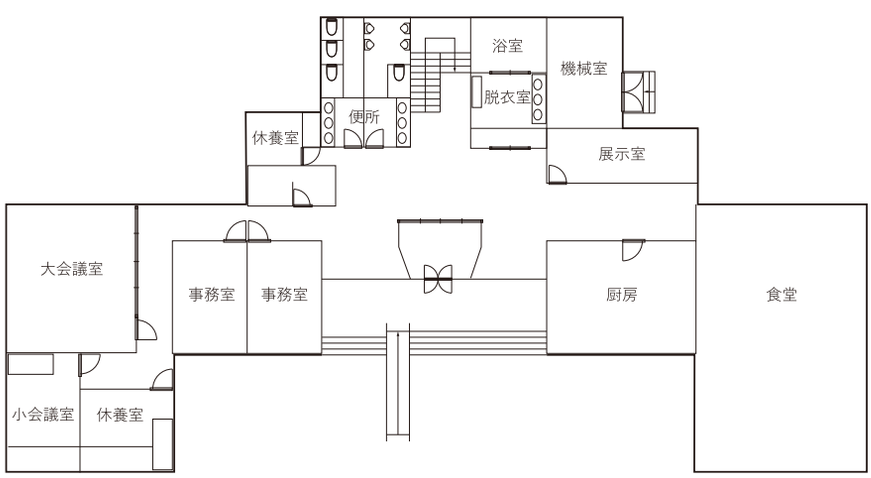
部屋：研修室 2 室（和室各 10 畳）、小会議室 1 室（8 畳）、休養室 1 室（6 畳）

設備：食堂、大会議室。浴室、駐車場、暖房設備有り、エアコン設備無し

※平成 26 年 4 月 1 日より宿泊利用は中止

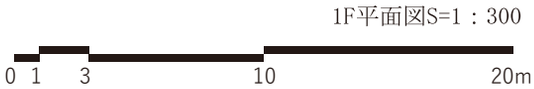


2F平面図S=1：300



熊野自然休養村

1F平面図S=1：300



文 1) 熊野市農業振興課（2017）；施設の利用案内熊野市自然休養村管理センター
<http://www.city.kumano.mie.jp/download/sisetunoriyou.pdf>

宝禅寺

日時：2017/12/03　13:00-14:00
対象者：有木氏（前・育生町粉所区長）

所在地：三重県熊野市育生町粉所 300
住職：常駐しない
　　萬重寺（育生町長井 220）と兼務
檀家：育生町粉所地区
(20 軒程度（他地域在住地元出身者含む))
宗派：曹洞宗

日常時 ----------

管理（掃除）制度　※会計、総代長（長井在住)、区長の 3 人で実質管理している

－日常管理：なし
－臨時管理（不定期）
1）参加者：2 人（区長、総代)＋学生ボランティア※(夏期)
※大阪の高校生が 20 名程度ボランティアで参加（今年で 3 年目）
学生は育生に宿泊し、長井と粉所で活動。粉所集会所で食事会（食事は地元で用意）
頻度（時期)：年 4 回（両彼岸、盆、正月（1/8）の当日）
内容：1-2 時間
建物中の掃除
※学生がボランティアで参加するときは、中の家財道具も出して大掃除（2 時間程度）
2）参加者：2 人（区長、総代）
頻度（時期)：年 2 回
内容：半日程度
建物外の掃除（草刈り）

維持管理費
経費種別：建物の修繕費
財源：檀家の年会費

利用状況
不明（墓掃除などで参拝）

非日常時 ----------

年間行事
正月（1/8)、両彼岸、盆、冠婚葬祭

行事内容
日時：1 月 8 日
内容：住職による読経。
参加者：近隣の市に在住する地元出身者には連絡する。

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
15 人程度	○	×	○	×

運営（準備）
参加者：2 人（区長、総代）
準備工程：当日に掃除、お供え、檀家の遺灰など準備をすべて行う
（片づけを簡単にするため、花瓶には花だけ活けて水を入れない）

日時：2017/12/03　13:00-14:00
対象者：有木氏（前・育生町粉所区長）

粉所集会所

所在地：三重県熊野市育生町粉所 307-1
所有：熊野市教育委員会
設立年：1979 年
管理者：常駐しない
※区長と前区長が鍵を管理

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）

参加者：2 人（現区長、前区長）
頻度（時期）：不定期
内容：不明

維持管理費

経費種別 :①建物の修繕費　②光熱水費、テレビ受信料
財源 :①→半分行政、半分区が負担
②→施設利用料、区会計

利用状況

利用用途：
・食事会（2 か月に 1 回）
・健康診断 / 熊野市（年 1 回）
利用回数 / 延べ利用者数（平成 28 年度）：年 1 回 /10 人[文1)]
利用方法：鍵を管理する区長、前区長より借りる。
※以前は区の総会で利用していたが、現在はない

利用内容｜食事会

日時（頻度）：年 1 回
内容：粉所出身で東京在住の住民（70 歳）が半月に 1 度帰省し、1000 円会費で食事会を開催
参加者：

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	×	×

文 1) 粉所集会所実績報告書（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

平面図

粉所集会所

平面図S=1：100

丹倉神社

日時：①2017/05/21　13:00-14:00　②2017/01/21　10:00-10:30
対象者：中平孝之氏（丹倉神社所有者）

所在地：三重県熊野市育生町赤倉
所有：個人（中平孝之氏）
所属：不明（神社本庁管轄外）
神職：常駐しない
　　※大馬神社（熊野市井戸町 4333）と兼務
氏子：育生町赤倉地区住民
御祭神：不明
祭祀：11 月第 3 週目

日常時

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）

参加者：1 人（中平氏）
頻度（時期）：年 4 回程度（正月、盆、祭り前）
内容：道中の潮掛場も含めて掃除

維持管理費

経費種別：祠の修繕費、駐車場の建設費
財源：賽銭、ご祈祷料　※不足分は中平氏自身で負担

利用状況

不明

日常時の丹倉神社の様子

非日常時 ----------

行事内容

日時：11 月第 3 週目丹倉神社例大祭

（農業の豊作を祈願するもので、もともとは春と秋の２回行っていた）

内容：11:00 神事

11:30 横笛、獅子舞の奉納

12:00 直会、餅ほり

参加者：地元住民や元住民の方が 50 人程度集まる

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
50 人程度	○	○	○	○

運営（準備）

参加者：神社の所有者（中平孝之氏）とその家族

外部からの協力者

（神社所有者の方の講演会で知り合い、遠方から訪問、祭り 3 日前から滞在して準備を手伝う）

準備工程：年間通じて、企画・運営を中平氏が行う

1 か月前頃から

・しめ縄づくり

・元住民への招待状送付

・横笛会への連絡

1 週間前～前日

・掃除

・設営（幟、駐車場など）

・振舞いの準備

・餅ほりの準備（餅は購入する）

必要経費

経費種別：神主への謝礼、お供え、振舞い（料理）、餅代、菓子代

財源：賽銭（年間 4-5 万）ご祈祷料（お供え）

※不足分は中平氏自身で負担

赤倉神社例大祭時の境内とアプローチ空間の様子

赤倉神社例大祭時の設え

神事、篠笛の奉納、獅子舞の様子

直会と餅ほり

①日時：2017/11/18　19:00-20:00
対象者：畑中俊哉氏（神川町まちづくり協議会長）
②日時：2017/12/02　19:00-20:00
対象者：山口政高氏（神川町神上区長）

上山神社

所在地：三重県熊野市神川町神上 374
所有：神川町神上、長原地区
所属：神社本庁
神職：常駐しない
※大馬神社（熊野市井戸町 4333）と兼務
氏子：神川町神上、長原地区住民
御祭神:速玉男命、事解男命、武甕雷命、大己貴命、素盞嗚命、上山の神
祭祀：11 月 3 日、水口祭 7 月 1 日

日常時

管理（掃除）制度

－日常管理
1）参加者：各地区の各組（全 6 組[注 1)]）が交代
神上地区は 10 人程度（天理教も関係ない）
殿浦地区は 2-3 人程度
頻度（時期）：月 1 回（一人当たり年 2 回）（毎月 30 日）
内容：2 時間程度
神社の上から下まで掃除
2）参加者：役員（総代[注 2)]）
頻度（時期）：月 1 回（毎月 1 日）
内容：神社の見回り、榊の手入れ
－臨時管理（不定期）：なし
※祭りに備えた特別な掃除等は行わず、祭りの月に担当する組が行う

維持管理費

経費種別：建物や鳥居の修繕費（今年手すりの修繕を実施）
※何十年に 1 回のペース
財源：賽銭、神事でのお供え、元住民による寄付、ボランティア
例）社殿の修繕費を元住民に格安で依頼（本来 150 万のところ 15 万程度で工事）
※費用が足らないときは区の掃除をやって賄う、もしくは自腹負担

利用状況

熱心な人は日常的に参拝している

注 1）神上地区は向地組、上組、中組、下組、殿浦組の 5 組から構成され、それに長原地区を加えた 6 組で掃除など分担する。
注 2）総代：神上、長原地区（6 組）各組から持ち回りで 1 人ずつ計 6 人役員を選出し、その中から総代長を選出。任期 3 年。（総代長 1 人役員 5 人構成（続投あり）、現在男 3 女 3）

非日常時 ----------

年間行事

①7 月 1 日水口祭　②11 月 3 日秋季大祭

行事内容①｜水口祭（豊作祈願（水が豊富にあるよう祈る祭り））

日時：7 月 1 日

内容：10：00 神事＠神社境内（上）

その後、お祓いしてもらった竹に入ったお神酒を各自の田や畑へ刺す

参加者：神上、長原区民。同町他地区（柳谷、花知）の人は来ない。

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
15-20 人程度	○	△※	×	×

※同町の柳谷、花知区民は来ない。

運営（準備）

参加者：各組で交代　※40 年程前までは祷屋制

準備工程：

・総代が祭りの案内はがきを十数件出す

前日

・お供えの準備

・野菜など各家から寄付、魚や酒を購入

必要経費

経費種別：神主への謝礼、お供え

財源：氏子からの年会費、ご祈祷料（お供え）、

区の予算（上山神社は神上、長原の共有神社であり、財源が不足する場合は区から出資）

上山神社社殿へのアプローチ空間の設え

上山神社の社殿

境内の祠

上山神社の境内

行事内容②｜秋季大祭（奉納）（七五三、厄払い）

日時：11 月 3 日

内容：10:00 神事＠神社境内（上）

舞の奉納（小学生の女子（昔は小６）が神社と中学校で披露）

神主が参加者全員へご祈祷

12:00 直会（神社境内→神社の麓の舞台→旧中学校の体育館（カラオケ）へと変化）

15：00 餅ほり

参加者：地元、近隣の元住民（お供え、修繕費等の寄付）。

遠方からの帰省はなく、同町他地区（柳谷、花知）の人は来ない。

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
80-90 人程度	○	△※	○	×

※同町の柳谷、花知区民は来ない。

運営（準備）

参加者：各組で交代　※40 年程前までは祷屋制

準備工程：

前日

・お供えの準備（野菜などは各家から寄付、魚や酒を購入する）

・餅ほりの準備（各組から米１斗ずつ寄付し、前日に餅つき）

※各組でつくか、金銭的余裕のある組は外部に委託

・地元商店で直会の振舞いの準備

翌日

・センターで賽銭開きのための集会

必要経費

経費種別：神主への謝礼、お供え、餅代

財源：氏子からの年会費、ご祈祷料（お供え）、

区の予算（上山神社は神上、長原の共有神社であり、財源が不足する場合は区から出資）

簡略化・消滅した行事

・虫おくり

・祭りでの屋台の出店

昔は屋台や催しも盛大だったが、担い手がいなくなり質素にしながら行事を続けている。

・神輿

30 年前まで青年会が神輿を担いで盛大に行っていたが、担ぎ手がいなくなったことで辞めた。

（神輿を担ぐことで寄付を募っていた）

・お供えの簡略化

一部（厄年の人など）だけお供えを本殿（187 段の石段）まで上げる。

神社を下におろそうという話もある。

理由：神社の配置、高齢化

・行事後の食事

理由：保健所の規制が厳しくなったことや、かつて中毒問題などがあり減少

・提灯など川に流したり、燃やしたりする行事

理由：規制の強化

大上宮

日時：2017/12/02　20:30-22:00
対象者：山路裕芳氏（神川町神上区向地組長）

所在地：三重県熊野市神川町神上
所有：神川町神上向地組
（向地組人口：13 軒 20 人程度）
所属：不明
神職：不在
氏子：神川町神上向地組住民
御祭神：不明
祭祀：1 月第 1 日曜もしくは第 2 日曜

日常時

管理（掃除）制度

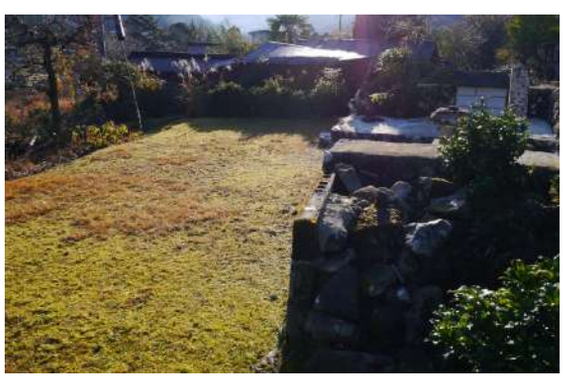
－日常管理
参加者：祷屋制（1 軒）
※以前は 2 軒だったが参加できる人が減ったため変更
頻度（時期）：月１回（夏場は２回）
※7.8 年前までは神社のお世話を熱心にされていた方がいたが、その方が亡くなってからは祷屋になった人が簡単な掃除などを行う。
内容：1 時間程度
草刈り、榊、小花などの手入れを無理がない範囲で実施
－臨時管理（不定期）
参加者：参加可能な向地組住民
頻度（時期）：年 1 回の常会・祭り前（１月の第 1.2 日曜いずれか）

維持管理費

なし

利用状況

毎月 1、15 日に参拝する方がいる



大上宮の境内

非日常時 ----------

行事内容

日時：1 月第 1 日曜もしくは第 2 日曜

内容：10：00 神事、餅まき＠大上宮境内

※神主はおらず、天理教の近隣住民か区長が祝詞をあげる

12：00 組の常会＠向地組集会所

終了後、宴会

参加者：以前は神上地区からたくさんきていたが、現在は餅まきのみ他の組の人も参加する。神事の後の食事は常会と合わせてするため、参加は向地組住民だけ。

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
20-25 人程度	△※	×	×	×

※ほとんどが向地組住民

運営（準備）

参加者：向地組住民 3-4 人　※以前は祷屋制

準備工程：

前日～当日

・掃除

・お供えの準備

※厄年の人は各自で餅、酒、菓子を準備して供える

・餅ほりの準備（以前は米１斗を集めていたが、現在はお金を１０００円程度徴収する制度）

※昔は祷屋が全て準備していた

必要経費

経費種別：お供え（金額に規定あり）、餅代

財源：ご祈祷料（お供え）

組費の一部（予算のうち 1 万があてられる（6000 円餅代、4000 円お供え））

簡略化・消滅した行事

・例大祭の直会

向地組集会所ができるまでは、大上宮の境内で直会までしていた。

神事など面倒と思う人、簡素化しようという人もいる。

①日時：2017/11/18　19:00-20:00
対象者：畑中氏（神川町まちづくり協議会長）
②日時：2017/12/02　19:00-20:00
対象者：山口政高氏（神川町神上区長）

嶺泉寺

所在地：三重県熊野市神川町神上 975

住職：常駐しない（7 年前まで常駐）

瀧厳寺（奈良県吉野郡下北山村）と兼務

※昔は給与を支払っていたが現在はなくお布施のみ。

檀家：神川町神上地区住民

(130 軒程度（他地域在住地元出身者含む))

※天理教や神川町が地元でない人は檀家でなく、人口の流出により分骨するケースも増えている

宗派：曹洞宗

no photo

日常時

管理（掃除）制度

- 日常管理

参加者：護持会（1 班 3 人で全 3 班（全 9 人）で構成される）

※以前は回覧を回してボランティアで実施していたが、
人が集まらないなどを理由に３年ほど前から護持会が組織された。

頻度（時期）：月 1 回（毎月 1 日）

※住職がいた時までは住職が日常の管理をしていた

内容：建物中、庭掃除

- 臨時管理（不定期）

参加者：護持会が司令塔となって参加できる檀家全員で実施（30 人程度）

頻度（時期）：年 4 回 (正月、彼岸前、盆前（8 月第一週日曜日))

※昔は掃除の後寺で食事を準備していたが、現在ははほとんどない
（保健所が厳しいため）

内容：建物外の掃除（草刈り）

維持管理費

経費種別：建物の修繕費

財源：檀家の年会費（区の予算とは別）

利用状況

日常的に参拝する人は少ない。

非日常時 ----------

年間行事

大晦日、正月、両彼岸、盆（8/7 初盆）、冠婚葬祭

行事内容

日時：8 月 7 日初盆

内容：僧侶による読経。その後、各家庭で食事。地区全体での会食（御斎）はない。

→夜には千松[1)]（せんたい）を行う。

※３年ほど前まで盆踊り実施していた。現在、神上生活改善センターに移行。

参加者：各家の親族

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	！	△※	×

※故人の親族、関係者

運営（準備）

参加者：各家

準備工程：

前日

・提灯、飾り、お供えの準備

・千松（せんたい）[注 1)] の準備

※各家で準備するが、当日火を灯す作業を地域住民で行う（区単位で実施）

必要経費

経費種別：住職への謝礼、提灯、飾り、お供えの準備、千松の準備

財源：各家で負担

簡略化・消滅した行事

・掃除後などの食事会

・雨乞いの能面の祭り

注 1) 千松（せんたい）

：300-350 本の１m程の竹の先に火をつけ、寺から家、墓まで並べる伝統的な行事

①日時：2017/11/18　19:00-20:00
対象者：畑中氏（神川町まちづくり協議会長）
②日時：2017/12/02　19:00-20:00
対象者：山口政高氏（神川町神上区長）

神上生活改善センター

所在地：三重県熊野市神川町神上 826

所有：熊野市

設立年：1978 年

管理者：常駐しない　※区長が鍵を管理

管理（掃除）制度

－日常管理

参加者：原則利用した人が行うが、区長の奥さんが定期的に掃除する

頻度（時期）：施設利用時

内容：建物の内部の掃除（会議室、トイレ、布団干しなど）

－臨時管理（不定期）

参加者：神上区民（40 人程度）

※安全上の理由から今年より 75 歳以上は不参加に変更

※参加者にはわずかに謝礼を支払う

（県道の清掃は三重県から委託されているため県から支払われる）

頻度（時期）：年１回

※川、県道、旧中学校、神上生活改善センターの掃除を合わせて行う

内容：建物の外部の掃除（草刈り）

維持管理費

経費種別 :①建物修繕費

②使用して発生する費用（光熱水費、トイレの汲み取りなど）

財源 :①→熊野市負担

②→区負担（利用料 2000 円 / 回）

利用状況

利用用途：

・会合（祭り、総会、各組常会、まちづくり協議会、神川地区社協会議、PTA など）

・行事準備（祭り、冠婚葬祭）

・選挙

・宿泊利用（学生など）

・作業場（販売用商品の製造（例：害虫駆除剤など））

・高齢者サロン、相談窓口 / 熊野市健康・長寿課

・盆踊り / 区（行事内容等は「嶺泉寺」参照）

※以前は境内で３日間盛大に実施ていたが現在はセンターに移行

利用回数 / 延べ利用者数（平成 28 年度）：年 16 回 /230 人[文 1)]

利用方法：鍵を管理する区長より借りる。

文 1) 神上生活改善センター実績報告書（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

利用内容｜高齢者サロン

日時：毎月第３月曜日 10:00 ～ 11:00

内容：講演会、健康相談など

※参加費無料

準備：職員（地元の負担はない）

参加者：

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	×	×

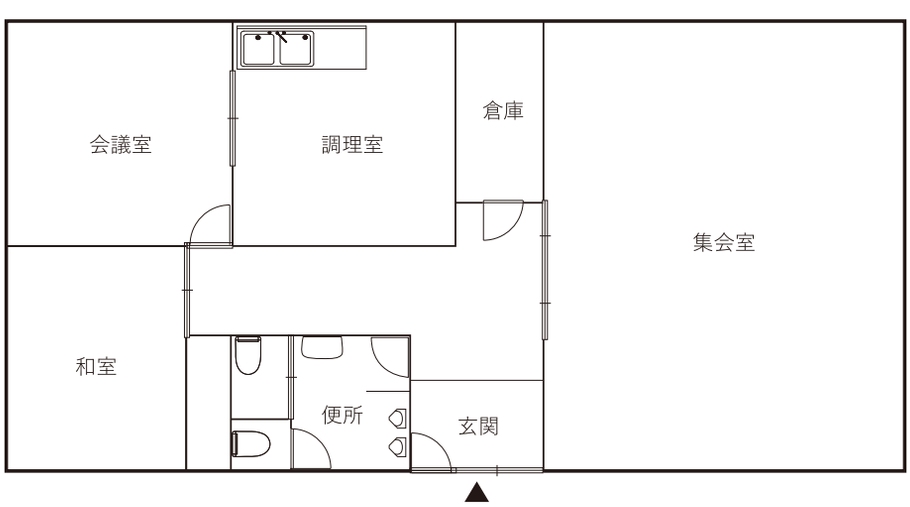
大会議室

小会議室

調理室

和室

平面図



0　1　3　5　10m

神上生活改善センター　平面図S=1：150

向地組集会所

日時：2017/12/02　20:30-22:00
対象者：山路裕芳氏（神川町神上区向地組長）

所在地：三重県熊野市神川町神上

所有：熊野市

※7-8 年前に元教員住宅の空き家を利用

※それまでの常会は組長の自宅で行っていたが、個人宅ですることの大変さ、プライバシーなどの理由から集会所を設置

設立年：2010 年

管理者：常駐しない　※組長が鍵を管理

日常時

管理（掃除）制度

- 日常管理

参加者：利用者各自

頻度（時期）：施設利用時

内容：不明

- 臨時管理（不定期）

参加者：参加可能な向地組住民

頻度（時期）：年１回の常会・祭り前（１月の第 1.2 日曜いずれか）

維持管理費

経費種別：①建物修繕費
②光熱水費、備品

財源：①→熊野市教育委員会
②→組費

利用状況

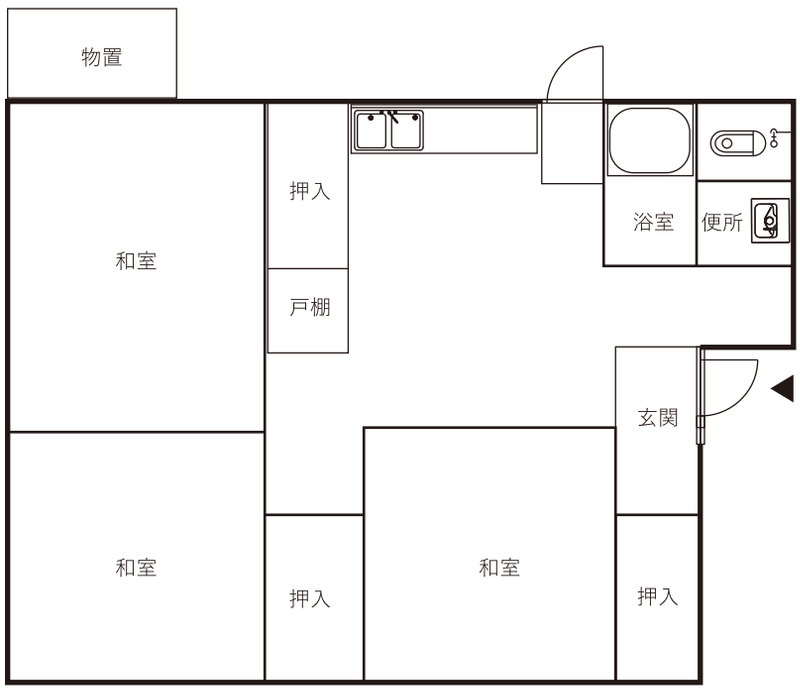
利用用途：

- 常会（年１回）
- 冠婚葬祭
- 宿泊利用（利用料あり）
- 大上宮例大祭後の直会（行事内容等は「大上宮」参照）

利用回数 / 延べ利用者数：熊野市に記録なし

利用方法：鍵を管理する組長より借りる。
私用で利用した場合は利用料を組の会計に支払う。(2000-3000 円程度)

平面図



向地組集会所
平面図S=1：100

①日時：2017/11/18　19:00-20:00
対象者：畑中氏（神川町まちづくり協議会長）
②日時：2017/12/02　19:00-20:00
対象者：山口政高氏（神川町神上区長）

旧神上中学校

所在地：三重県熊野市神川町神上 63

所有：熊野市教育委員会

設立年：1950 年　※現在休校中

管理者：常駐しない

no photo

日常時 ----------

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）

1）参加者：区民（日和祭では主催者側と協力）

頻度（時期）：年 2 回（祭り前（日和祭、さくら祭り））

内容：校舎の内部と周辺の掃除

2）参加者：神上区民（40 人程度）

※安全上の理由から今年より 75 歳以上は不参加に変更

※参加者にはわずかに謝礼を支払う

（県道の清掃は三重県から委託されているため県から支払われる）

頻度（時期）：年 3 回程度

※年１回の川、県道、旧中学校、神上生活改善センターの掃除や

年２回の天理教による奉仕活動に合わせて行う

内容：建物の外部の掃除（草刈り）

維持管理費

経費種別：建物修繕費

財源：熊野市負担 (区は負担しない)

利用状況

休校中のため利用はない。

非日常時 ----------

年間行事

①4 月上旬さくら祭り（第 30 回）/ 主催：熊野神川桜まつり実行委員会

※準備の負担を理由に昨年で中止

②11 月上旬日和祭（第 3 回）

/ 主催、企画、運営：日和祭実行委員　協賛：神川地区地域まちづくり協議会

行事内容｜さくら祭り

日時：4 月上旬

内容：10:00 開会

10:00-13:00 ダンス、バンド演奏、太鼓演奏など

13:00-14:00 おたのしみ抽選会

14:00 もちほり

15:00 閉会

参加者：神上区以外に長原区民。花知、柳谷区民は不明。観光客。

※新聞や熊野市後方でも宣伝している

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
200-500 人程度	○	○	×	×

※同町の柳谷、花知区民は来ない。

※昨年で中止

理由：準備の負担

今後の予定：主催組織の再編をもって、別の形で再開予定

運営（準備）

参加者：熊野神川桜まつり実行委員会、学生ボランティア

準備工程：

年数回 20 名程度集まって会議＠神上生活改善センター

1 週間ほど前から

・掃除

・会場の設営、点検

・餅つきのための準備

必要経費

経費種別：不明

財源：熊野市の補助金、よもぎ餅販売の売り上げ（余剰金 20 万程度残る）

殿浦集会所

日時：2017/12/09　15:30-15:50
対象者：栗須聰氏（神川町神上区殿浦組）

所在地：三重県熊野市神川町神上

所有：神川町神上区（民営）

※以前は殿浦組所有。

※設立費用は熊野市負担。

※前組長が 10 年程前に電源会社と交渉して権利を得た。

設立年：2008 年

管理者：常駐しない　※組長が鍵を管理

日常時　----------

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）

1）参加者：気付いた人数名程度
　頻度（時期）：正月、盆前
　内容：建物外の掃除（草刈り）

2）参加者：殿浦の住民（20 人程度）
　頻度（時期）：年 1 回（6 月頃）
　内容：半日（朝 6 時頃から昼頃まで）
　　殿浦の川掃除に合わせて草刈り

維持管理費

経費種別：施設を所有してから現時点までで建物の修繕はない。備品。

財源：神上区の予算

利用状況

利用用途：

・常会（年 1 回（正月））
・葬式（過去 1 回だけ）
・初庚申の準備（餅つき）
・初庚申（2 月）の直会

※1 度だけ盛大に盆踊りを行った。

利用回数 / 延べ利用者数：民営のため記録なし

利用方法：鍵を管理する組長より借りる。

※集会所ができるまでは組の常会などはあまりなかった。現在集会所でする餅つきも、昔はそこまで盛大にしておらず、各家庭で準備するお供えなどを利用していた。

利用内容｜初庚申の直会

日時：初庚申の日（2 月）

内容：昼頃～住民による読経（般若心経)＠庚申様の前

→餅まき、軽い宴会＠殿浦集会所

→一部の人はその後店で宴会

参加者：殿浦地区＋神上地区の人一部

（主に子供がきて、読経を聞いて餅ほりにも参加する）

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
20 人程度	△	×	×	×

準備：参加可能な殿浦区住民

工程：前日

・餅ほりの準備（もち米を買って集会所でつく）

・庚申様の掃除（日常的にはしていない）

・旗立などの設営

必要経費：餅代

伊瀧神社（愛称：「森さま」）

日時：2017/12/09　14:00-14:30
対象者：山本勇氏（神川町長原前区長）

所在地：三重県熊野市神川町長原
所有：神川町長原地区
所属：不明
神職：不在
氏子：神川町長原地区住民
御祭神：不明
祭祀：1 月 15 日
※神上地区の上山神社に被合祀[注 1)]

日常時

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）

参加者：長原地区の 10-15 人程度
頻度（時期）：年 1 回の祭り前
内容：午前中
落ち葉の掃除、榊の手入れ
※日常的に榊の手入れなどもしておらず、全て祭りの前日に行う

維持管理費

なし

利用状況

不明

注 1）歴史的背景：
明治 10 年まで、長原の氏神は伊瀧神社であったが、後の一村一社令によって長原村民は神上の上山神社の氏子となった。この関係で、今の伊瀧神社の社殿は旧山寺権現の社殿を移築したものとなっている[文 1)]。
文 1）熊野市教育委員会；三重県熊野市神上小中学校ホームページ
<http://www.kumano-city.ed.jp/eskounoue/newpage4sisekiitakijinja.html>

非日常時 ----------

行事内容

日時：1 月 15 日例大祭

内容：10：00 区長が祝詞をあげる

11：00 祝宴（食事、カラオケなど）、餅ほり＠長原生活改善センター

参加者：長原区民

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
20-30 人程度	○	×	×	×

運営（準備）

参加者：長原区民の女性中心

準備工程：

前日

・餅ほりの準備＠長原生活改善センター（区の予算からもち米を購入）

必要経費

経費種別：振舞い、餅代

財源：区の予算、賽銭

簡略化・消滅した行事

・例大祭後の直会

昔は厄年の人などがご馳走をもって境内で宴会（寒いため現在はセンターに変更）

・宝引き：正月に行われた福引きの一種

昔は賑わっていたが、現在は人も少なく担い手がいない

（長原地区は若い人は 2-3 人で、80 代がほとんどの地区）

伊瀧神社例大祭の様子[文 1)]

伊瀧神社例大祭後の直会
＠長原生活改善センター[文 1)]

文 1）伊瀧神社のお祭り（2011）

<http://www.kumano-city.ed.jp/eskounoue/newpage4sisekiitakijinja.html>

長楽寺

日時：2017/12/09　14:00-14:30
対象者：山本勇氏（神川町長原前区長）

所在地：三重県熊野市神川町長原 140
住職：常駐しない
　　他町寺院（新鹿町）と兼務
檀家：神川町長原地区
(40 軒程度（他地域在住地元出身者含む))
宗派：曹洞宗

日常時 ----------

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）

参加者：参加可能な長原地区（20 人程度）
頻度（時期）：年 2 回（5 月、8 月（盆前））　※昔から変わらない
内容：4 時間程度（7 時～ 11 時頃まで）
　　草刈り

維持管理費

経費種別：建物の修繕費
財源：区の予算

利用状況

不明

非日常時 ----------

年間行事

大晦日、正月（1/11 十一講）、盆（8/14 初盆）、冠婚葬祭
※盆や彼岸も行事はしない

行事内容｜十一講

日時：1 月 11 日
内容：13:00 住職の読経、檀家が参拝
　　その後、軽い祝宴と餅ほり＠境内
　　※昔は大きなぼた餅をつくっていたが、大変なため廃止
参加者：

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	×	×

運営（準備）

参加者：長原区民の女性中心
準備工程：
前日
・餅ほりの準備＠長原生活改善センター（区の予算からもち米を購入）

必要経費

経費種別：住職への謝礼、お供え、振舞い、餅代

財源：ご祈祷料（お供え）、住職の負担→お供え

区の予算→餅代、振舞い（食事）

行事内容｜初盆

日時：8 月 14 日

内容：寺で住職が読経

※宴会や餅ほりはしない。4-5 年前まで盆踊り実施。

→夜には千松[1]（せんたい）を行う。

参加者：各家の親族

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	△※	×

※故人の親族、関係者

運営（準備）

参加者：各家

準備工程：

前日

・提灯、飾り、お供えの準備

・千松（せんたい）[1] の準備

※各家で準備するが、当日火を灯す作業を地域住民で行う（区単位で実施）

必要経費

経費種別：住職への謝礼、提灯、飾り、お供えの準備、千松の準備

財源：各家で負担

簡略化・消滅した行事

・盆踊り（8/14）

境内で行っていたが、4-5 年前廃止（人口減少、高齢化のため大変）

・除夜の鐘（1/1）

2-3 年前から区長や一部の人だけまた行くようになった（場所が不便なため）

長楽寺の外観

長原生活改善センター

日時：2017/12/09　14:00-14:30
対象者：山本勇氏（神川町長原前区長）

所在地：三重県熊野市神川町神上 604
所有：熊野市
設立年：1971 年
管理者：常駐しない　※区長と隣家 1 軒が鍵を管理

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）

参加者：長原区民 4-5 人程度
頻度（時期）：年 1 回程度（総会などで利用する前）
※避難場所になっているが、最近はあまり利用しない
※区長が回覧で回し呼びかける
内容：建物中の掃除

維持管理費

経費種別 :①建物の修繕費　②光熱水費、消耗品
財源 :①大きな修繕→市が負担　小さな修繕→区が負担
②→区会計

利用状況

利用用途：
・総会（年 1 回（正月 1/3)※昔は盆にもしていた）
・十一講や祭りの準備（餅つきなど）
・冠婚葬祭（1 回だけ）
※宿泊利用はない（寝具もないため、神上のセンターを利用する）
・伊瀧神社例大祭（1/15）後の直会（行事内容等は「伊瀧神社」参照）
※教室や健康診断の利用はない。健康診断は神上生活改善センターで行う。
利用回数 / 延べ利用者数：不明（平成 28 年度実績報告書[文 1)] に記載なし）
利用方法：鍵を管理する区長より借りる。

文 1) 長原生活改善センター実績報告書（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

■建物内観

大会議室（大広間）

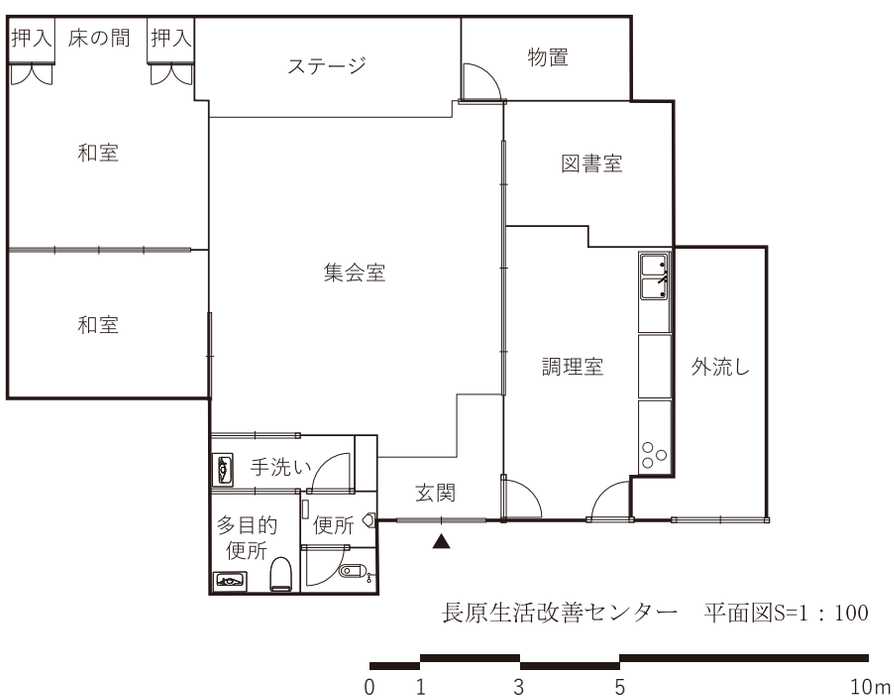
調理室

■伊瀧神社例大祭時[文1)]

例大祭のための準備（餅つき）

例大祭後の直会

平面図



文 1）伊滝神社のお祭り（2011）<https://ameblo.jp/yokereba/entry-10770615707.html>

花知神社

日時：2017/12/03　9:30-10:15
対象者：村森栄一郎氏（神川町花知区長）、前田光吉氏（花知神社総代）

所在地：三重県熊野市神川町花知
所有：神川町花知地区
所属：不明（神社本庁管轄外）
神職：常駐しない　※玉置神社と兼務
氏子：神川町花知地区住民
御祭神：護良親王・牛頭天王・竹原八郎
祭祀：11 月 3 日例大祭（昔は旧暦 11 月 1 日）

日常時

管理（掃除）制度

－日常管理：
参加者：花知地区の 4 軒（4 人）くらいで交代
頻度（時期）：月 2 回（毎月 1.15 日）
内容：時間は自由に決める
　　夏場は草刈り、冬場は落ち葉の掃除など
－臨時管理（不定期）：
1）参加者：花知区民全員
　頻度（時期）：年 1.2 回程度、祭りの前
　内容：境内
2）参加者：総代を中心に数名
　頻度（時期）：不定期
　内容：社の中

維持管理費

台風で傷んだ場合などはするが、それ以外はほぼない

利用状況

不明

花知神社の境内

非日常時 ----------

行事内容

日時：11 月 3 日例大祭（昔は旧暦 11 月 1 日）

内容：11：00 神事（神主が来て祝詞）

※他の神社と同日開催のため神事の時間をずらして神主を招く

12：00 直会（女性がぜんざいを炊いて振る舞う）

12：30 餅ほり

その後花知集会所で二次会

参加者：花知区民は基本的に全員参加する。

4-5 年前よりネットから情報を得た人が 2-3 人都心から来る。

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
40 人程度	○	×	○	○

運営（準備）

参加者：区民全員（掃除→区民全員、振舞い→女性）

準備工程：

3-4 日前から

・掃除

・しめ縄などの設置

・餅ほりの準備

・直会の振舞いの準備（伝統料理サトイモを 50 個程度仕込む）

・お供えの準備

必要経費

経費種別：神主への謝礼、お供え（金額に規定あり）、餅代

財源：区の予算、賽銭

花知神社例大祭後の直会（左：神社境内　右：花知集会所）[文 1)]

文 1）花知神社のお祭り（2010）<https://ameblo.jp/yokereba/entry-10696292230.html>

東光寺

日時：2017/12/03　9:30-10:15
対象者：村森栄一郎氏（神川町花知区長）、前田光吉氏（花知神社総代）

所在地：和歌山県東牟婁郡北山村竹原 296
住職：常駐しない
　　他町寺院（和歌山県北山村）と兼務
檀家：東牟婁郡北山村竹原、七色地区と神川町
　　花知地区の 3 区の住民（6-7 年前より）
宗派：曹洞宗

no photo

日常時 ----------

管理（掃除）制度

- 日常管理
参加者：花知地区住民全員
頻度（時期）：３地区で１年ずつ交代で年 2 回掃除（夏冬）
※３区で依頼した毎日手入れしてくれる人はいる
内容：５時間程度（朝７時から昼過ぎまで）
建物の中と外
- 臨時管理（不定期）：なし

維持管理費

経費種別：建物の修繕費
財源：檀家の年会費（大部分）、区の予算

利用状況

なし

非日常時 ----------

年間行事

大晦日、正月（1/8 八日薬師）、両彼岸、盆（初盆）、冠婚葬祭

行事内容

日時：8 月中旬初盆
内容：読経の後、各家が振舞い食事
参加者：各家の親族

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	△※	×

※故人の親族、関係者

運営（準備）

参加者：各家
準備工程：
・提灯、飾り、お供えの準備
・振舞いの準備

必要経費

経費種別：住職への謝礼、提灯、飾り、お供え、振舞いの準備
財源：各家で負担

簡略化・消滅した行事

花知集会所

日時：2017/12/03　9:30-10:15
対象者：村森栄一郎氏（神川町花知区長）、前田光吉氏（花知神社総代）

所在地：三重県熊野市神川町花知 162
所有：熊野市
設立年：不明
管理者：常駐しない

管理（掃除）制度

- 日常管理
参加者：利用者各自
頻度（時期）：施設利用時
内容：不明
- 臨時管理（不定期）
参加者：基本的には花知地区住民全体（その都度他の当番も考慮）
頻度（時期）：夏場（役員会の中で日時を決める）
内容：不明

維持管理費

経費種別：光熱水費、役務費（浄化槽清掃代）
財源：施設利用料、区会計

利用状況

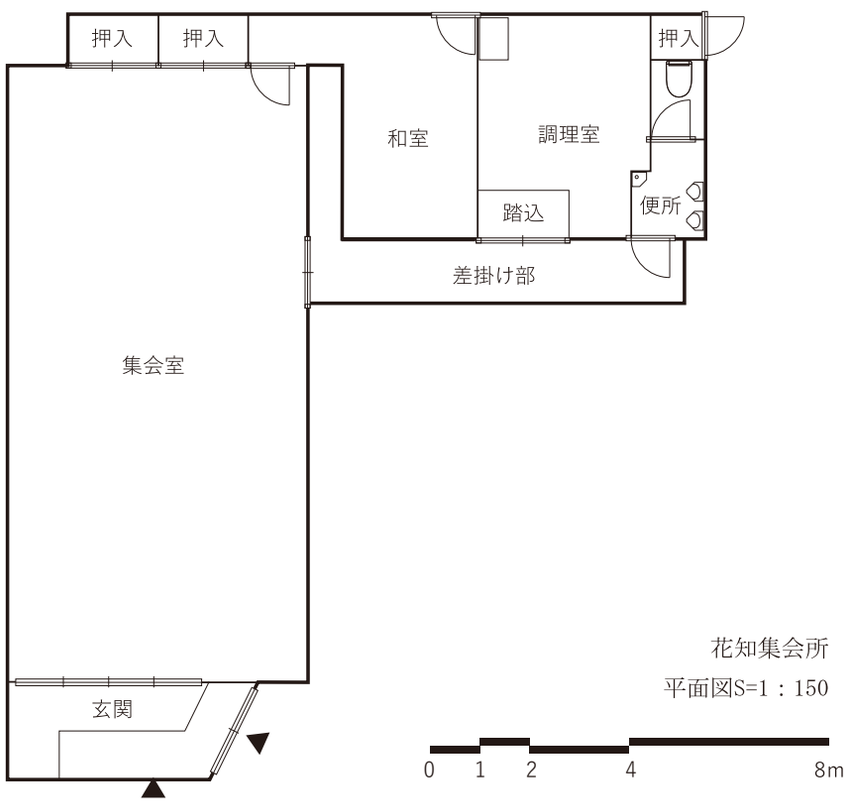
利用用途：
・会合（年１回）
・宿泊利用（盆の帰省時）
・販売 /〇〇
・花知神社例大祭後の直会（二次会）（行事内容等は「花知神社」参照）
・利用回数 / 延べ利用者数（平成 28 年度）：年 19 回 /234 人[文 1)]

文 1) 花知集会所実績報告書（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

花知集会所外の小屋

花知神社例大祭後の集会所での直会（二次会）[文1)]

平面図



文1）花知神社のお祭り（2010）<https://ameblo.jp/yokereba/entry-10696292230.html>

瀧神社

日時：2017/12/10　16:00-17:30
対象者：前川淳也氏（神川町柳谷区長親族）

所在地：三重県熊野市神川町柳谷 100
所有：神川町柳谷地区
所属：神社本庁
神職：常駐しない
　　※産田神社（熊野市有馬町 1814）と兼務
氏子：神川町神上向地組住民
御祭神:天照皇大神、保食神、大歳神、水波能賣神、大山祇神、火彦靈神
祭祀：11 月 10 日

日常時

管理（掃除）制度

- 日常管理

参加者：当番制（基本的に女性が行うが、高齢化のため草刈りなどは男性が行っている）
頻度（時期）：月 1 回（都合の合う日）
　　※大体月末だが、行事がある月はその前に実施（盆、彼岸など）
　　※個人的に 1.15 日に都合が合えば手入れ（サカキヤ水替え）などしている
内容：半日程度（午前中）

- 臨時管理（不定期）：なし

維持管理費

経費種別：建物の修繕費
財源：柳谷区民（檀家）で負担

利用状況

毎月 1 日、15 日に参拝する人もおり、その際榊や水替えなどの手入れをする

参道の脇に流れる川としめ縄

境内へ続く階段と鳥居

御神木

非日常時 ----------

年間行事

①11 月第一日曜例大祭　②6 月 30 日神嘗祭（豊作祈願）

行事内容｜例大祭

日時：11 月第一日曜（本来 11 月 10 日）※人が少ないため、日曜日に変更

内容：11：00-13：00 神事（神主）

その後、餅ほりと直会＠公民館

※昔は境内（神様の前）で宴会や神楽もあった

参加者：柳谷地区住民全員（18 人）

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
18 人程度	○	×	×	×

運営（準備）

参加者：地元住民の若者（3-4 人）　※できる人が負担する

準備工程：

前日

・餅ほりの準備＠公民館

・お供えの準備

必要経費

経費種別：お供え

餅代（米は区民が自家栽培しているものを利用し、必要な分だけ購入する）

財源：昔は当屋制であったが、現在は柳谷地区住民全員で負担

行事内容｜神嘗祭

日時：6 月 30 日

内容：10：00-11：00 神事（神主は来ないで住民で祝詞をあげる）

※お供え、神酒飲んで終わり。宴会などはない。

参加者：柳谷地区住民全員（18 人）

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
18 人程度	○	×	×	×

運営（準備）

参加者：地元住民の若者（3-4 人）　※できる人が負担する

準備工程：

前日　お供えの準備

必要経費

経費種別：お供え

財源：昔は当屋制であったが、現在は柳谷地区住民全員で負担

組費の一部（予算のうち 1 万があてられる（6000 円餅代、4000 円お供え））

簡略化・消滅した行事

・当屋制

当屋は形だけ残っているが、実際は若い人で係などは分担している。当屋の名前を印した御幣をつくって奉納する風習は残る。祭りを続けていくために住民で話し合い、現在の仕組みに変更。

日時：2017/12/10　16:00-17:30
対象者：前川淳也氏（神川町柳谷区長親族）

善福寺

所在地：三重県熊野市神川町柳谷

住職：常駐しない

檀家：神川町柳谷地区住民

宗派：曹洞宗

日常時 ----------

管理（掃除）制度

－日常管理

参加者：当番制

※墓掃除や水替えなども他の人のも一緒にする

頻度（時期）：月１回

内容：半日程度（午前中）

墓掃除

－臨時管理（不定期）：なし

維持管理費

経費種別：建物の修繕費

財源：檀家の寄付

利用状況

不明

非日常時 ----------

年間行事

大晦日、正月、両彼岸、盆（8/15 初盆）、冠婚葬祭

行事内容

日時：8 月 15 日初盆

内容：供養→夜には千松（せんたい）を行う。

参加者：各家の親族

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	△※	×

※故人の親族、関係者

運営（準備）

参加者：各家

準備工程：

前日

・提灯、飾り、お供えの準備

・千松（せんたい）の準備

※各家で準備するが、当日火を灯す作業を地域住民で行う（区単位で実施）

必要経費

経費種別：住職への謝礼、提灯、飾り、お供えの準備、千松の準備

財源：各家で負担

柳谷公民館

日時：2017/12/09　14:00-14:30
対象者：山本勇氏（神川町長原前区長）

所在地：三重県熊野市神川町柳谷
所有：熊野市
設立年：不明
管理者：常駐しない

管理（掃除）制度

- 日常管理
参加者：当番制
頻度（時期）：月 1 回
内容：墓掃除に合わせて行う
- 臨時管理（不定期）：なし

維持管理費

不明

利用状況

利用用途：
・総会（年 1 回（正月 1/7））
・行事準備（祭りの振舞い）
・瀧神社例大祭後の直会（行事内容等は「瀧神社」参照）
・子安地蔵（1 月第 3 日曜（本来 1/24））の祭り後の直会
※教室や健康診断の利用はない。
利用回数 / 延べ利用者数：熊野市に記録なし

隣接する柳谷公民館と善福寺

子安地蔵

周辺環境

室古神社

日時：2017/12/26　15:00-17:30
対象者:竹内捷二氏（二木島町住民（元郵便局員、現在は熊野古道語り部として活動中））

所在地：三重県熊野市二木島町 67
所有：二木島町、二木島里町
所属：神社本庁
神職：常駐しない
　　※他神社と兼務
氏子：二木島町、二木島里町住民
御祭神：稲飯命、底筒男命、稲倉魂命
祭祀：5 月 5 日　11 月 3 日

歴史的背景

二木島町では隣接する二木島里町と甫母町と合同で二木島祭り※を 300 年間続けてきたが、担い手不足から 2010 年に中止となった。

※二木島祭り（県指定無形文化財）
日本書紀に記される神武東征にまつわる祭礼で、湾の入り口にある左右の室古神社、阿古師神社で神事が行われ、その前後、2 隻の関船が 3 回にわたって競漕する。二木島祭りは当屋（当地ではショウドという）での儀式が厳格に守り続けられており、二木島と二木島里・甫母の 2 地域からそれぞれ 1 軒が選定される[文 1)]。

日常時

管理（掃除）制度

| 以前（10 年程前）|

- 日常管理
　参加者：二木島町、二木島町の 4 組が交代で各地区の出れる人（3-4 人）
　頻度（時期）：3 か月に 1 回（一人あたり年 1 回）
　内容：半日程度
　　草刈り、境内、階段の掃除
- 臨時管理（不定期）：なし

| 現在 |

- 日常管理
　参加者：二木島町、二木島町の一部住民（雇用制）
　　※報酬は氏子の年会費で賄う
　頻度（時期）：年 3-4 回程度（頻度は現在と変わらない）
　内容：以前と同様
- 臨時管理（不定期）：なし

文 1) 岡田照子、鬼頭秀明、櫻井治男、野村史隆 (2005)；平成 17 年ふるさと文化再興事業　三重の民俗行事報告書，pp. 42-44

維持管理費

不明

利用状況

毎月 1 日に参拝する人もおり、その際神社の様子を伺う

非日常時 ----------

｜以前｜

行事内容

日時：5 月 5 日　11 月 3 日

※昭和 43 年まで年 2 回

内容：午前 1:00 ～神事、その前後 2 隻の関船が 3 回競漕する。

祭り後、当屋宅で直会（地元では「沖上がり」と呼ばれる）

参加者：

人数	地元町民	近隣町民	元住民	外部
不明	○	○	○	×

運営（準備）

参加者：当屋

準備工程：

半年前～

・半年後の祭りの当屋をくじ引きで決める＠神社の境内

・注連つけ（当屋により半年間月 1 回ずつ行われ、祭り時に計 7 本揃う）

・甘酒づくり（のち清酒に変わる）

前日

・2 回（午後、夕方）儀式

・振舞いの準備

必要経費

経費種別：お供え、振舞い、神主へ謝礼

財源：当屋負担

｜祭りが中止となる直前（2000 年付近）｜

行事内容

日時：11 月 3 日

※昭和 45 年頃まで年 2 回（5/5、11/2）だったが担い手不足などを理由に変更。

内容：午前 8:00 神事、その前後 2 隻の関船が 3 回競漕する。

祭り後、二木島町民会館で直会（20 年程前までは当屋宅）

参加者：漕ぎ手不足から他地域から協力を得ている。

研究者やネットから情報を得た人が都心からも来る。

人数	地元町民	近隣町民	元住民	外部
200 人程度	○	○	○	○

運営（準備）

参加者：地域全体（神社役員）

準備工程：

10 日前

・当屋を決める

・注連つけ（簡略化され 10/28 にまとめて行われる）

前日

・2 回（午後、夕方）儀式（儀式の内容は年々簡略化された）

・振舞いの準備（仕出しが増える）

必要経費

経費種別：お供え、振舞い、神主へ謝礼

財源：各戸からの寄付

※以前は当屋制であったが、平成 5 年からは各戸が「志祭」として一定負担する制度へと変更

｜現在（祭り中止後）｜

行事内容

日時：11 月 3 日

内容：神事は存続しているが、所作は簡略化している。直会もない。

参加者：神社役員数名

人数	地元町民	近隣町民	元住民	外部
数名程度	△※	×	×	×

※神社役員だけが参加し、そのほかの住民は参加しない

運営（準備）

参加者：神社役員数名

準備工程：不明

必要経費

不明

競漕する 2 隻の関船[文 1)]

神役の子供[文 2)]

文 1) 熊野市広報提供

文 2) 東紀州 IT コミュニティ（2010）；11/3 二木島祭り（今年で休止）くまどこ（参照 2018/2/4）
〈http://blog.goo.ne.jp/kumadoco/e/72ea7811080ff1e0a140583a6079651d〉

簡略化・消滅した行事

・祭りの回数

昭和 43 年まで年 2 回していたが、その後 1 回だけに変更。

5 月 5 日の祭りの名残として 5 月 4 日に漁協組合主催で「子供舟漕ぎ祭り」が行われていたが、平成 12 年に中学生の数か足りず中止となった。

その後、平成 14 年に熊野市や周辺地域も協力して「ほうばい祭り※」が行われている。

・当屋制

以前は厳格な当屋制であったが、労働面、金銭面での個人的負担の大きさから
地域全体で負担するように変化。（※平成 5 年から「志祭」の導入）

・儀式一連

当屋を決める時期が半年前から数日前まで遅れていったことで、
その間の儀式も簡略化していった。

・舟漕ぎ手の年齢

舟漕ぎ手は以前は青年であったが、高齢化に伴う漕ぎ手不足から年齢を引き下げた。
（2000 年には中学生も参加）

※ほうばい祭り

日時：5 月 4 日 10:00 ～ 14:30

会場：二木島魚市場・熊野漁協二木島支所周辺

平成 14 年より熊野市や周辺地域（遊木町）も協力して「ほうばい祭り」が行われている。昨年で第 16 回を記録し、毎年数千人規模の観光客が訪れる祭りとなっている。

祭りでは、町外の各地域との交流を深めて融和・団結を図るために、地元特産品の販売や各地区によるフリーマーケット、海上綱渡り大会など、漁村ならではの催し物が行われる。

会場綱渡り[文 1)]

関船体験乗船[文 1)]

---

1) 東紀州 IT コミュニティ（2016）; 5/4 ほうばい祭り（熊野市二木島町）くまどこ（参照 2018/2/4）
<http://blog.goo.ne.jp/kumadoco/e/2cbaeabfb85d21d9cbc60417a601986a>

最明寺

日時：2017/12/26　15:00-17:30
対象者:竹内捷二氏（二木島町住民（元郵便局員、現在は熊野古道語り部として活動中））

所在地：三重県熊野市二木島町 1062

住職：常駐

檀家：二木島町、二木島里町住民

宗派：曹洞宗

日常時

管理（掃除）制度

- 日常管理

参加者：住職、檀家、婦人会

頻度（時期）：住職と檀家総代が相談して決める

内容：同上

- 臨時管理（不定期）：なし

維持管理費

経費種別：建物の修繕費

（以前の修繕の際、新築にする話だったが歴史的価値から修繕することに）

財源：檀家の寄付

利用状況

不明

最明寺の内観と外観

非日常時 ----------

年間行事

大晦日、正月（1/15 半尚坊大祭）、両彼岸、盆（8/14 初盆（盆踊り））、冠婚葬祭

行事内容｜初盆

日時：8 月 14 日

内容：供養

19:00-21:00 盆踊り＠二木島里町の船着場（50 年ほど前までは境内）

※昔は一晩中していたが、現在は 2-3 時間カラオケ大会

参加者：毎年 12-13 軒程度とその親族が参加（帰省者が多い）

人数	地元町民	近隣町民	元住民	外部
30 人程度	○	×	△※	×

※故人の親族、関係者

運営（準備）

参加者：各家

準備工程：

前日～当日

・提灯、飾り、お供えの準備

・盆踊りの設営

必要経費

経費種別：住職への謝礼、提灯、飾り、お供えの準備

財源：各家で負担

行事内容｜半尚坊大祭

日時：1 月 15 日　※日程は曜日で前後する

内容：住職が大般若の御祈祷

以前は簡単な食事や酒が振る舞われたが、今年から省略される。

参加者：帰省者も参加

人数	地元町民	同町他区民	元住民	外部
20-30 人程度	○	×	○	×

運営（準備）

参加者：住職、役員、親族、婦人会

準備工程：不明

必要経費

不明

簡略化・消滅した行事

・半尚坊大祭後の食事会

今年から省略される。

・盆踊り

50 年前までは境内で行われたが、現在は二木島里町の船着場で行われる。

内容も盆踊りからカラオケへと変化し、参加者も帰省者が多い。

二木島町公民館

日時：2017/12/26　15:00-17:30
対象者:竹内捷二氏（二木島町住民（元郵便局員、現在は熊野古道語り部として活動中））

所在地：三重県熊野市二木島町 574-2
所有：熊野市
設立年：不明
管理者：常駐しない

管理（掃除）制度

- 日常管理
参加者：施設利用者（老人会、敬老会など）
頻度（時期）：施設利用時
内容：建物中の掃除
- 臨時管理（不定期）
参加者：社協などから出れる人
頻度（時期）：年 1 回（盆前）
※盆前の町全体の掃除（各家回りの掃除）と合わせて行う
内容：建物外の掃除（草刈り）

維持管理費

経費種別 :①建物修繕費　②光熱水費、消耗品
財源 :①→熊野市　②→施設利用料

利用状況

利用用途：
・会合（役員会）
・高齢者サロン / 熊野市健康・長寿課
・体操教室

利用内容｜高齢者サロン

日時：毎月第 1 火曜日 10:00 ～ 11:30
内容：健康チェック（血圧測定、尿検査）、ゲーム、工作など
※参加費無料
準備：職員（地元の負担はない）
参加者：概ね 65 歳以上の方が対象

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	×	×

二木島漁村センター

日時：2017/12/26　15:00-17:30
対象者:竹内捷二氏（二木島町住民（元郵便局員、現在は熊野古道語り部として活動中））

所在地：三重県熊野市二木島町 530-3

所有：漁業協同組合

設立年：1986 年

管理者：常駐しない

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）：なし

利用状況

建設当初からほぼ利用されていない

漁村センター外観

漁村センター内観

二木島里町民会館

日時：2017/01/21　14:00-15:00
対象者：細川三郎氏（老漁師）、細川たつえ氏（三郎氏の妻）

所在地：三重県熊野市二木島里町

所有：不明（民営）

設立年：不明

管理者：常駐しない

管理（掃除）制度

- 日常管理

参加者：施設利用者

頻度（時期）：施設利用時

内容：建物中の掃除

- 臨時管理（不定期）：不明

維持管理費

不明

利用状況

不明

阿古師神社

日時：2017/01/21　14:00-15:00
対象者：細川三郎氏（老漁師）、細川たつえ氏（三郎氏の妻）

所在地：三重県熊野市甫母町 609
所有：甫母町
所属：神社本庁
神職：不在
氏子：二木島町、二木島里町住民
御祭神：三毛入野命、天照皇大神、大山祇命、蛭子命、倉稲魂命
祭祀：5 月 5 日　11 月 3 日

歴史的背景

※二木島町「室古神社」と同様。（p. ○○参照）

日常時

管理（掃除）制度

阿古師神社の社殿と境内

｜祭り中止以前（～ 2010 年）｜

－日常管理

参加者：当屋
頻度（時期）：月 1 回（毎月 1 日）
内容：掃除、榊や御神酒を代える

－臨時管理（不定期）

参加者：当屋
頻度（時期）：年 2 回（祭りの前）
内容：祭りの準備

｜現在｜

－日常管理

参加者：神社役員※(5 人)
※神社役員は総代長 1 人とその他役員 4 人から構成され、2 年に一度選挙で決められる。
頻度（時期）：月 1 回（毎月 1 日）
内容：以前と同様

－臨時管理（不定期）：不明

維持管理費

経費種別：建物修繕費
財源：氏子からの寄付

利用状況

月 1 回の掃除時と正月に参拝する。不定期に釣り客が参拝する。

非日常時

｜祭り中止以前（～ 2010 年）｜

※二木島町「室古神社」と同様。（p. ○○参照）

｜現在（祭り中止後）｜

2010 年の祭り中止以降、神事も行われていない。
※志祭:現在は集めておらず、建物の修理等で必要な際は氏子からの寄付か賽銭で賄う。

海禅寺・妙見神社（神仏習合）

日時：2017/01/21　14:00-15:00
対象者：細川三郎氏（老漁師）、細川たつえ氏（三郎氏の妻）

所在地：三重県熊野市甫母町 264

住職：常駐しない

※他寺院（三木里町）と兼務

※3-4 年前まで常駐していたが三木里へ移住

檀家：甫母町住民

宗派：曹洞宗

日常時

管理（掃除）制度

- 日常管理：なし
- 臨時管理（不定期）

参加者：参加可能な甫母町住民全員

頻度（時期）：年 2 回（盆、正月）

※盆前には町内清掃も行われ、甫母町住民は全員参加する。（道路や学校の草刈り）

内容：掃除、草刈り

維持管理費

経費種別：建物の修繕費

財源：檀家の寄付

利用状況

不明

非日常時

年間行事

大晦日、正月（1/18 妙見様）、両彼岸、盆（初盆（8/13-15 盆踊り））、冠婚葬祭

海禅寺の地蔵様

海禅寺の裏手の高台に位置する妙見神社

行事内容｜妙見様

日時：1 月 18 日

内容：8:00 集合

9:00 読経

12:00-15:00 餅ほり、直会@海禅寺の中

参加者：甫母町住民

人数	地元町民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	○	×

運営（準備）

参加者：当番制（甫母町住民の中で毎年持ち回り）

準備工程：

1 週間前～@海禅寺

・もち米をご祈祷し、甫母の人に配る（4-5 人）/1 週間前

・妙見様の準備（5 人）/3 日前

・もちつき（8 人）/2 日前

・振舞いの準備（8-10 人）/ 前日～当日

必要経費

経費種別：住職への謝礼

財源：会計に含まれる

行事内容｜盆踊り（初盆）

日時：8 月 13 日～ 15 日

内容：供養（故人の親族、関係者は 7 日間毎日参拝する）

8 月 13 日～ 15 日※ 18:00 ～ 20:00　盆踊り@海禅寺の境内

※昔は三日三晩していたが、現在は 8/13-15 のうち 2 日間行う。

8 月 15 日 24:00 ～　精霊舟

（亡くなった方に各一隻ずつ舟をつくり、その中にお供えを入れて送り出す儀式）

参加者：甫母町住民と帰省者

人数	地元町民	近隣町民	元住民	外部
200-300 人程度	○	×	○	×

運営（準備）

参加者：各家

準備工程：

前日～当日

・提灯、飾り、お供えの準備

・振舞い

・盆踊りの矢倉の設営（盆踊り参加者で行う）

必要経費

経費種別：住職への謝礼、提灯、飾り、お供えの準備

財源：各家で負担

甫母須野漁村センター

日時：2017/01/21　14:00-15:00
対象者：細川三郎氏（老漁師）、細川たつえ氏（三郎氏の妻）

所在地：三重県熊野市甫母町 300
所有：漁業協同組合
設立年：1994 年
管理者：常駐しない

管理（掃除）制度

- 日常管理
参加者：施設利用者（漁協関係者）
頻度（時期）：施設利用時
内容：建物中の掃除
- 臨時管理（不定期）：なし

維持管理費

不明

利用状況

利用用途：
・漁協関係の総会
・総会（年 1 回（1/6））（会計報告、役員選挙などすべてを決める）
※本施設は基本的に漁協関係で利用されるが、年 1 回の総会だけ集会所が遠いなどの理由からこちらで行われる。

甫母集会所

日時：2017/01/21　14:00-15:00
対象者：細川三郎氏（老漁師）、細川たつえ氏（三郎氏の妻）

所在地：三重県熊野市甫母町 293-3
所有：不明
設立年：不明
管理者：常駐しない

日常時

管理（掃除）制度
- 日常管理
参加者：施設利用者
頻度（時期）：施設利用時
内容：建物中の掃除
- 臨時管理（不定期）：なし

維持管理費
不明

利用状況
利用用途：
・高齢者サロン、体操教室 / 熊野市健康・長寿課
・カラオケ大会（第 1 回）
利用回数 / 延べ利用者数：民営のため記録なし

利用内容①｜カラオケ大会
日時：2017 年 11 月 10 日（第 1 回）
内容：カラオケ大会　※甫母町担当の社協役員からの提案で、昨年初めて実施された。
参加者：甫母町住民全員

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
100 人程度	○	×	×	×

利用内容②｜高齢者サロン
日時：毎月第 2 水曜日 10:00 ～ 11:30
内容：健康チェック（血圧測定、尿検査）、ゲーム、工作など
※参加費無料
準備：職員（地元の負担はない）
参加者：概ね 65 歳以上の方が対象

人数	地元区民	同町他区民	元住民	外部
不明	○	×	×	×